

福岡県立大学中期計画に関わる 自己点検・評価報告書

**平成28年 6月
公立大学法人福岡県立大学**

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	8,530,220,100円(全額 福岡県出資)
沿 革	昭和20年(1945)4月 福岡県立保健婦学校開設 昭和27年(1952)7月 福岡県立保育専門学院開設 昭和42年(1967)4月 福岡県社会保育短期大学(保育科、社会福祉科)開学 平成 4年(1992)4月 福岡県立大学(人間社会学部)開設 平成 9年(1997)4月 大学院人間社会学研究科(修士課程)開設 平成15年(2003)4月 看護学部開設 平成18年(2006)4月 公立大学法人福岡県立大学に移行 平成19年(2007)4月 大学院看護学研究科(修士課程)開設
法人の目標	公立大学法人福岡県立大学は、社会の要請に応え、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを使命とする。 特に次の取組については、中期目標期間6年間の重点事項とする。 ・人間社会学部と看護学部の連携により魅力ある福祉系総合大学の教育システムを構築する。 ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動を推進する。 ・専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。 ・地域に貢献する大学としての認知度を高める。 1 教 育:保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。 ・特色ある教育の展開 ・教員の教育能力の向上 ・意欲ある学生の確保 ・学生支援の充実 2 研 究:大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。 3 社会貢献:大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。 4 業務運営:理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。 5 財務:経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。 6 評価及び情報公開:評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。 ・評価 ・情報公開
法人の業務	1 福岡県立大学を設置し、これを運営すること。 2 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

2. 組織・人員情報				
(1) 役員				
役員の定数は、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また、役員の任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。				
役職	氏名	任期	主な経歴	
理事長(学長)	柴田 洋三郎	平成24年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和46年 3月	九州大学医学部卒業
			昭和56年 7月	シカゴ大学客員准教授
			昭和63年 9月	九州大学教授
			平成 8年 9月	九州大学学生部長
			平成 9年 4月	九州大学副学長(～平成14年3月)
			平成15年10月	九州大学副学長
			平成16年 4月	九州大学理事・副学長
			平成22年 4月	独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官
			平成24年 4月	公立大学法人 福岡県立大学 理事長・学長
副理事長	松 本 次 好	平成27年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和53年 4月	文部省入省
			平成18年 4月	九州大学総務部長
			平成20年 4月	島根大学理事・副学長・事務局長
			平成24年 2月	福岡教育大学理事・副学長
			平成25年 2月	環太平洋大学事務局長
			平成27年 4月	公立大学法人福岡県立大学 副理事長
常務理事(事務局長)	吉 村 静 男	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和53年 4月	福岡県採用
			平成15年 4月	漁政課長
			平成23年 4月	人事委員会次長
			平成25年 4月	水資源対策長
			平成27年 4月	公立大学法人福岡県立大学 常務理事(事務局長)
理事(学外)	麻 生 泰	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和54年12月	麻生セメント(株)取締役社長
			昭和56年 4月	(社)経済団体連合会理事
			昭和59年 4月	(社)セメント協会副会長
			平成 2年 4月	(社)経済団体連合会評議員
			平成 8年12月	飯塚商工会議所会頭
			平成11年 1月	慶應義塾監事
			平成13年 8月	新・麻生セメント(株)代表取締役社長
			平成18年 4月	公立大学法人福岡県立大学理事
			平成22年 6月	(株)麻生 代表取締役会長
			平成25年 6月	(一社)九州経済連合会会長
理事(学外)	芳 賀 晟 壽	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和51年 1月	(社)北九州青年会議所理事長
			昭和56年 8月	(株)芳賀代表取締役社長・会長
			昭和56年12月	芳賀教育文化振興会理事長
			昭和62年10月	福岡県教育委員会委員・委員長
			平成 2年11月	社会福祉法人年長者の里理事長
			平成 3年 7月	北九州商工会議所常議員
			平成14年10月	(社)北九州高齢者福祉事業協会会長
			平成18年 4月	公立大学法人福岡県立大学理事
			平成20年 4月	北九州市社会福祉協議会会長

理事(学内)	石 崎 龍 二	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	平成 5年 3月 九州大学理学研究科博士後期課程修了 平成 6年 4月 福岡県立大学助手 平成12年 4月 福岡県立大学助教授 平成25年 4月 福岡県立大学人間社会学部教授 平成26年 4月 福岡県立大学教員兼務理事					
理事(学内)	松 浦 賢 長	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	平成 2年 3月 東京大学医学系研究科博士課程修了 平成 3年 3月 カリフォルニア大学バークレー校研究助手 平成 5年 4月 京都教育大学教育学部助教授 平成 9年 3月 カリフォルニア大学バークレー校客員研究員 平成15年 4月 福岡県立大学看護学部教授 平成20年 4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属図書館長 平成22年 4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属研究所長 平成25年 4月 福岡県立大学教員兼務理事					
監事	古 本 栄 一	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	平成 6年 4月 弁護士開業 平成21年 2月 古本法律事務所開設 平成24年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事					
監事	本 田 征 洋	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和44年 9月 昭和監査法人入所 昭和53年 7月 監査法人中央会計事務所入所 昭和54年 4月 公認会計士・税理士本田征洋事務所開業 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事					
(2)教員								
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
教員数	常勤(正規)	109人	110人	110人	110人	102人	104人	
	内 訳	教授	30人	28人	26人	28人	23人	23人
		准教授	31人	28人	34人	32人	31人	32人
		講師	19人	25人	20人	20人	22人	23人
		助教	12人	15人	17人	19人	21人	21人
		助手	17人	14人	13人	11人	5人	5人
	非常勤講師	115人	109人	125人	134人	123人	165人	
合 計		224人	219人	235人	244人	225人	269人	
教員数増減の主な理由								
非常勤講師数が増加しているのは、平成27年度から大学院看護学研究科に助産学コースを開講したこと等による。								

(3)職員										
			平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人		
	正規職員	県派遣	20人	20人	18人	15人	13人	13人		
		プロパー	0人	0人	2人	5人	7人	7人		
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	0人		
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人		
	計		20人	20人	20人	20人	20人	20人		
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時		8人	8人	10人	11人	11人	13人		
合計		29人	29人	31人	32人	32人	34人			
職員数増減の主な理由										
(4)法人の組織構成										
別紙のとおり										
3. 学生に関する情報										
関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率	定員充足率の推移 (%)					
				(b)/(a) × 100	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
人間社会学	計	630名	703名	112%	117	118	116	115	113	112
内訳	人間社会学部	600名	674名	112%	116	118	117	116	115	112
	公共社会学科	200名	225名	113%	116	118	118	119	116	113
	社会福祉学科	200名	225名	113%	116	116	117	116	118	113
	人間形成学科	200名	224名	112%	118	120	116	115	110	112
	大学院 人間社会学研究科	30名	29名	97%	130	120	90	90	90	97
看護学部	計	374名	378名	101%	102	99	100	102	100	101
内訳	看護学部	350名	354名	101%	104	101	99	102	101	101
	看護学科	350名	354名	101%	104	101	99	102	101	101
	大学院 看護学研究科	24名	24名	100%	83	79	108	104	92	100
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由										

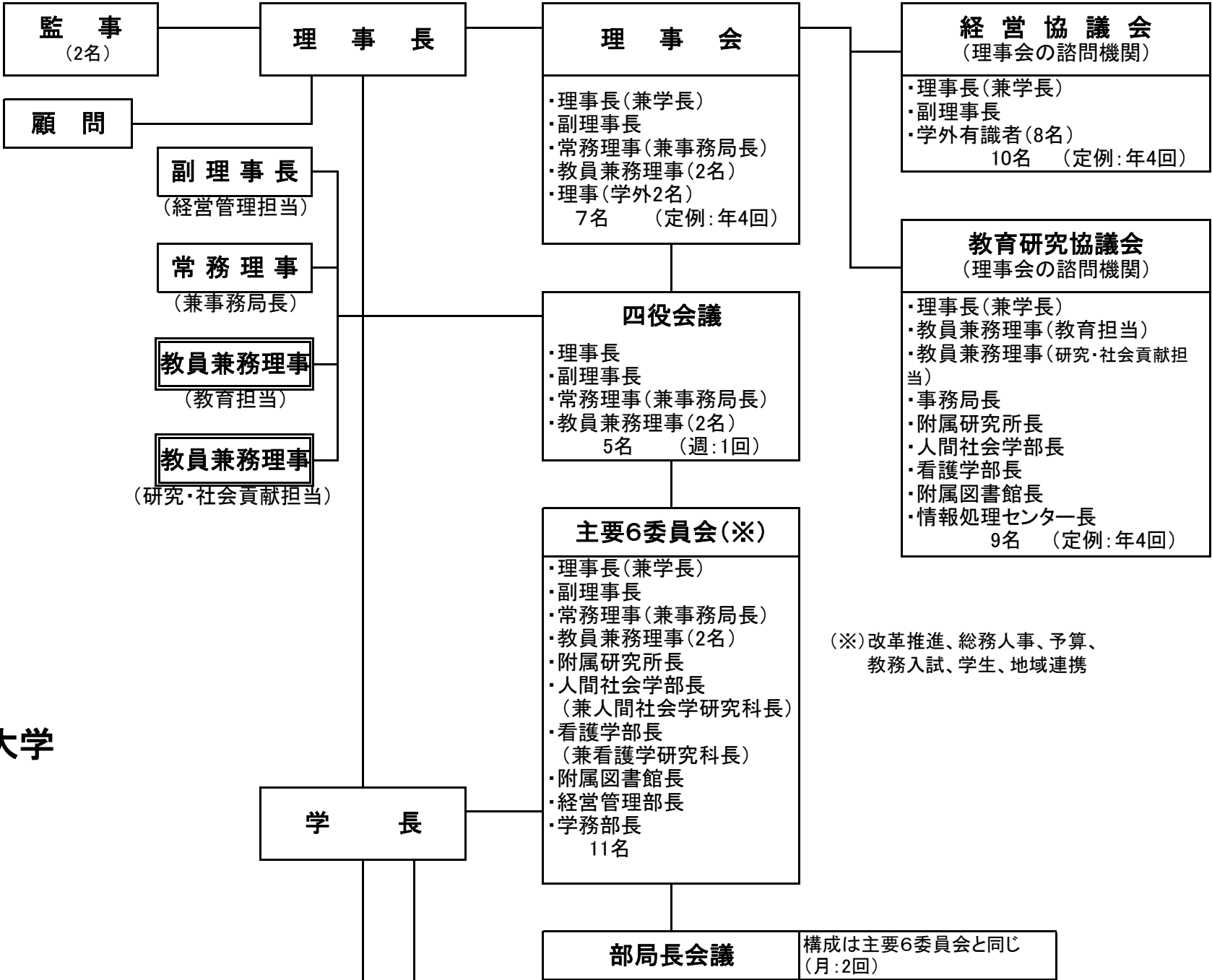
4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏 名	任 期	現 職
理事長	柴 田 洋 三 郎	平成24年4月1日～平成28年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長
副理事長	松 本 次 好	平成27年4月1日～平成28年3月31日	公立大学法人福岡県立大学副理事長
学外委員	秋 吉 一 明	平成26年4月1日～平成28年3月31日	福岡県立大学と共に歩む会 会長
	伊 藤 信 勝	平成26年4月1日～平成27年5月31日	田川市長
	二 場 公 人	平成27年6月1日～平成28年3月31日	田川市長
	川 上 鉄 夫	平成26年4月1日～平成28年3月31日	福岡県立大学同窓会 会長
	北 原 守	平成26年4月1日～平成28年3月31日	北九州市手をつなぐ育成会(親の会)会長
	清 澤 亨	平成26年4月1日～平成28年3月31日	福岡県立田川高等学校 校長
	齋 藤 明	平成26年4月1日～平成28年3月31日	独立行政法人大学入試センター 監事
	佐 渡 文 夫	平成26年4月1日～平成28年3月31日	田川商工会議所 会頭
	吉 村 恭 幸	平成26年4月1日～平成28年3月31日	(一財)福岡県社会保険医療協会 会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏 名	任 期	現 職
学長(理事長)	柴 田 洋 三 郎	平成24年4月1日～平成28年3月31日	理事長
学部長	田 中 哲 也	平成26年4月1日～平成28年3月31日	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
	永 嶋 由 理 子	平成26年4月1日～平成28年3月31日	看護学部長兼看護学研究科長
学内組織の長	石 崎 龍 二	平成26年4月1日～平成28年3月31日	教員兼務理事
	吉 村 静 男	平成27年4月1日～平成28年3月31日	事務局長
	田 中 美 智 子	平成26年4月1日～平成28年3月31日	情報処理センター長
	福 田 恭 介	平成26年4月1日～平成28年3月31日	附属研究所長
	細 井 勇	平成26年4月1日～平成28年3月31日	附属図書館長
	松 浦 賢 長	平成26年4月1日～平成28年3月31日	教員兼務理事

公立大学法人福岡県立大学組織図

平成27年4月1日現在

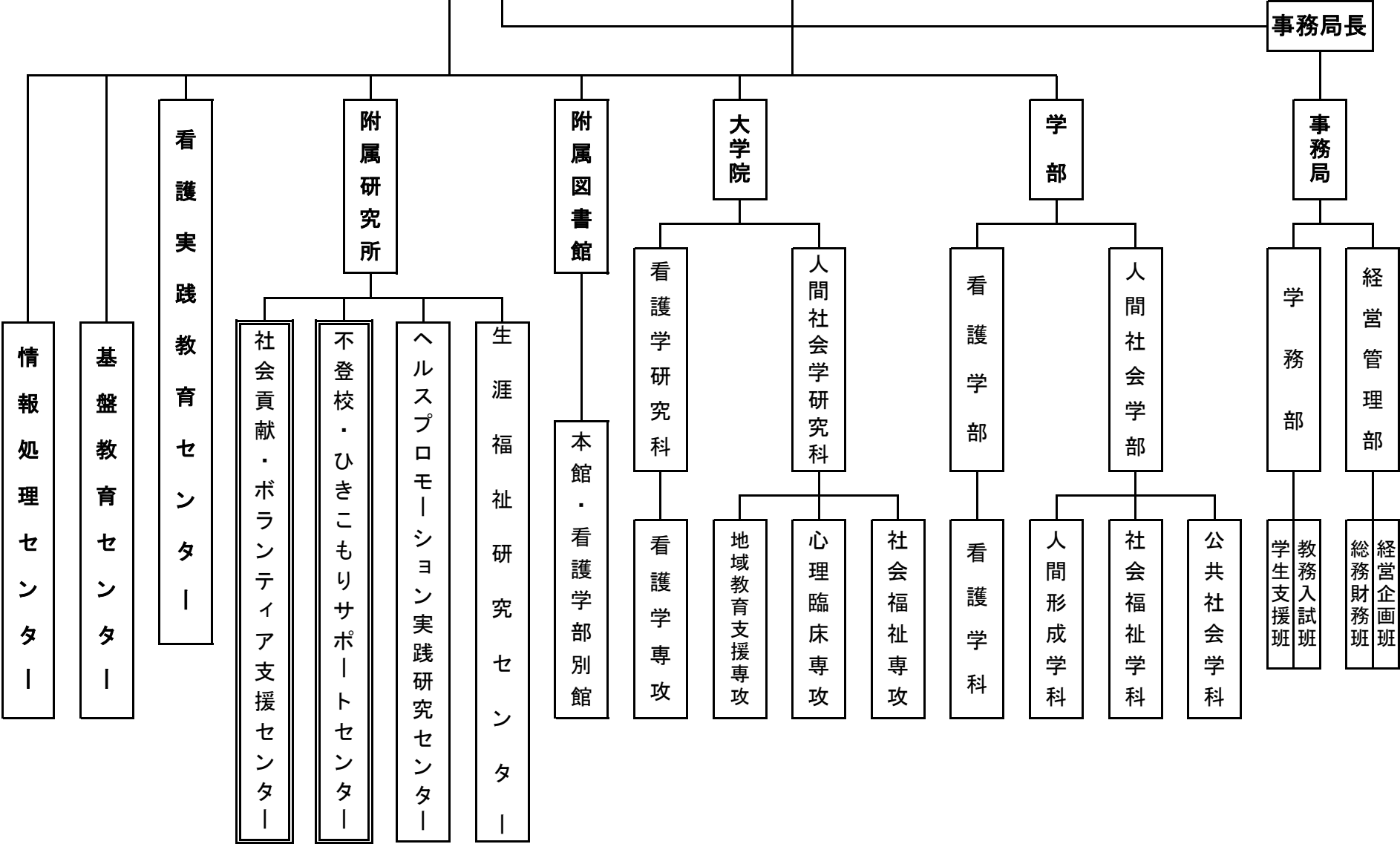
 : 理事長指名の役職者

法人



(※) 改革推進、総務人事、予算、教務入試、学生、地域連携

大学



全体評価

中期目標項目	法人自己評価
I.全体	【平成27年度】 学長のリーダーシップのもと、引き続き大学改革を推進しました。とくに学長主導のもと、これからの社会（少子高齢化社会、情報化社会、国際化社会、地域創生社会）を担う学生の汎用力を高めるための教育改革に取り組みました。平成27年度から「援助力養成プログラム」「国際交流プログラム」そして「キャリア形成支援プログラム」から構成される全学横断型教育プログラムを導入しました。本プログラムは、教員が学部学科コースの枠を越えてその教育にかかわることになりました。本プログラムは、本学の大きな特徴の一つとなりました。 入口管理は、質の高い学生確保のために、入試広報活動をスマートフォン対応をはじめとしたホームページ改革を中心に積極的に行いました。オープンキャンパス（2回）、入試説明会、高校訪問、高校教員情報交換会等を全学的に教職員協働で推進しました。新たに高校生を対象としたサマーセミナーを実施しました。その結果、オープンキャンパスの参加者は目標の約180%に達しました。入学者選抜試験における学部実質倍率は3.2倍となり、辞退率については21.5%という低率を達成しました。 出口管理は、学生委員会の下に位置づけられた進路・生活支援部会を中心に国家試験対策に取り組み、新卒者における看護師合格率は100%、保健師100%、社会福祉士73.1%、精神保健福祉士95.0%と高い合格率を達成することができました。就職対策は、学生支援班及びキャリアサポートセンターの積極的関与に加え、教員対象に早期からの就職状況開示を行うことにより課題意識の共有をはかり、その結果、就職率は98.6%と高い水準を達成しました。 教育は、教養教育、専門教育に加え、専門職連携入門を開講しました。また、e-ラーニングシステムの利用促進を図り、111コースを開設し、学生の利用率は87.0%となりました。新たに授業参観・公開授業を組み入れたFD活動を推進し、大学院FDの充実を図るとともに、学部では5回のFDセミナーを開催し、教育の質の向上に取り組みました。その結果、FD研修会等への教員参加率は85.2%となりました。学生の成績評価では引き続きシラバスの改善とGPA制度を実施し、GPA高得点の学生を卒業証書授与式で表彰し、一方、GPA低得点の学生全員を面接指導しました。 研究は、全学的に科研費申請支援のための説明会を行い、その上で申請に向け全教員に個別に働きかけるなど、科学研究費補助金の応募率・採択件数の向上を目指しました。その結果、獲得金額は49,104千円、平成28年度科学研究費応募率は94.3%となり、目標を上回る水準を維持しました。附属研究所4センターからなる調整部会の下に公開講座小部会を設け、学内の公開講座及び県立三大学共同の公開講座の企画運営にあたり、研究成果発表・還元等の地域貢献活性化を図りました。査読付き論文数は86件、招待講演等の学会発表数は9件となっています。 研究奨励交付金事業は、プロジェクト研究において地(知)の拠点作りを目指す大学としての取り組み(COC)と交流協定を締結している海外の5大学との共同研究を重点課題としました。また、科学研究費申請に向けた研究費補助制度を引き続き実施したことに加え、若手教員を対象にした研究奨励交付金制度を導入・開始し、さらに大学院生の研究助成及び学会発表支援についても開始するなど、研究を積極的に推進してきました。「教員免許状更新講習」は継続して実施しました。 公立大学法人である本学の役割は、福祉系総合大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成とともに地域密着型活動であります。地域貢献における各種活動を附属研究所4センターを中心に活発に行うことができました。 国際交流は、南京(ナンキン)師範大学、大邱(テグ)韓医大学校、北京中医薬大学(中国)、三育大学校(韓国)、コンケン大学(タイ)に、新たな協定校である威徳(ウイドウク)大学を加え、学生交流を中心に積極的に展開しました。受入留学生は25名となりました。また、短期研修制度(学生派遣)を威徳大学・大邱韓医大学校において実施しました。短期研修(大邱韓医大学校)の受入も初めて実施することができました。 総合的には、法人化中期計画第2期の4年目となり、第1期までの基盤整備の上に、継続した事業推進をするだけでなく、大学改革をガバナンス改革と教育・研究改革の両面にて推進し、本学の戦略的特徴を形作りつつ、強化すべき重点課題に取り組む体制を整備・運用できたと考えます。
	【中期目標期間(平成24～27年度)】 学長のリーダーシップのもと、大学改革を推進しました。平成25年度には大学のミッションを内外に打ち立てる大学憲章を制定しました。また同年には教員表彰制度を導入し、外部評価重視の姿勢を打ち出しました。平成26年度にはガバナンス改革として、全部会を主要5委員会の下に位置づけ、意志決定のプロセスを明確にし、委員会・部会を活性化しました。同年、教員個人業績評価における学長裁量枠を確保し、新たな評価方法によって個人業績評価を行いました。平成27年度には学長主導のもと、これからの社会（少子高齢化社会、情報化社会、国際化社会、地域創生社会）を担う学生の汎用力を高めるための教育改革に取り組みました。平成27年度から「援助力養成プログラム」「国際交流プログラム」そして「キャリア形成支援プログラム」から構成される全学横断型教育プログラムが導入されました。本プログラムは、教員が学部学科コースの枠を越えてその教育にかかわることになり、本学の大きな特徴の一つとなりました。 入口管理は、質の高い学生確保のために、スマートフォン対応をはじめとしたホームページ改革を中心に入試広報活動を積極的に行いました。オープンキャンパス、入試説明会、高校訪問等を全学的に教職員協働で推進しました。平成26年度からは高校教員との情報交換会を開催し、平成27年度からは高校生を対象としたサマーセミナーを新たに開始しました。その結果、オープンキャンパスの参加者は平成27年度には目標の約180%に達しました。入学者選抜試験における学部実質倍率は平成27年度に3.2倍となり、辞退率については21.5%という低率を達成しました。 出口管理は、学生委員会の下に位置づけられた進路・生活支援部会を中心に国家試験対策に取り組み、平成27年度には新卒者における看護師合格率は100%、保健師100%、社会福祉士73.1%、精神保健福祉士95.0%と高い合格率を達成することができました。就職対策は、学生支援班及びキャリアサポートセンターの積極的関与に加え、教員対象に早期からの就職状況開示を行うことにより課題意識の共有をはかり、その結果、平成27年度の就職率は98.6%と高い水準を達成しました。 教育は、教養教育、専門教育に加え、両学部の連携授業である「専門職連携入門」を開講しました。また、e-ラーニングシステムの利用促進を図り、100を超えるコースを毎年度開設し、学生の利用率は平成27年度には87.0%となりました。平成26年度からは新たに授業参観・公開授業を組み入れたFD活動を学内で推進し、5回の学部FDセミナーを開催しました。FD研修会等への教員参加率は平成27年度には85.2%となりました。学生の成績評価ではGPA制度を活用し、GPA高得点の学生を卒業証書授与式で表彰し、一方、GPA低得点の学生全員を面接指導しました。 研究は、全学的に科研費申請支援のための説明会を毎年度行い、その上で申請に向け全教員に個別に働きかけるなど、科学研究費補助金の応募率・採択件数の向上を目指しました。その結果、平成27年度の獲得金額は49,104千円、平成28年度科学研究費応募率は94.3%となり、目標を上回る水準を維持しました。附属研究所4センターからなる調整部会の下に公開講座小部会を設け、学内の公開講座及び県立三大学共同の公開講座の企画運営にあたり、研究成果発表・還元等の地域貢献活性化を図りました。平成27年度には査読付き論文数は86件、招待講演等の学会発表数は9件となっています。

	研究奨励交付金事業は、プロジェクト研究において地(知)の拠点作りを目指す大学としての取り組み(COC)と交流協定を締結している海外の5大学との共同研究を重点課題としました。また、科学研究費申請に向けた研究費補助制度を平成26年度から開始したことに加え、若手教員を対象にした研究奨励交付金制度を導入・開始し、さらに大学院生の研究助成及び学会発表支援についても開始するなど、研究を積極的に推進してきました。「教員免許状更新講習」は毎年実施しました。 公立大学法人である本学の役割は、福祉系総合大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成とともに地域密着型活動であります。地域貢献における各種活動を附属研究所4センターを中心に活発に行うことができました。 国際交流は、南京(ナンキン)師範大学、大邱(テグ)韓医大学校、北京中医薬大学(中国)、三育大学校(韓国)、コンケン大学(タイ)に、平成27年度からの新たな協定校である威徳(ウイドウク)大学を加え、学生交流を中心に積極的に展開しました。受入留学生は平成27年度には25名となりました。また、平成26年度から短期研修制度(学生派遣)を韓国の協定校の協力を得て実施しました。短期研修(大邱韓医大学校)の受入も平成27年度に初めて実施することができました。 総合的には、法人化中期計画第2期の1～4年目を終え、第1期までの基盤整備の上に、継続した事業推進をするだけでなく、大学改革をガバナンス改革と教育・研究改革の両面にて推進し、本学の特徴を戦略的に、積極的に形作りつつ、強化すべき重点課題に取り組む体制を整備・運用できたと考えます。
Ⅱ 中期目標項目別 1.教育	【平成27年度】 1 教養教育の充実については、教養科目の新たなカテゴリーを決定し、平成29年度の実施を予定しています。教養演習に関しては、担当者向けのワークショップを行いました。また、教養演習テキストについては、大幅な改訂・出版の方針を決定しました。教養演習英語クラスを開講しました。語学教育充実の一環として「Advanced English Achievement」を平成28年度から新規開講することを決定しました。 2 両学部の専門教育の充実については、人間社会学部では、専門性を高めるため、学科制からコース制への移行にともない、各コースのカリキュラムの見直しを行い、実施しました。看護学部では、学生から新カリキュラムの前期・後期科目について調査を行い、28年度のシラバスに反映させました。東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラム「東洋看護学演習」については、国内の補完代替医療の専門家による前期授業に切り替えを行いました。実習教育の充実のため、人間社会学部では3学科がそれぞれの実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにするための話し合いの場を設定しました。看護学部では実習指導者連絡会議の内容を部会で検討し、「よりよい実習にするための大学と臨床との情報共有」というテーマで会議を開催しました。両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進として、「専門職連携入門」を単位化し、後期に開講しました。「社会貢献論」と「不登校・ひきこもり援助論」に関しては、外部講師と学内教員の担当の見直しを行い、内容の充実を図りました。両研究科の専門教育の充実については、人間社会学部研究科では、地域教育支援専攻の学生募集を停止するとともに、地域のニーズに対応できる新たな専攻内容として「子ども教育専攻」案を作成し届出に必要な作業を完成させました。看護学研究科では専門看護師コースの充実の一環として、「老年看護コース」「助産学コース」を開講しました。他大学との連携による教育の充実を目指して、人間社会学部では高度なインターンシップ活動について、連携3大学を中心として新たなモデルプログラムの開発を行いました。看護学部では「ケアリングアイランド九州沖縄構想コンソーシアム」を基にした連携事業において、予定を早めて8大学の単位互換・相互受講の制度を運用しました。 3 学生による授業評価アンケートによる授業改善については、学部FD部会と教務部会による合同会議を開催し、授業評価アンケートの内容について見直しました。学生座談会を開催し、授業評価に対する学生のニーズ把握を行いました。平成28年度から改訂した授業評価アンケートを用いることとしました。 4 アウトカム評価システムについては、新たに両学部各学科のキャリア就職支援講座等の年間予定をまとめ、キャリア就職支援年間スケジュール(一覧表)を作成し、学生が参照できるよう電子掲示板にアップしました。また、学生支援班が卒業予定者の就職活動状況を集約し、支援が必要な学生に対し情報提供や個別指導を行いました。国家試験対策として、模擬試験、個別指導、学習会開催、学習環境整備等を実施しました。その結果、国家試験合格率はいずれも全国平均を上回りました。 5 教員の教育能力の向上については、両学部でFDセミナーを開催しました。本学の教育をより良くするためのワークショップを行いました。授業参観および公開授業を実施しました。両研究科ではFDセミナー実施、学外セミナーへの教員派遣とともに、大学院生にアンケートを実施し、大学院生によるFD会議を開催しました。他大学や実習先職員との合同研修による教師力向上戦略の実施として、人間社会学部では合同研修会を行い、九州ブロック研究大会の企画に携わりました。看護学部では臨床教授との合同講習会や、他大学との研修会を開催しました。 6 優秀な学生の確保については、入試形態などと入学後の成績や進路状況との関連について分析を行い、現行の入学者選抜方法における課題抽出を行いました。新たな高大連携事業の一つとして、高校生向けサマーセミナーを実施しました。また、高校教諭との情報交換会を実施しました。人間社会学部改革に基づいた人間社会学部アドミッションポリシー(再訂版)の積極的PRに取り組みました。学部入試部会に入試制度改善小部会を設置し、高大接続改革へ向けた検討を開始しました。大学院入試部会では現状分析を行い、学部学生に対する説明会、オープンキャンパス時の説明会を開催しました。積極的な広報活動として、入試説明会や高校訪問の改善について検討しました。大学紹介パンフレットの内容を、全学横断型教育プログラムの内容を盛り込むなど魅力あるものに改善しました。 7 学生支援の充実については、プレ・インターンシップ、実践型インターンシップ、職業選択準備型インターンシップといった各インターンシップ・プログラムに関する段階的プログラムマップを整備しました。大学コンソーシアムを基盤とした学生コンソーシアムの取り組みを推進しました。大学院生への支援として、研究助成金制度と国内学会参加補助金制度を運用しました。 8 学習環境の充実としては、IT教育システムの充実を図り、eラーニングシステム研修会の開催、システムの改善、開設コースの増加促進に取り組みました。社会人が学びやすい学習環境の充実のため、(公財)九州経済調査協会が運営する「BIZCOLI」を利用しています。図書館看護学部分館に設置されたラーニングコモンズの利用状況を確認し、ニーズ調査を実施しました。また、機関リポジトリ運営指針を改定し、両学部の研究紀要等を登録対象に追加しました。 9 人間社会学部の改革としては、まずは教員組織において、学科制度を廃止し、全教員を「人間社会学系」所属としました。また、既存の履修コースを「地域社会」、「社会福祉」、「こども」、「心理」コースへ再編するとともに、全学横断型教育プログラムを通した新たな履修コースとして「総合人間社会」コースを開設しました。さらに平成28年度開設の新プログラムとして、保健福祉情報教育プログラムのカリキュラムを作成しました。 10 両学部連携の大学院博士課程の新設については、全学横断型教育プログラムの構築と修士課程の再編を踏まえた議論を改革推進会議でおこない、引き続き検討することになりました。 実施事項別評価は、Aは4項目、Bは20項目とします。

【中期目標期間(平成24～27年度)】

- 1 教養教育の充実については、毎年度、教養科目の見直しについて検討し、平成29年度から新設科目「社会人基礎力演習」の開講を決定しました。他大学からも好評を得ている本学作成の教養演習テキストについては、大幅な改訂・出版の方針を決定しました。教養演習に英語クラスを設置しました。語学教育については、平成25年度より外部テストを導入しました。平成26年度から英語クラスを能力別に編成しました。また、「Advanced English Achievement」を平成28年度から新規開講することを決定しました。
- 2 両学部の専門教育の充実については、人間社会学部では、専門性を高めるため、学科制からコース制への移行にともない、各コースのカリキュラムの見直しを行い、実施しました。看護学部では、学生から新カリキュラムの前期・後期科目について調査を行い、28年度のシラバスに反映させました。東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラム「東洋看護学演習」については、国内の補完代替医療の専門家による前期授業に切り替えを行いました。実習教育の充実のため、人間社会学部では3学科がそれぞれの実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにするための話し合いの場を設定しました。看護学部では実習指導者連絡会議の内容を部会で毎年度検討し、よりよい会合を目指しました。両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進として、「専門職連携入門」を単位化し、平成27年度に開講しました。「社会貢献論」と「不登校・ひきこもり援助論」に関しては、毎年度外部講師と学内教員の担当の見直しを行い、内容の充実を図りました。両研究科の専門教育の充実については、人間社会学研究科では、平成27年度、地域教育支援専攻の学生募集を停止するとともに、地域のニーズに対応できる新たな専攻内容として「子ども教育専攻」案を作成し届出に必要な作業を完成させました。看護学研究科では専門看護師コースの充実の一環として、平成27年度に「老年看護コース」「助産学コース」を開講しました。他大学との連携による教育の充実を目指して、人間社会学部では高度なインターンシップ活動について、連携3大学を中心として新たなモデルプログラムの開発を行いました。看護学部では「ケアリングアイランド九州沖縄構想コンソーシアム」を基にした連携事業において、予定を早めて平成26年度より8大学の単位互換・相互受講の制度を運用しました。
- 3 学生による授業評価アンケートによる授業改善については、学部FD部会と教務部会による合同会議を開催し、授業評価アンケートの内容について見直しました。学生座談会を開催し、授業評価に対する学生のニーズ把握を行いました。平成28年度から改訂した授業評価アンケートを用いることとしました。
- 4 アウトカム評価システムについては、平成27年度に新たに両学部各学科のキャリア就職支援講座等の年間予定をまとめ、キャリア就職支援年間スケジュール(一覧表)を作成し、学生が参照できるよう電子掲示板にアップしました。また、学生支援班が卒業予定者の就職活動状況を集約し、支援が必要な学生に対し情報提供や個別指導を行いました。国家試験対策として、模擬試験、個別指導、学習会開催、学習環境整備等を実施しました。その結果、平成27年度には国家試験合格率はいずれも全国平均を上回りました。
- 5 教員の教育能力の向上については、毎年、FDセミナーを複数回開催しました。平成27年度にはこれまでのまとめとして本学の教育をより良くするためのワークショップを行いました。平成26年度より、授業参観および公開授業の仕組みを整備しました。両研究科では毎年度、FDセミナー実施、学外セミナーへの教員派遣とともに、大学院生にアンケートを実施し、大学院生によるFD会議を開催しました。他大学や実習先職員との合同研修による教師力向上戦略の実施として、臨床教授との合同講習会や、他大学との研修会を開催しました。
- 6 優秀な学生の確保については、平成26年度から入試形態などと入学後の成績や進路状況との関連について分析を行い、現行の入学者選抜方法における課題抽出を行いました。新たな高大連携事業の一つとして、平成26年度から高校生向けサマーセミナーを実施しました。また平成26年度から、高校教諭との情報交換会を実施しました。平成27年度、学部入試部会に入試制度改善小部会を設置し、高大接続改革へ向けた検討を開始しました。平成26年度から大学院入試部会では現状分析を行い、学部学生に対する説明会、オープンキャンパス時の説明会を開催しました。積極的な広報活動として、入試説明会や高校訪問の改善について検討しました。大学紹介パンフレットの内容を、全学横断的プログラムの内容を盛り込むなど魅力あるものに改善し続けました。
- 7 学生支援の充実については、プレ・インターンシップ、実践型インターンシップ、職業選択準備型インターンシップといった各インターンシップ・プログラムに関する段階的プログラムマップを平成27年度に整備しました。大学コンソーシアムを基盤とした学生コンソーシアムの取り組みを推進しました。大学院生への支援として、平成26年度から研究助成金制度と国内学会参加補助金制度を運用しました。
- 8 学習環境の充実としては、IT教育システムの充実を図り、eラーニングシステム研修会の開催、システムの改善、開設コースの増加促進に取り組みました。平成26年度より、社会人が学びやすい学習環境の充実のため、(公財)九州経済調査協会が運営する「BIZCOLI」を利用しています。図書館看護学部分館に設置されたラーニングコモンズの利用状況を確認し、よりよい運用を検討しました。また、機関リポジトリ運営指針を改定し、平成27年度から両学部の研究紀要等を登録対象に追加しました。
- 9 人間社会学部の改革としては、まずは教員組織において、平成27年度から学科制度を廃止し、全教員を「人間社会学系」所属としました。また、既存の履修コースを「地域社会」、「社会福祉」、「こども」、「心理」コースへ再編するとともに、全学横断型教育プログラムを通した新たな履修コースとして「総合人間社会」コースを開設しました。さらに平成28年度開設の新プログラムとして、保健福祉情報教育プログラムのカリキュラムを作成しました。
- 10 両学部連携の大学院博士課程の新設については、全学横断型教育プログラムの構築と修士課程の再編を踏まえた議論を改革推進会議でおこない、引き続き検討することになりました。

実施事項別評価は、Aは5項目、Bは19項目とします。

2. 研究	【平成27年度】 1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進については、以下の取組を行いました。 ① 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、成果を学内外に発表する方法について検討し、都留文科大学、福岡女子大学、下関市立大学、北九州市立大学より資料を収集し、ヒアリング調査をしました。協定校(大邱韓医大学校(4名)、北京中医薬大学、三育大学校(2名)、南京師範大学(3名)、コンケン大学)及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生(中国2名)、院生(韓国1名)の交流を促進するための学内分担や戦略について国際交流推進部会で協議を重ねました。学際的研究プロジェクト数が6件、産学官連携契約件数が6件、提携協定校との共同研究数は3件となりました。 ② 外部研究資金獲得の推進については、科研費応募率向上のための研修会を開催し、さらに個別の申請支援を行うことにより、科研費応募率が94.3%、科研費獲得件数34件、金額が49,104千円となり、目標を上回りました。 ③ 研究倫理の徹底については、オンライン研究倫理教育を受講できる体制を全教員、全大学院生に向けて整備しました。また、研究倫理審査の申請者についてはオンライン研究倫理教育の受講を義務づけました。若手研究者を対象としたセミナーを開催しました。また動物実験に関する委員会では、公私立大学実験動物施設協議会に入会し、動物実験に関する最新の情報と対応を得る体制を整えました。 実施事項別評価は、Bを3項目とします。 【中期目標期間(平成24～27年度)】 1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進については、以下の取組を行いました。 ① 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、成果を学内外に発表する方法について検討し(平成27年度)、都留文科大学、福岡女子大学、下関市立大学、北九州市立大学より資料を収集し、ヒアリング調査をしました。協定校(大邱韓医大学校、北京中医薬大学、三育大学校、南京師範大学、コンケン大学)及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関)との研究者や学生、院生の交流を促進するための学内分担や戦略について国際交流推進部会で協議を重ねました。平成27年度には、学際的研究プロジェクト数が6件、産学官連携契約件数が6件、提携協定校との共同研究数は3件となりました。 ② 外部研究資金獲得の推進については、科研費応募率向上のための研修会を開催し、さらに個別の申請支援を行うことにより、平成27年度には科研費応募率が94.3%、科研費獲得件数34件、金額が49,104千円となり、目標を上回りました。 ③ 研究倫理の徹底については、平成27年度にオンライン研究倫理教育を受講できる体制を全教員、全大学院生対象に整備しました。また、研究倫理審査の申請者についてはオンライン研究倫理教育の受講を平成27年度から義務づけました。若手研究者を対象としたセミナーを開催しました。また動物実験に関する委員会では、平成27年度に公私立大学実験動物施設協議会に入会し、動物実験に関する最新の情報と対応を得る体制を整えました。 実施事項別評価は、Aを1項目、Bを2項目とします。
3. 社会貢献	【平成27年度】 1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進については、以下の取組を行いました。 ① 国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討については、まず韓国の威徳大学と交流協定を締結しました。南京師範大学との教員の文化・学術交流事業推進の課題検討・対策のための体制を作りました。吉林大学珠海学院との協定締結に向け、同校を訪問し、協議を行いました。後藤寺小学校の総合学習に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施しました。協定締結校との文化・学術交流の実績としては、教員22名が交流し、文化交流プログラムを3回実施しました。 ② 留学生の支援体制の充実については、英国短期語学演習プログラムが福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択されました。交流協定校への短期派遣プログラムを、威徳大学と大邱韓医大学にて実施しました(学生11名参加)。韓国の大邱韓医大学から短期研修プログラムを1か月間受け入れました(10名受入)。受入留学生数は25名でした。 ③ 産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進については、田川市と共同で山本作兵衛コレクション保存管理計画を日本語と英語で作成し、英語版をユネスコに提出しました。 2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進については、以下の取組を行いました。 ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進については、田川市・福岡県立大学包括的連携協定に基づく連携事業(5件)が実施されました。県立三大学連携推進会議で協議し、各大学で実施予定の講演会、公開講座等の情報を共有しました。三大学連携公開講座の一環として、本学での公開講座に福岡女子大学から、福岡女子大学の公開講座に本学からそれぞれ教員が招聘されました。 ② 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施については、生涯福祉研究センターを中心に、相談事業の実施・拡充と地域活動の強化に取り組みました。ヘルスプロモーション実践研究センターを中心に、健康教室と相談事業を行いました。健康教室は11件開催しました。不登校・ひきこもりサポートセンターを中心に、県子どもサポーター派遣事業を行いました。延べ2,257人を派遣しました。キャンパススクール事業は延べ933人を対象としました。キャンパススクールの登校開始率は50%と比較的高い水準でした。社会貢献・ボランティア支援センターを中心に、外部団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、団体登録が163件、活動学生数が延べ509人となりました。 ③ 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施については、生涯福祉研究センターとヘルスプロモーション実践研究センターの2センターを中心とした取組を行いました。生涯福祉研究センターでは、特別支援教育に関するスキルアップ講座や、足と靴の健康講座等を実施しました。直方市で行ったペアレントトレーニング・スキルアップ講座は、直方市との共催事業として実施しました。ヘルスプロモーション実践研究センターでは、看護師・助産師・保健師を対象としたリカレント教育を6事業行いました。リカレント教育については、両学部合わせて55人の卒業生が参加しました。 ④ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略については、公開講座を3コース、計9回実施し、実受講者数は84名でした。山本作兵衛コレクションについては、保存・管理及び公開のための目録を作成するために、絵画4点について英文による説明を作成しました。 ⑤ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実については、リクルートのためのリカレント研修会をはじめとして、リカレント教育を実施しました。地域住民・企業を対象に、糖尿病予防等に関する出前講義を行い、165人の参加を得ました。リカレント研修会の参加人数は352人、認定看護師コースの入学試験倍率は0.89倍、認定審査合格率は100%となりました。 実施事項別評価は、Aは3項目、Bは8項目とします。

	【中期目標期間(平成24～27年度)】 1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進については、以下の取組を行いました。 ① 国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討については、平成27年度に韓国の威徳大学と交流協定を締結しました。南京師範大学との教員の文化・学術交流事業推進の課題検討・対策のための体制を平成27年度に作りました。吉林大学珠海学院との協定締結に向け、平成27年度に同校を訪問し、協議を行いました。平成26年度から後藤寺小学校の総合学習に留学生を派遣する文化交流プログラムを開始しました。平成27年度には、協定締結校との文化・学術交流の実績としては、教員交流が22名、文化交流プログラムが3回となりました。 ② 留学生の支援体制の充実については、英国短期語学演習プログラムが平成26年度、平成27年度と連続して福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択されました。交流協定校への短期派遣プログラムを、平成26年度、平成27年度、威徳大学と大邱韓医大学にて実施しました。平成27年度には、韓国の大邱韓医大学から短期研修プログラムを1か月間受け入れました。平成27年度の受入留学生数は25名となりました。 ③ 産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進については、平成27年度、田川市と共同で山本作兵衛コレクション保存管理計画を日本語と英語で作成し、英語版をユネスコに提出しました。 2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進については、以下の取組を行いました。 ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進については、田川市・福岡県立大学包括的連携協定に基づく連携事業が実施され、平成27年度には5件の事業となりました。県立三大学連携推進会議で連携した社会貢献の在り方を協議し、各大学で実施予定の講演会、公開講座等の情報を共有しました。平成27年度には、三大学連携公開講座の一環として、本学での公開講座に福岡女子大学から、福岡女子大学の公開講座に本学からそれぞれ教員が招聘されました。 ② 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施については、生涯福祉研究センターを中心に、相談事業の実施・拡充と地域活動の強化に取り組みました。ヘルスプロモーション実践研究センターを中心に、健康教室と相談事業を行いました。不登校・ひきこもりサポートセンターを中心に、県大子どもサポーター派遣事業を行いました。平成27年度には、延べ2,257人を派遣しました。また、キャンパススクール事業は延べ933人(平成27年度)を対象としました。キャンパススクールの登校開始率は平成27年度は50%と比較的高い水準でした。社会貢献・ボランティア支援センターを中心に、外部団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、平成27年度には団体登録が163件、活動学生数が延べ509人となりました。 ③ 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施については、生涯福祉研究センターとヘルスプロモーション実践研究センターの2センターを中心とした取組を行いました。生涯福祉研究センターでは、特別支援教育に関するスキルアップ講座や、足と靴の健康講座等を実施しました。直方市で行っているペアレントトレーニング・スキルアップ講座は、平成26年度から直方市との共催事業として実施しました。ヘルスプロモーション実践研究センターでは、看護師・助産師・保健師を対象としたリカレント教育を行いました。リカレント教育については、両学部合わせ55人の卒業生(平成27年度)が参加しました。 ④ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略については、平成27年度に公開講座を3コース、計9回実施し、実受講者数は84名でした。山本作兵衛コレクションについては、保存・管理及び公開のための目録を作成するために、絵画4点について英文による説明を平成27年度に作成しました。 ⑤ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実については、リクルートのためのリカレント研修会をはじめとして、リカレント教育を実施しました。地域住民・企業を対象に、糖尿病予防等に関する出前講義を行いました。認定看護師コースの入学試験倍率は平成27年度には0.89倍、認定審査合格率は100%となりました。 実施事項別評価は、Aは2項目、Bは9目とします。
4. 業務運営	【平成27年度】 1 運営体制の改善については、以下の取組を行いました。 ① 事務局機能の強化については、プロパー職員1名を採用し、学生支援班に配置しました。公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修に3名が参加しました。また、事務職員を対象としたSD研修を実施しました。データ交換等にファイル共有システムを積極的に活用しました。三大学経営管理部会議を開催しました。 ② 教員の士気を高める教育環境の整備については、教員表彰(ベストティーチャー)の公募を行い、1名を表彰対象としました。平成28年度新たに開設する大学院コースについて、教員の授業上限数改善を図りました。 ③ 教員の個人業績評価については、平成25年度に見直した教員個人業績評価基準に基づき、平成26年度分の個人業績評価を実施しました。 ④ リスクマネジメント体制の整備については、大学全体のマニュアルとなる「危機管理基本マニュアル」を2月に作成しました。 実施事項別評価は、Bを4項目とします。 【中期目標期間(平成24～27年度)】 1 運営体制の改善については、以下の取組を行いました。 ① 事務局機能の強化については、プロパー職員を計画どおり採用しました。事務局機能強化のため、平成25年度から総務、財務管理、教務企画の3班を経営企画、総務財務、教務入試の3班に再編しました。また、統一様式による業務マニュアルを作成し、共有ファイルシステムの運用を開始しました。 ② 教員の士気を高める教育環境の整備については、平成25年度より教員表彰(ベストティーチャー)の公募を行いました。教員の授業担当数調査をもとに平準化を進め、平成28年度新たに開設する大学院コースについて、教員の授業上限数改善を図りました。 ③ 教員の個人業績評価については、平成25年度に見直した教員個人業績評価基準に基づき、平成26年度分の個人業績評価を実施しました。 ④ 平成24年度に実施した他公立大学のリスクマネジメント体制の調査、潜在するリスクの洗い出し作業を基に、平成25年度に基本指針(案)、洗い出したリスク別の対応方法(案)を作成しました。平成26年度に基本指針及び危機管理規定を決定し、平成27年度に危機管理マニュアルを策定しました。 実施事項別評価は、Aを1項目、Bを3項目とします。

5. 財務	【平成27年度】 1 外部研究資金等の積極的確保については、自主財源基金スキームについて平成28年度実施に向けた検討を行いました。県大基金への寄付金等を増加させるための広報を「大学広報」に掲載しました。ホームページへの外部研究資金公募情報については、適宜掲載しました。科研費応募率向上のための研修会を開催し、高い応募率を得ました。 2 運営経費の削減・抑制については、以下の取組みを行いました。 ① 業務改善による経費の削減については、消耗品の集中発注システムを活用しました。空調管理の徹底、照明の間引き、昼休みの消灯、エレベーター稼働台数の削減等を実施しました。また、2度にわたり夏季の節電を呼びかけました。電力購入において入札を実施し、電気料金を約600万円削減できました。 ② 人件費の抑制については、退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮した教員採用を行いました(8名)。土日の時間外勤務について、週休日振替を徹底しました。その結果、時間外勤務時間数は、前年度比マイナスとなりました。 実施事項別評価は、Bを3項目とします。 【中期目標期間(平成24～27年度)】 1 外部研究資金獲得の推進については、支援部門設立ではなく、申請繁忙期に事務局機能を強化・充実することとして実施しました。ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めました。科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を開始しました。科研費応募率向上のための研修会は毎年度開催しました。 2 業務改善については、物品発注方法の見直しとして、消耗品の集中発注システムを導入し活用しました。アウトソーシング可能な業務の検討を行い、平成25年度から国際交流関係業務についてアウトソーシングを実施しました。退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、若手教員の採用に努めました。時間外勤務縮減の一環として、土日の時間外勤務における週休日振替の徹底を呼びかけ、効果を上げました。 実施事項別評価は、Aを1項目、Bを2項目とします。
6. 評価及び情報公開	【平成27年度】 1 自己評価の見直しについては、県評価委員会の評価結果について大学改革セミナーを開催し、全教職員に周知しました。教員の教育・研究・社会貢献の実績報告書を作成し、ホームページに掲載しました。大学評価・学位授与機構へ、平成28年度大学機関別認証評価に関わる自己点検評価書作成作業を進めました。 2 県大ブランド力の強化については、まずスマートフォンに対応したホームページを新規に作成し公開しました。ホームページの掲載情報更新チェックを3月に実施し、フラッシュについては年間3回更新しました。紙媒体の大学案内と大学広報を計3号発刊しました。出前講義は25回実施しました。メディアに取り上げられた回数は地方版が16件、海外紙が1件でした。中国大学生訪問団受入等について、記者資料提供を行いました。 実施事項別評価は、Bを2項目とします。 【中期目標期間(平成24～27年度)】 1 県評価委員会からの評価結果については、部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させました。毎年度、各教員の教育・研究・社会貢献の実績を取りまとめ、大学ホームページに公表しました。平成25年度に「内部質保証システム」の体制構築に向けて改革推進委員会を設置しました。同年度からアニュアルレポートの作成を開始し、大学ホームページで公表を始めました。平成26年度に自己点検及び評価に加えてIRを推進する自己点検評価室を設置しました。平成27年度に認証評価ワーキンググループを設置し、平成28年度大学機関別認証評価の受審に向けて準備を進めました。 2 ホームページの充実については、掲載情報の更新チェック体制を整備するとともに、フラッシュの定期的な変更を実施しました。平成27年度にはスマートフォンに対応したホームページを新規に作成、公開しました。文科省採択事業や大学コンソーシアム、全学横断型教育プログラムのバナー掲載を行いました。大学が実施する講座・セミナー、卒論公開発表会等の記者資料提供を積極的に行いました。 実施事項別評価は、Bを2項目とします。
Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について	【平成27年度】 ・人間社会学部と看護学部との連携による魅力ある教育システムの構築については、「専門職連携入門」を単位化し、開講しました。 ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動の推進については、健康教室や公開講座の取組を進め、不登校・ひきこもりサポートセンターの取組では、キャンパススクールにおいて高い登校開始率を達成しました。海外提携協定校を新たに1校加え、協定校との共同研究3件、教員交流数22名の成果を得ました。 ・専門性を備えた人材の確保・育成については、プロパー職員を1名採用し、学生支援班に配置しました。 ・地域に貢献する大学としての認知度向上については、不登校・ひきこもりサポートセンターが全国の団体からの視察を受けました。 【中期目標期間(平成24～27年度)】 ・人間社会学部と看護学部との連携による魅力ある教育システムの構築については、平成27年度から「専門職連携入門」を単位化し、開講しました。 ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動の推進については、健康教室や公開講座の取組を進めました。不登校・ひきこもりサポートセンターの取組では、キャンパススクールにおいて高い登校開始率を達成しました。平成27年度には海外提携協定校を新たに1校加え、協定校との共同研究は平成27年度に3件、教員交流数22名(平成27年度)の成果を得ました。 ・専門性を備えた人材の確保・育成については、プロパー職員を計画に沿って採用し、平成27年度には採用者を学生支援班に配置しました。 ・地域に貢献する大学としての認知度向上については、不登校・ひきこもりサポートセンターが全国の団体(県議会文教委員会等)からの視察を受けました。

項目別の状況（年度計画項目・中期計画項目）

中期目標 1 教育	「保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。」 (1) 特色ある教育の展開 福岡県立大学は、保健・医療・福祉の専門職としての実践的能力を身に付けさせるとともに、人間社会学部と看護学部との連携のもとで、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、現場において他の専門職種と協働できる能力を育成する。 人間社会学部については、今後の社会的ニーズに的確に対応するため教育内容の改革に取り組む。 看護学部については、医療の高度化・ニーズの多様化に対応するため、学部及び大学院を通じた教育の充実を図る。 (2) 教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。 (3) 意欲ある学生の確保 明確な入学受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。 (4) 学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。
--------------	--

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号												
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度											
1 教養教育の充 実 公立大学法人 福岡県立大学の 教養教育は、豊 かな感性、柔軟 な思考力、緻密 な論理構成力お よび自己表現能 力の習得をめざ す。	1【カリキュラムと科目内容の検討・改 編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門科目の基礎と社会人・職業 人として身につけるべき教養科目を 中心に、カリキュラムや科目内容を 検討・改編する。 ○達成目標 ・学生の成績 ：教養科目全てを対象として C以上80%	1-1	【平成27年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○人間社会学部将来構想や看護学部学生のニーズ 等をふまえ、強化すべき教養科目のカリキュラムや 科目内容を継続して検討する。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身に つけるための新科目開設を検討する。 ○「スキルアップ・ゼミ」コースの改編・改善を実施す る。 ○編成された全学横断型教育プログラムを試行し、 拡充のための検討を行う。 ○達成目標 ・スキルアップゼミ4コースの開設 ・学生の成績 ：教養科目全てを対象として C以上80%		1	【平成27年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○教養科目のカテゴリーを検討し、新たなカテゴリーが教務・共通教育部に提案された。平成29年度以降の実施を目指 し、学内で検討した。「グローバル社会論」においては積極的にオムニバス形式を取り入れた。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新設科目として平成28年度より「社会人基礎力演習」を開 講することを決定した。 ○「スキルアップ・ゼミ」コースを4コース開設した(「Data analysis and discussion on social issues (11月～12月、4回)」、 「就活塾(11月～2月、3回)」、「初級日本語教授法入門(1月～2月)」、「情報スキル(2月、4回)」)。 ○全学横断型教育プログラムである保健福祉情報プログラムに必要な「数学概論」「情報処理応用演習」を平成28年度より 新規開設することを決定した。 ○目標実績 ・スキルアップゼミ4コースの開設 ・学生の成績： 教養科目全てを対象として C以上89.0%		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			1										
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○人間社会学部将来構想や看護学部学生のニーズ等をふまえ、教養科目のカテゴリーの見直しを検討してきた。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新設科目として平成28年度より「社会人基礎力演習」を開 講することを決定した。 ○「スキルアップ・ゼミ」コースの改編・改善をしながら実施した。 ○全学横断型教育プログラムである保健福祉情報教育プログラムに必要な「数学概論」「情報処理応用演習」を平成28年度 より新規開設することを決定した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>学生の成績： 教養科目全て C以上80%</td><td>89.4%</td><td>88.2%</td><td>93.4%</td><td>89.0%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○新科目の設置に伴い、学生の教育効果に基づいて既存科目の見直しを行う。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目の準備及び実施を行う。 ○既スキルアップ・ゼミに関連した新設科目の開設に伴い、「スキルアップ・ゼミ」コースを精選し、全学横断型教育プログラ ムと連携しながら実施する。 ○全学横断型教育プログラム関連科目を実施する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生の成績： 教養科目全て C以上80%	89.4%	88.2%	93.4%	89.0%				B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																
学生の成績： 教養科目全て C以上80%	89.4%	88.2%	93.4%	89.0%																		

中期計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号														
項目	実施事項				中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番 号	中期	年度												
※1 教養教育の 充実 の続き	2【教養演習・総合科目の改善】 ＜両学部の教養演習、総合科目＞ ①学生の課題発見・解決能力、論理的思考力及び自己表現能力を高めるために、教養演習等における授業内容と方法を継続的に改善していく。 ・教養演習・総合科目の改善 ②語学について、従来の語学教育を見直し、アジアとともに発展する国際交流を推進させるために、アジア諸国の異文化理解と共にコミュニケーション能力を高める。 ・英語・中国語・コリア語教育の充実 ○達成目標 ・学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：全学の教養演習及び総合科目において C以上 80% ・語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編 ：2科目増設	2-1	【平成27年度計画】 【教養演習・総合科目の改善】 ＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習の授業内容・方法の充実を継続して行う。 ○学生編集委員会を中心に、平成26年度教養テキストを改善し、改訂版を作成する。同時に、共通テキストの大幅な見直し案の作成を継続して行う。 ○総合科目内において、グローバル化へ対応するための新科目案と既存科目教育内容の変更について継続して検討する。 ＜語学教育の充実＞ ○英語教育見直しのひとつとして平成25年度から導入した外部テストを、各学部・学科の一、二年生対象に一年生は年2回、二年生は年1回実施する。 ○教養演習英語クラスを継続して開講する。 ○平成24年度購入した、異文化理解のための韓国の伝統衣装や伝統工芸品等をコリア語教育に積極的に活用する。同様に、中国語クラスにおいても、平成26年度に購入した異文化理解のためのDVD等を中国語教育、異文化理解に積極的に活用する。 ○語学教育カリキュラムの改編・増設に向けた検討・実施を継続して行う。 ○達成目標 ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：全学の教養演習及び総合科目において C以上80%		1	【平成27年度の実施状況】 【教養演習・総合科目の改善】 ＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習については昨年度までの経験を踏まえ、本年度の担当者に向けて2件の事例報告を含むワークショップを行った。また初めて担当する教員に対しては個別な相談を受ける等の対応を行った。 ○教養演習テキストについては学生編集委員会を中心に、来年度のテキストについて検討した。また基盤教育センターにおいてテキストの大幅な改訂の方針が決まり、目次構成を検討した。 ○グローバル化に対応するために「グローバル社会論」を平成28年度に新規開講することを決定した。 ＜語学教育の充実＞ ○英語の外部テストを、一年生は2回(4月、1月)、二年生は1回(1回)実施した。 ○教養演習英語クラスを開講した。 ○異文化理解のための教材については、コリア語、中国語の各クラスにおいて活用した。 ○語学教育カリキュラムに関して、「Advanced English Achievement」を平成28年度入学生から新規開講することを決定した。 ○目標実績 ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：全学の教養演習及び総合科目において C以上91.4%		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			2										
				1	＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習の授業内容・方法の充実に向けての全学「教養演習」担当者会議を継続して行い、指導方法等についての検討と知識やスキルの共有を行った。 ○学生編集委員会を中心に、教養演習のテキストを改善し、改訂版を作成してきた。 ○グローバル化へ対応するための新科目「グローバル社会論」を平成28年度に新規開講することを決定した。 ＜語学教育の充実＞ ○英語教育においては、平成25年度から外部テストを導入し、各学部・学科の1、2年生対象に1年生は年2回、2年生は年1回実施した。また、平成26年度から教養演習英語クラスを開講した。 ○コリア語教育、中国語教育においては、異文化理解のために伝統衣装や伝統工芸品、DVD等を購入し、積極的に活用した。 ○語学教育カリキュラムの改編・増設に向けた検討を行い、平成26年度後期から看護学部2年生の英語クラスを能力別編成に変更し、平成27年度から看護学部・オーラルコミュニケーションⅡ(英語)を、これまでの2クラスから3クラスに再編成して実施した。また、「Advanced English Achievement 」を平成28年度から新規開講することを決定した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>学生の成績：全学の教養演習及び総合科目 C以上80%</td><td>92.3%</td><td>94.5%</td><td>98.9%</td><td>91.4%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習の授業内容・方法の充実を継続して行う。 ○学生編集委員会を中心に、教養テキストを改善し、改訂版を作成する。同時に、共通テキストの大幅な見直し案の作成を継続して行う。 ○総合科目内において、グローバル化へ対応するための新科目の準備及び実施を行う。 ＜語学教育の充実＞ ○英語教育においては、外部テストを各学部・学科の1、2年生対象に継続して実施する。また、教養演習英語クラスを継続して開講する。 ○異文化理解のために購入した伝統衣装や伝統工芸品、DVD等をコリア語教育、中国語教育に積極的に活用する。 ○語学教育カリキュラムの改編・増設に向けた検討・実施を継続して行う。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生の成績：全学の教養演習及び総合科目 C以上80%	92.3%	94.5%	98.9%	91.4%				B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																
学生の成績：全学の教養演習及び総合科目 C以上80%	92.3%	94.5%	98.9%	91.4%																		

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																					
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																				
2 専門教育の充 実	1【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門教育充実の視点からカリ キュラムと科目内容の検討を行う。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数 ：全専門科目 ・学生の成績 ：専門教育科目において C以上 80%	1-1【平成27年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学 体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・科目間の履修の順序や関係を学生に分かりやす く示し、地域社会分野と国際共生分野、それぞれ の充実を図る。 ＜社会福祉学科＞ ・前年度に検討した「社会福祉士」「精神保健福祉 士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の 改善・充実に向けた取り組みを開始する。 ＜人間形成学科＞ ・各コースの専門科目を実施・検証し、新カリキュ ラムへの移行に伴う経過措置を検討する。 ＜看護学部＞ ○4年目に向けた新カリキュラムの科目を滞りなく実 施する。 ・カリキュラム検証委員会及び教務部会で、4年目 の新たな科目と変更科目について担当教員から 学習内容・課題の聞き取りを実施する。 ・学生からの意見聴取(前期・後期各1回)を行い、 その意見をカリキュラムの授業内容に反映させ る。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身 につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテー ションで強化を図る。 ・倫理に関する講義を実施する。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数 :全専門科目 ・学生の成績 専門教育科目において :C以上 80%		1	【平成27年度の実施状況】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・カリキュラムの改変と学年配当の見直しにより、学生に分かりやすく充実した履修モデルを作成した。 ＜社会福祉学科＞ ・「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実のため、カリキュラムの改変に着手した。 ＜人間形成学科＞ ・新カリキュラムへの移行に必要な学則や履修規則の改正を行うとともに、移行措置と新任教員の赴任に伴う教育体制を作成した。 ＜看護学部＞ ○4年目に向けた新カリキュラムの科目を滞りなく実施する。 ・新カリキュラム4年目の前期・後期新科目と変更科目について、担当教員から聞き取りを行った。 ・学生から新カリキュラムの前期・後期科目について調査を行い、28年度のシラバスに反映させた。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション及び実習前オリエンテーションで1年生から4年生まで継続的に随時強化を図った。 ・1年生から4年生を対象として、前期に倫理教育を実施した。 ○目標実績 ・シラバスの改善科目数 :全専門科目 ・学生の成績 専門教育科目において :C以上 88.5%		A	【高く評価する点】 ＜人間社会学部＞ ・専門性を高めるため、学科制からコース制への移行にともない、各コースのカリキュラムの見直しを行い、実施した。 【実施(達成)できなかった点】			3																				
			1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜人間社会学部＞ ○平成25年度に作成した計画に基づき、学科制からコース制に移行する過程で、時代のニーズに合わせて履修コースの改廃と再構築を行い、専門性を高めるとともに資格科目を重視するためにカリキュラムの大幅な見直しを実施した。 ＜看護学部＞ ○平成24年度からの新カリキュラムの科目を滞りなく実施した。 ・新規科目及び変更科目(単位数の変更や科目名の変更など)について、4年間調査を継続的にを行い、カリキュラムを滞りなく実施した。 ・学生からの聞き取り調査について、4年間実施したことで、授業内容の検討やシラバスへの反映に役立てた。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につけるために、1年生から4年生までを対象として、新入生オリエンテーションや実習前オリエンテーション時に倫理教育を継続的に行った。また、倫理に関する講義を継続的に実施した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>シラバスの改善: 全専門科目</td><td>全専門科目</td><td>全専門科目</td><td>全専門科目</td><td>全専門科目</td><td></td><td></td></tr><tr><td>学生の成績: 専門教育科目 C以上80%</td><td>89.4%</td><td>89.2%</td><td>88.4%</td><td>88.5%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 ・新カリキュラムを実施する中で、科目の新設・改廃等を行い、専門教育と資格関係科目の充実を行う。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	シラバスの改善: 全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目			学生の成績: 専門教育科目 C以上80%	89.4%	89.2%	88.4%	88.5%				A	【高く評価する点】 ＜人間社会学部＞ ・学科制からコース制への移行とカリキュラムの大幅な見直しを達成した。 【実施(達成)できなかった点】		中期 3
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																									
シラバスの改善: 全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目																											
学生の成績: 専門教育科目 C以上80%	89.4%	89.2%	88.4%	88.5%																											

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号								
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度							
※2 専門教育の 充実 の続き	2【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞ ①東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの検討・実施 ホリスティック人間論、東洋看護学演習等の教育プログラム内容の検討 ○達成目標 ・学生の成績 :教育プログラム C以上80%	2-1	【平成27年度計画】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞ ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムを新たな体制のもとに実施する。 ○達成目標 ・学生の成績:教育プログラム C以上80%	1	【平成27年度の実施状況】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞ ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムを新たな体制のもとに実施する。 東洋看護学演習については、国内の補完代替医療の専門家による前期授業に切り替えを行った。 ○目標実績 ・学生の成績: 教育プログラム C以上90.9%	B	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		4								
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○東洋看護学演習については、その内容を充実させるために、国内の補完代替医療の専門家による前期授業に切り替えを行った。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>学生の成績: 教育プログラム C以上80%</td><td>100.0%</td><td>98.2%</td><td>98.9%</td><td>90.9%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○東洋看護学演習については、引き続き教育内容を充実させる。				H24		H25	H26	H27	H28	H29	学生の成績: 教育プログラム C以上80%	100.0%	98.2%	98.9%
	H24	H25	H26	H27	H28	H29												
学生の成績: 教育プログラム C以上80%	100.0%	98.2%	98.9%	90.9%														

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																													
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番 号	中期	年度																											
※2 専門教育の 充実 の続き	3【実践力強化のための実習教育の 充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護実践能力育成のための実習 教育の充実 ②人間社会学部における実習教育 の充実 ③実習前後における学習内容の充 実 ○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導 体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年 1回以上 ・教育・保育・養護実習における事 前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上 80%	3-1【平成27年度計画】 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、年1回開 催 ○実習指導体制の実施を継続、および見直しを行う ・実習打ち合わせの充実(臨床との共同会議開催) ○新カリ学生に対する看護基本技術習得支援の実 施と項目の検討 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれ実施している実習教育について 現状を分析検討し、課題を明らかにしていく。 ○公共社会学科における実習指導の充実 ・コース制導入に伴う新カリキュラムにむけた社会 調査実習の指導内容の検討。 ○社会福祉学科における実習指導の充実 ・新たな体制で実習指導を行い、その課題を把握 する。 ○人間形成学科における実習指導の充実 ・実習指導体制と指導内容の見直しを行う。 ○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前 事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上80%		1	【平成27年度の実施状況】 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を部会で検討し、「よりよい実習にするための大学と臨床との情報共有」というテーマで、 9/17に開催した。参加者の満足度も85%以上と高かった。 ○実習指導体制の実施を継続、および見直しを行う ・実習打ち合わせを各領域で実施し、実習運営部会に報告して必要時に部会で検討した。（実習施設見直し、実習物品の 充実等） ○新カリ学生に対する看護基本技術習得支援の実施と項目の検討は、eラーニングを活用し項目を検討した。データを基に 指導を強化する内容を洗い出した。 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれの実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにするための話し合いの場を設定した。 ○公共社会学科における実習指導の充実 ・社会調査関係科目について開講年次の検討を行い、全体として開講年次を早めた。 （例：社会調査実習 現行3年次開講→2年次開講に変更） ○社会福祉学科における実習指導の充実 ・新たに担当教員を増やして体制強化を図った。一方、各実習間の指導内容を標準化していく必要性が今後の課題として 確認された。 ○人間形成学科における実習指導の充実 ・新任の実習担当教員を迎えて各実習担当者間の連携を確認し、実習依頼状等の文面を変更して手続きを簡素化すると ともに、実習先巡回訪問指導の原則を確認した。実習の種類(保育所・施設・幼稚園)ごとの理解を深めるために、卒業 生を招いてこどもコース就職 懇話会・異学年交流会を実施した(12/9)。 ○目標実績 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 実習指導者連絡会議開催 1回 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 事前事後指導科目4科目 100% ・学生の成績 事前事後指導科目 C以上90.8%		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			5																											
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜看護学部＞ ○臨地実習の体制に関しては、毎年実習先の確保が難しい状況ではあるが、実習指導者連絡会を開催することで、臨床と のつながりを強化できた。また、研修会が臨床教授の申請の要件ともなっているため、看護学にとって重要な実習学習の 質の担保につながった。 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれの実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにするための話し合いの場を設定し、実習指導 の充実を図ってきた。 ・公共社会学科においては、教育実習事前・事後指導を強化し、平成25年度に「教職課程履修ガイド」を作成した。 社会調査関係科目について開講年次の検討を行い、平成28年度から全体として開講年次を早めることとした。 ・社会福祉学科においては、教員を増やすなど実習指導体制の強化を行ってきた。平成26年度には、社会福祉士、精神 保健福祉士、学校ソーシャルワークの各実習において、「実習の手引き」の改訂・作成、新たな実習先の開拓、実習教育 プログラムの見直しなどを行った。 ・人間形成学科においては、実習の種類(保育所・施設・幼稚園)毎の実際の理解を深めるために、平成25年度に子ども コース学生交流会(実習報告・就職対策)、平成26年度に異学年合同授業、平成27年度に卒業生を招いてこどもコース 就職懇話会・異学年交流会を企画・実施した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>看護学部における臨地実習指導体制：連絡会議年1回以上</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>実習における事前事後指導：事前事後指導科目3以上75%</td><td>80.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>学生の成績：事前事後指導科目C以上80%</td><td>95.4%</td><td>94.0%</td><td>94.4%</td><td>90.8%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれ実施している実習教育の指導内容や実施体制を検討し、実習指導の充実を図る。 ＜看護学部＞ ○学生の対人スキル向上のために実習前のコーチング学習の導入を行う		H24	H25	H26	H27	H28	H29	看護学部における臨地実習指導体制：連絡会議年1回以上	1回	1回	1回	1回			実習における事前事後指導：事前事後指導科目3以上75%	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%			学生の成績：事前事後指導科目C以上80%	95.4%	94.0%	94.4%	90.8%				B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																
看護学部における臨地実習指導体制：連絡会議年1回以上	1回	1回	1回	1回																																		
実習における事前事後指導：事前事後指導科目3以上75%	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%																																		
学生の成績：事前事後指導科目C以上80%	95.4%	94.0%	94.4%	90.8%																																		

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号										
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度									
※2 専門教育の 充実 の続き	4【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ①保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るとともに、選択科目としての単位化を検討する。 ②「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)の充実を図る。 ③両学部の学生が共に海外の保健・医療・福祉の現場を訪れ、語学を学びながら現場体験を行う「海外語学実習」の実習先の開拓を行うとともに、その事前準備のための「海外語学演習」の充実を図る。 ④社会貢献フォーラムと公開卒論発表会の開催	4-1	【平成27年度計画】 【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ○保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘して行う「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の単位化して実施 ○「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)を充実を図りながら実施 ○「海外語学演習」「海外語学実習」の実施 ○社会貢献論演習における成果の社会貢献フォーラムにおける発表 ○公開卒論発表会の実施 ○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%	1	【平成27年度の実施状況】 【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ○今年度から「専門職連携入門」を単位化し、後期に開講した(受講生45名)。 ○社会貢献論は、外部講師の見直しを行い、学内教員の担当する内容との連動性をはかった(受講生109名)。社会貢献論演習は後期に開講した(受講生6名)。不登校・ひきこもり援助論に関しては、外部講師と学内教員の担当の見直しを行い、内容の充実を図った(受講生196名)。不登校・ひきこもり援助論応用演習は後期に開講した(受講生12名)。 ○「海外語学実習事前指導」を実施した(受講生17名)。また「海外語学実習」は8/30～9/20に実施した(受講生17名)。 ○社会貢献フォーラムを「社会貢献論演習」の最終週の授業で実施した(学生6名、教職員6名)。 ○人間社会学部の卒業論文発表会(2/2 学外参加者:38名)及び看護学部の卒業研究発表会(2/22～3/8 学外参加者:15名)を行った。 ○目標実績 ・学生の成績: C以上99.0%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		6											
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るために、平成26年度まではオムニバス方式で両学部が計画した内容の講座を行い、平成27年度にはそれらをまとめ、「専門職連携入門」として単位化した。 ○「両学部で学ぶ専門的連携科目」に関しては、名称を「全学横断型科目」に変更し、科目の見直し、整理統合、さらに新しい科目を加えた。 ○「海外語学実習事前指導」および「海外語学実習」を毎年度実施した。 ○社会貢献フォーラムを毎年度実施した。公開卒論発表会は、人間社会学部は平成24年度から、看護学部は平成27年度から実施した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>学生の成績: C以上80%</td><td>98.5%</td><td>97.9%</td><td>100.0%</td><td>99.0%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○平成27年度から単位化した「専門職連携入門」を充実を図りながら実施する。 ○全学横断型科目として、継続して行われている科目及び新設された科目の内容の充実を図りながら、魅力あるカリキュラムとして今後も検討を行う。 ○「海外語学実習」を継続して実施する。 ○社会貢献フォーラム、公開卒論発表会を継続して実施する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生の成績: C以上80%	98.5%	97.9%	100.0%	99.0%			B
	H24	H25	H26	H27	H28	H29														
学生の成績: C以上80%	98.5%	97.9%	100.0%	99.0%																

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																								
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																							
※2 専門教育の 充実 の続き	5【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ①高度専門職業人の育成を重視したカリキュラム体制にしていいため、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程の見直し検討を行う。 ○達成目標 ・充足率(入学者数)／(入学定員) :100%	5-1	【平成27年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直し検討 地域教育支援専攻 ・人間社会学部の改革方針を踏まえ、また、入学者確保の観点、履修者の意向などを踏まえ、中期的なカリキュラム充実案の検討を具体的にはじめる。 心理臨床専攻 ・日本臨床心理士資格認定協会による枠内で、および国家資格化の動向を踏まえながら、学生のニーズに合わせて、新設科目等を検討する。 社会福祉専攻 ・高度専門職業人の育成に向け、現在の開講科目及び未開講科目を改めて検討する。 ○達成目標 ・充足率 社会福祉専攻 :100% 心理臨床専攻 :100% 地域教育支援専攻 :100%	1	【平成27年度の実施状況】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直し検討 地域教育支援専攻 ・検討の結果、同専攻の学生募集を停止するとともに、地域のニーズに対応できる新たな専攻内容として「子ども教育専攻」案を作成し届出に必要な作業を完成させた。 心理臨床専攻 ・学生のニーズに合わせて新設科目等を検討した。今後、国家資格カリキュラムの動向を収集し、併せて検討していくことを決定した。 社会福祉専攻 ・働きながら学ぶことができるよう、1年次からの土日開講を可能とし、新たに必須科目、「社会福祉研究法」を開設するなど、カリキュラムを見直した。 ○目標実績 ・充足率 社会福祉専攻 :66.7% 心理臨床専攻 :133.3% 地域教育支援専攻 :募集停止	B	【高く評価する点】 ・時代のニーズに合わせて地域教育支援専攻を廃止し、新たな専攻として「子ども教育専攻」を開設する準備を行った。 【実施(達成)できなかった点】 ・充足率 社会福祉専攻の土日開講について、卒業生を含めた施設従事者等への周知に努める。		7																									
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○学部の改革に対応し、かつ時代のニーズに対応するために、地域教育支援専攻を廃止し、新たな専攻として「子ども教育専攻」を開設する準備を行うとともに、社会人学生のニーズに合わせ土日開講を導入する等の目標である充足率を達成できる体制を構築した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>充足率: 社会福祉専攻 100%</td><td>33.3%</td><td>33.3%</td><td>66.7%</td><td>66.7%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>充足率: 心理臨床専攻 100%</td><td>150.0%</td><td>166.7%</td><td>133.3%</td><td>133.3%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>充足率: 地域教育支援専攻 100%</td><td>100.0%</td><td>0.0%</td><td>0.0%</td><td>募集停止</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直し検討 ・心理臨床、社会福祉専攻においては継続して学生のニーズや新カリキュラムに対応した改革を進めるとともに、子ども教育専攻については平成29年度開設に向け、必要な手続き等を行う。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	充足率: 社会福祉専攻 100%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%			充足率: 心理臨床専攻 100%	150.0%	166.7%	133.3%	133.3%			充足率: 地域教育支援専攻 100%	100.0%	0.0%	0.0%	募集停止			B
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																												
充足率: 社会福祉専攻 100%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%																														
充足率: 心理臨床専攻 100%	150.0%	166.7%	133.3%	133.3%																														
充足率: 地域教育支援専攻 100%	100.0%	0.0%	0.0%	募集停止																														

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号									
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度								
※2 専門教育の 充実 の続き	6【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ①高度な看護専門職教育の充実 ②現場看護職の研究支援及び相互 交流による高度実践能力の育成 ③大学間のがんプロフェッショナル 連携の構築 ○達成目標 ・充足率(入学者数)／(入学定員) :100%	6-1	【平成27年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ○高度な看護専門職教育の充実・見直し検討 ・各専門看護師コースについては、その見直しのた めに情報収集を行い、高度な看護専門職教育の 充実に向けた整備を行う。 ・老年看護専門看護師コースを開講する。 ・助産学コースを開講する。 ○現場看護職の研究支援及び相互交流による高度 実践能力の育成(継続) ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継 続) ・eラーニングクラウド開講科目受講 (1科目以上／学生1人) ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議 参加 ・平成29年度以降のがんプロ参加に関する検討 ○修士修了生の支援 ・研究科コースの修了者の支援について検討する ・CNSコース3コースの修了後の専門看護師資格 習得までの支援体制を整備する ○達成目標 ・専門看護師教育課程増設準備ワーキンググルー プ会議の開催 ((5回/年以上) ・充足率(入学者数)／(入学定員) :100%	1	【平成27年度の実施状況】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ○高度な看護専門職教育の充実・見直し検討 ・各専門看護師コースの見直しのために情報を収集、がん看護専門看護師コース継続に関して学系調整会議に諮り審議 した。また、精神看護専門看護師38単位コースを申請した。それに伴い、がん看護専門看護師26単位コースの科目内容 を1科目変更し、申請した。 ・老年看護専門看護師38単位コースを開講した。 ・助産学コースを開講した。 ○現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成(継続)研究支援他6件実施。 ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継続) ・eラーニングクラウド開講科目受講(1科目以上／学生1人)1科目受講 ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議参加 6/25、8/25(2回)。また全体研修会へ参加(1回)した。 ・平成29年度以降のがんプロ参加に関しては、次年度への継続審議となった。 ○修士修了生の支援 ・研究科コースの修了者には、研究支援を行った(がん看護CNS2件)。 ・CNSコース修了後の支援として申請書の指導(がんCNS1件、精神CNS2件)、現場とのネットワーク形成のためのセミナー を実施した(がん、精神、老年各CNSコース)。がんCNSコースはキャンサースナーシングカフェを開催し修了生の業績実績 としてもカウントした。 ○目標実績 ・専門看護師教育課程増設準備ワーキンググループ会議の開催 5回(学務部会と同時開催含む) ・充足率(入学者数)／(入学定員):75%(9/12)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 No.1 「②入学者 選抜試験 (大学院)」	8											
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○高度な看護専門職教育としては、研究科コースのみならず3つのCNSコースを開設しそれぞれ専門看護師を輩出して地域 の看護力向上に貢献した。 ○特にCNSコースではCNSの再申請の要件ともなるため、修了後の継続的な研究支援などを実施した。 ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築では全体研修会などをととして連携が深まった。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>充足率: 100%</td><td>33.3%</td><td>50.0%</td><td>83.3%</td><td>75.0%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○CNSコースに関しては38単位コース移行に伴って継続した情報収集と教育の充実に向けた整備を行う。 ○研究科コース修了者の研究支援を行う。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	充足率: 100%	33.3%	50.0%	83.3%	75.0%			B
	H24	H25	H26	H27	H28	H29													
充足率: 100%	33.3%	50.0%	83.3%	75.0%															

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																											
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																										
※2 専門教育の 充実 の続き	7【他大学との連携による教育の充 実】 ・専門領域に応じた他大学との連携 による教育の充実＜人間社会学部 ＞ ・ケアリングアイランド九州・沖縄コ ンソーシアムの構築＜看護学部＞ ①両学部において、専門領域に応 じた他大学との連携プログラムを検 証し、実施する。 ②看護学部においては、ケアリング アイランド九州・沖縄コンソーシアム を構築し、講義の相互受講システ ム、大学連携による授業科目の提 供など、教育の充実を図る。 ○達成目標 ・他大学との連携プログラムの件数 :1件以上／年 ＜人間社会学部＞ ・大学間連携による開講科目数 :1科目以上 ＜看護学部＞ ・ケアリングアイランド九州・沖縄コ ンソーシアム会議 :対面会議 1回／年 :テレビ会議 2回以上／年	7-1【平成27年度計画】 【他大学との連携による教育の充実】 ＜人間社会学部＞ 公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科の 専門領域に対応した高度なインターンシップ活動に ついて九州・沖縄・山口地域の大学との連携の方向 性を検討し、教育の充実に向けた連携プログラムを 検討する。 ＜看護学部＞ ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充 実 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議 を開催する。 ○連携8大学及びステークホルダーの代表からなる 共同教育連携運営協議会の開催 ・ホームページを更新し、ニューズレターを発行す る。 ・外部評価委員会による事業評価を実施する。 ○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を開 催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・キャリア像確立講義のオンデマンド配信を実施 する。 ・ナーシングキャリアカフェを開催する。 ・連携大学の卒業生に対する離職率調査・就職先 調査を実施する。 ○単位互換を担当する単位互換・相互受講部会を 開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・連携大学での講義の単位互換または相互受講 を実施する。 ・特徴科目における授業の一部をオンデマンド配 信できるよう収録、コンテンツ化する。 ○合同短期研修を担当する研修調整部会を開催 し、事業計画の検討・修正を行う。 ・国際協力看護領域及び災害看護領域における 合同短期研修を実施する。 ・新規付加価値コースにおける合同短期研修を実 施する。 ○達成目標 ・大学間連携による開講科目数 :1科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム 会議 :対面会議 2回／年 :テレビ会議 2回 以上／年		1	【平成27年度の実施状況】 【他大学との連携による教育の充実】 ＜人間社会学部＞ 平成27年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム（インターンシップ等を通じた教育強化）」事業の取組において、連 携3大学で中長期・実践型インターンシッププログラムの開発に取り組み、8月から9月にかけて4週間の中長期・実践型イン ターンシップを実施し、成果報告会を開催した（10/10）。 ＜看護学部＞ ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を3回開催した（5/23、9/18、1/22）。 ・加盟大学学長懇談会を開催した（12/4）。 ○連携8大学及びステークホルダーの代表からなる共同教育連携運営協議会の開催 共同教育連携運営協議会を4回開催した（5/22、9/11、12/11、3/11）。 ・ホームページは随時更新し、ニューズレターは9月に6号、3月に7号を発行した。 ・外部評価委員会による事業評価を実施した（3/28）。 ○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・キャリア像確立講義ⅠおよびⅡのコンテンツ（各8回ずつ）を配信した。 ・ナーシングキャリアカフェを福岡と沖縄で合わせて21回開催した。 ・連携大学の卒業生に対する離職率調査・就職先調査を2月に実施した。 ○単位互換を担当する単位互換・相互受講部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・連携大学での単位互換・相互受講の実施について、前期は連携校の学生延べ12名が参加し、後期は2名が参加した。 ・次年度単位互換・相互受講開講科目としてキャリア像確立講義Ⅰ、キャリア像確立講義Ⅱ（いずれも福岡県立大学）の 整備が完了した。 ・特徴科目における授業の一部のオンデマンド配信に関しては、国際看護論（聖マリア学院大学）、性教育学（福岡県立大 学）、不登校・ひきこもり援助論（福岡県立大学）の3科目をコンテンツ化した。 ・単位互換制度に関する学生フォーラムを連携大学をテレビ会議で結び2/23に実施した。学生5名が参加した。 ○合同短期研修を担当する研修調整部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・災害看護領域における合同短期研修を1回実施した（9/10）。 ・国際協力看護領域における合同短期研修を1回実施した（3/14）。 ・新規付加価値コースとして、島嶼看護領域における合同短期研修を1回実施した（9/8～9/9）。 ○目標実績 ・大学間連携による開講科目数 :3科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 3回		A	【高く評価する点】 ・本学が幹事校を務める大学教 育再生加速プログラムが、文部 科学省のヒアリングにおいて、高 く評価された。 ・本学が代表校を務める大学間 連携共同教育連携事業が、文部 科学省の中間評価においてS評 価を受けた。 【実施（達成）できなかった点】		9																											
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜人間社会学部＞ ○平成24年度から「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」を通じて、連携9大学で「効果的かつ持続可 能なインターンシップモデルプログラム」を開発し、平成25年度から1・2年次生を対象として「ブレ・インターンシップ」を単位 化した。平成26年度から「大学教育再生加速プログラム（インターンシップ等を通じた教育強化）」を通じて連携3大学で中 長期・実践型インターンシップ・プログラムの開発に取り組み、中長期・実践型インターンシップを実施した。 ＜看護学部＞ ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実を図るために、学長会議を毎年開催した。 ○連携8大学において、平成26年度から講義の単位互換・相互受講を開始実施した。 ○連携8大学共同で、キャリア像確立講義のオンデマンド配信を実施した。 ○国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を実施した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>大学間連携による開講科目数：1科目以上</td><td>1科目</td><td>2科目</td><td>3科目</td><td>3科目</td><td></td><td></td></tr><tr><td>ケアリングアイランドコンソーシアム会議：対面会議 1回</td><td>3回</td><td>3回</td><td>6回</td><td>3回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>ケアリングアイランドコンソーシアム会議：テレビ会議 2回以上</td><td>2回</td><td>2回</td><td>2回</td><td>0回</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ＜人間社会学部＞ ○公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科の専門領域に対応した高度なインターンシップ活動について九州・沖縄・ 山口地域の大学との連携の方向性を検討し、教育の充実に向けた連携プログラムを検討していく。 ＜看護学部＞ ○連携8大学における単位互換・相互受講を推進し、同時にオンデマンドコンテンツ制作・配信をすすめていく。 ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実をはかる。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	大学間連携による開講科目数：1科目以上	1科目	2科目	3科目	3科目			ケアリングアイランドコンソーシアム会議：対面会議 1回	3回	3回	6回	3回			ケアリングアイランドコンソーシアム会議：テレビ会議 2回以上	2回	2回	2回	0回				A	【高く評価する点】 ・学習意欲喚起型の「ブレ・イン ターンシップ」を単位化した。 ・中長期・実践型インターンシッ プを実施することができた。 ・共同教育8大学連携において、 単位互換・相互受講を開始した。 【実施（達成）できなかった点】	
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																															
大学間連携による開講科目数：1科目以上	1科目	2科目	3科目	3科目																																	
ケアリングアイランドコンソーシアム会議：対面会議 1回	3回	3回	6回	3回																																	
ケアリングアイランドコンソーシアム会議：テレビ会議 2回以上	2回	2回	2回	0回																																	

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番 号	中期	年度															
3 教育効果を検証するシステムの構築 十分な教育と厳格な成績評価を行い、確実な知識と技術を身につけた専門職業人を育成する。その教育効果を検証するための評価システムを構築する	1【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①学生による授業評価の継続的实施(前期、後期)とその結果に基づくFDセミナーの開催などを通じて教育内容の改善を図る。 また学生との座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 ：年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 ：各授業科目の回収率70%以上	1-1	【平成27年度計画】 【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価の実施(前期、後期) ○授業評価による授業改善目標の設定について教務部会と連携して実施する。 ○授業評価に関するFDセミナーを開催 ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 ：年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 ：各授業科目の回収率70%以上	1	【平成27年度の実施状況】 【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価を前期・後期に実施した。 ○授業評価による授業改善目標の設定について、教務部会と連携して開催した(3/17)。また、授業評価アンケートの内容を見直した。 ○授業評価に関するFDセミナーを開催した(3/2)。 ○学生による授業評価を聴取するため、学生座談会等を各学部で実施した。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催： 1回 ・学生による授業評価の回収率： 81.6%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		10																	
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○学生による授業評価を実施した。 ○学生による授業評価を徴収するため、学生座談会を実施した。 ○授業評価アンケートの内容を見直した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>授業評価結果を反映したFDセミナー開催：年1回以上</td><td>1回</td><td>2回</td><td>1回</td><td>1回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業評価の回収率：各授業科目の回収率70%以上</td><td>82.4%</td><td>84.9%</td><td>86.1%</td><td>81.6%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○見直しをした授業評価アンケートを実施する。 ○新しい授業評価アンケートを基にした授業改善評価方策を実施する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	授業評価結果を反映したFDセミナー開催：年1回以上	1回	2回	1回	1回			授業評価の回収率：各授業科目の回収率70%以上	82.4%	84.9%	86.1%	81.6%			B
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																				
授業評価結果を反映したFDセミナー開催：年1回以上	1回	2回	1回	1回																						
授業評価の回収率：各授業科目の回収率70%以上	82.4%	84.9%	86.1%	81.6%																						

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																																																							
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																																																						
※3 教育効果を 検証するシステ ムの構築 の続き	2【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①就職先へのアンケートを実施する。 ②卒業生の実態を把握するアンケートを実施する。 ③就職先の評価、卒業生の実態、就職先等を総合的に評価し、対応を考えるシステムを作る。 ○数値目標 ・アンケート内容の見直し ：年1回以上 ・就職率(就職者数／就職希望者数) ：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上	2-1	【平成27年度計画】 【アウトカム評価システムの充実】 ○アウトカム評価システムの改善策を検討する。 ＜人間社会学部＞ ○就職先アンケート内容の検討を行い、アンケートを実施する。 ・就職先アンケートを継続的に実施する。 ・就職先アンケートの結果を分析し、来年度の実施に向けて結果を反映させる(アンケート項目の修正や拡充)。 ・各学科及びキャリアサポートセンター間でキャリア支援に関する情報を共有するとともに、効率的な役割分担を進める。 ・卒業予定者の就職活動状況を把握するアンケートを早期に実施する。 その結果に基づきキャリアサポートセンター等と連携して学生への情報提供や個別指導を行う。 ・卒業生アンケートの実施・修正を行う。 ＜看護学部＞ ○就職先アンケートの内容を見直し、調査する。 ○卒業生アンケートの内容を見直し、調査する。 ○アウトカム評価システムに従って、アンケート内容を分析し、対応を検討する。 ・就職・進学に関する情報提供を行い、面接および指導を行う。 ・国家試験対策として、模試の実施・補講・個別指導を実施する。 ○達成目標 ・アンケート内容の見直し：年1回以上 ・就職率(就職者数／就職希望者数)：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上		1	【平成27年度の実施状況】 ○アウトカム評価システムの改善策を検討する。 昨年度実施したアウトカム評価システム案の改善策を進路・生活支援部会で検討し、今年度から看護学部の就職先アンケートの送付先を病院就職説明会参加病院以外に拡大した。 ＜人間社会学部＞ ○就職先アンケート内容の検討を行い、アンケートを実施する。 ・就職先アンケートを実施した(42社回答/102社中)。 ・就職先アンケートの結果を分析し、来年度実施に向けてアンケート項目を検討し、経年変化をみるためにアンケート項目の修正は行わないこととした。 ・新たに両学部各学科のキャリア就職支援講座等の年間予定をまとめ、キャリア就職支援年間スケジュール(一覧表)を作成し、学生支援班、キャリアサポートセンター間でも情報共有し、また学生が参照できるよう電子掲示板にアップした。 ・学生支援班がキャリアサポートセンターと連携し、各学科教員の協力も得て、卒業予定者の就職活動状況を集約した。その結果をふまえ、支援が必要な学生に対し学生支援班担当者がキャリアサポートセンターと連携しつつ、情報提供や個別指導を行った。 ・進路・生活支援部会で過去に実施した卒業生アンケートの見直しを行い、平成26年度の卒業生に対し、アンケートを送付した。人間社会学部卒業生に対しては7月末から8月上旬にかけて送付、看護学部卒業生に対しては11月に送付し、1月に両者を統合した集計を行った。 ＜看護学部＞ ○就職先アンケートの内容を見直し、調査する。 ・病院就職説明会(4/22)参加病院(71社回答/87社中)及び就職先(15社回答/53社中)に対しアンケート調査を実施し、教育ニーズを把握した。 ○卒業生アンケートの内容を見直し、調査する。 ・11月末を回答期限に、卒業生に対してアンケートを実施した。 ○アウトカム評価システムに従って、アンケート内容を分析し、対応を検討する。 ・病院・施設の情報をメール・展示で提供し、就職相談を随時実施した。 キャリアサポートセンターの活用法について検討した。 ・国家試験模擬試験を看護師6回、保健師5回実施した。 ・個別指導、学習会の開催、学習環境の整備等の学習支援を実施した。 ・後援会予算にて購入した看護師国家試験対策書籍を各領域に配布し、担当ゼミ学生への国家試験対策支援に活用した。 ○目標実績 ・アンケート内容の見直し：1回 ・就職率(就職者数／就職希望者数)：98.6% (人間社会97.9%、看護100.0%) ・国家試験合格率 看護師：100.0% 保健師：100.0% 社会福祉士：73.1% 精神保健福祉士：95.0% (助産師については、課程の大学院移行のため27年度受験者なし)		A	【高く評価する点】 ・就職率、国家試験合格率がいずれも達成目標を大きく上回った。中でも社会福祉士の合格率(新卒者)73.1%は、新卒受験者50人以上の福祉系大学の中で全国第5位であった。 【実施(達成)できなかった点】	No.8 「資格試験 合格率、免 許の取得」 No.18 「就職状況」		11																																																					
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○就職先アンケートを実施してきた(両学部)。 ○卒業生アンケートを平成26年度から実施してきた(両学部)。 ○アウトカム評価システムを構築し、評価の実施と改善を行ってきた。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>アンケート内容の見直し:年1回以上</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>就職率: 95%以上</td><td>97.3%</td><td>98.0%</td><td>97.8%</td><td>98.6%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>国家試験合格率: 看護師 98%以上</td><td>98.6%</td><td>97.6%</td><td>98.7%</td><td>100.0%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>国家試験合格率: 保健師 90%以上</td><td>96.3%</td><td>93.9%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>国家試験合格率: 助産師 90%以上</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>国家試験合格率: 社会福祉士 70%以上</td><td>70.4%</td><td>70.6%</td><td>78.9%</td><td>73.1%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>国家試験合格率: 精神保健福祉士 70%以上</td><td>88.0%</td><td>100.0%</td><td>88.5%</td><td>95.0%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○就職先アンケートの実施(両学部) ○卒業生アンケートの実施(両学部) ○アウトカム評価を実施し、その結果を分析し、対応を検討する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	アンケート内容の見直し:年1回以上	1回	1回	1回	1回			就職率: 95%以上	97.3%	98.0%	97.8%	98.6%			国家試験合格率: 看護師 98%以上	98.6%	97.6%	98.7%	100.0%			国家試験合格率: 保健師 90%以上	96.3%	93.9%	100.0%	100.0%			国家試験合格率: 助産師 90%以上	100.0%	100.0%	100.0%				国家試験合格率: 社会福祉士 70%以上	70.4%	70.6%	78.9%	73.1%			国家試験合格率: 精神保健福祉士 70%以上	88.0%	100.0%	88.5%	95.0%				A	【高く評価する点】 ・平成26年度から就職先アンケート等の実施・集約・分析を行うアウトカム評価を実施してきた。 ・就職率、国家試験合格率(看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士)が達成目標を常に上回った。 【実施(達成)できなかった点】	
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																											
アンケート内容の見直し:年1回以上	1回	1回	1回	1回																																																													
就職率: 95%以上	97.3%	98.0%	97.8%	98.6%																																																													
国家試験合格率: 看護師 98%以上	98.6%	97.6%	98.7%	100.0%																																																													
国家試験合格率: 保健師 90%以上	96.3%	93.9%	100.0%	100.0%																																																													
国家試験合格率: 助産師 90%以上	100.0%	100.0%	100.0%																																																														
国家試験合格率: 社会福祉士 70%以上	70.4%	70.6%	78.9%	73.1%																																																													
国家試験合格率: 精神保健福祉士 70%以上	88.0%	100.0%	88.5%	95.0%																																																													

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																									
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																								
4 教員の教育能力の向上 学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育力の向上を図る	1【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ②教員間の授業参観システムの構築 ③Best Teacherによる公開授業の実施 ○達成目標 ・FD活動等への教員参加率：100% ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観システムの構	1-1	【平成27年度計画】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナー（ワークショップや研修会など）を企画・実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ○教員間の授業参観の実施および課題の抽出 ○公開授業の実施および課題の抽出 ○教員の授業自己評価の実施・修正 ○達成目標 ・FDセミナー等教員参加率：95% ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観：年1回以上	1	【平成27年度の実施状況】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○授業改善に活かす内容のFDセミナーを計5回開催した。 ○教員間の授業参観を実施し、FDセミナーにて課題を抽出した。 ○公開授業を実施した。 ○教員の授業自己評価を実施した。 ○達成目標 ・FDゼミナー等教員参加率：85.2% ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞：両学部の常勤教員の全教科においてC以上89.5% ・教員間の授業参観：5回実施	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】 No.10「FD」		12																										
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○教員間の授業参観の仕組みを整え、授業参観を実施した。 ○公開授業を実施し、地域の学校教員等からの参加を得た。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>FD活動等への教員参加率：100%</td><td>84.4%</td><td>95.1%</td><td>94.9%</td><td>85.2%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>学生の成績：両学部の常勤教員の全科目 C以上80%</td><td>90.0%</td><td>91.2%</td><td>90.8%</td><td>89.5%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教員間の授業参観システム実施：年1回以上</td><td>0回</td><td>1回</td><td>延べ16回</td><td>5回</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○学内でFDワークショップを開催する。 ○教員間の授業参観を推進する。ベストティーチャー等による公開授業を実施する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	FD活動等への教員参加率：100%	84.4%	95.1%	94.9%	85.2%			学生の成績：両学部の常勤教員の全科目 C以上80%	90.0%	91.2%	90.8%	89.5%			教員間の授業参観システム実施：年1回以上	0回	1回	延べ16回	5回			B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】 中期 12
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																													
FD活動等への教員参加率：100%	84.4%	95.1%	94.9%	85.2%																															
学生の成績：両学部の常勤教員の全科目 C以上80%	90.0%	91.2%	90.8%	89.5%																															
教員間の授業参観システム実施：年1回以上	0回	1回	延べ16回	5回																															

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号																						
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																					
※4 教員の教育能力の向上の続き	1 ※【教員のFD活動の推進】の続き	1-2	【平成27年度計画】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議の開催（各専攻1回以上） □学外の講師によるFDセミナーの開催（1回） □学外で開催されるFDセミナーへの参加（1回以上） ・大学院生へのアンケート実施（1回） カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を問う ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議の開催（1回） ○達成目標 大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員：95％ 大学院生の満足度：「中」以上：75％		1	【平成27年度の実施状況】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議の開催：院生参画FD会議（10月）やアンケート（12月配布）の結果をもとに、各専攻で実施した。 □学外の講師によるFDセミナー：3/11に開催した（参加者39名）。 テーマ：「学ぶ力の潜在性を引き出す実践学としての学習科学」 □学外で開催されるFDセミナーへの参加：第31回日本教育工学会（9月開催）へ1名参加した。 ・大学院生へのアンケート実施：12月中旬に配布、1月上旬に回収。1月の部会でアンケート結果が報告された。 ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議：10/7に開催した（参加者：院生13名、部会員5名）。 ○達成目標 大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員：98.2％ 大学院生の満足度：「中」以上：100％			B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			13																			
					1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○大学院FD活動の推進として、毎年度各専攻によるFD研修会議、学外講師によるFDセミナーを開催した。また、学外で開催されるFDセミナーへ参加した。大学院教員の大学院FD研修会への参加（1回以上）は95％以上を達成した。 ○大学院生へのアンケートを実施し、カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を尋ねた結果、満足度「中」以上は75％以上を達成した。また、アンケート結果をもとに大学院生参画によるFD会議を開催した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>大学院教員のFD研修会参加：1回以上の教員：95％</td><td>94.5％</td><td>100.0％</td><td>100.0％</td><td>98.2％</td><td></td><td></td></tr><tr><td>大学院生の満足度：「中」以上 75％</td><td>97.1％</td><td>96.6％</td><td>96.2％</td><td>100.0％</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○大学院生へのアンケート、大学院生参画によるFD会議、各専攻によるFD研修会議を連動させながら、院生教育の充実を図る。 ○学外講師によるFDセミナーの開催、学外で開催されるFDセミナーへの参加を通して、教員の教育能力の向上を図る。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	大学院教員のFD研修会参加：1回以上の教員：95％	94.5％	100.0％	100.0％	98.2％			大学院生の満足度：「中」以上 75％	97.1％	96.6％	96.2％	100.0％					B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																										
大学院教員のFD研修会参加：1回以上の教員：95％	94.5％	100.0％	100.0％	98.2％																												
大学院生の満足度：「中」以上 75％	97.1％	96.6％	96.2％	100.0％																												

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号																				
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																			
※4 教員の教育能力の向上の続き	2【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護学部と臨床との看護ユニフィケーションを構築し、教員の臨床での継続教育への参画を企画、実践していく。 ②大学と臨床現場との看護実践・教育・研究が有機的に連携するために、臨床教授等と協働したワークショップや講習会などを企画し、実習指導力を向上させる。 ③両学部と他大学との情報共有しながら、教育能力向上のための合同研修会などについて、検討及び実施する。 ○達成目標 ・臨床との共同研究数 ：年に1件以上 ・教員・指導者講習会実施数 ：年に1回以上 ・教員の臨床継続教育者数 ：年に1人以上 ・他大学との合同FD開催数 ：年に1回以上	2-1	【平成27年度計画】 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞ ○他大学との合同研修会などの検討 ・社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として、研究大会及び合同研修会等を継続実施する。 ○ブラッシュアップのためのセミナーを開講する。 ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行う。 ・臨床との共同研究を実施（継続） ・教員と臨床教授等の合同講習会実施 年1回以上（継続） ・ブラッシュアップのためのセミナー開催 ・実習に関する他大学との合同研修会、FD等を実施する。 ○達成目標 ＜看護学部＞ ・臨床との共同研究を実施 （1件以上／年）（継続） ・他大学との合同研修会、FD等を実施 （1回以上／年）		1	【平成27年度の実施状況】 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞ ○他大学との合同研修会などの検討 ・社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として、12/13の九州ブロック研究会に参加した。 また、2/18、19日に開催された社会福祉士養成校協会九州ブロック研究大会の企画に携わり、シンポジストなどとして社会福祉コース教員が参加した。 ○ブラッシュアップのためのセミナーについては12/16に実施し、社会福祉コース教員全員が参加した。 テーマ：「親の離婚後の子供の面会交流を支える」「福岡県立大学社会福祉学科に期待すること」 ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行う。 ・臨床との共同研究を実施（継続中）6件 ・教員と臨床教授等の合同講習会を9/17に実施。 ・ブラッシュアップのためのセミナーを9/17に開催。 ・実習に関する他大学との合同研修会、FD等を実施（8月）した。 ○目標達成 ・臨床との共同研究：（継続）6件 ・他大学との合同研修会、FD等を実施： 1回		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		14																			
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○看護学部と臨床との看護ユニフィケーション構築に関しては実習調整会議や研究会などを通して実施した。 ○大学と臨床現場との看護実践・教育・研究の有機的に連携に関しても、研修会や研究指導などを実施して指導者の教育指導力向上に寄与した。 ○目標実績 <table><tr><th>達成目標数値</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr><tr><td>臨床との共同研究：年1件以上</td><td>5件</td><td>6件</td><td>16件</td><td>6件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>他大学との合同研修会、FD等：年1回以上</td><td></td><td></td><td></td><td>1回</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○これまでの取り組みの継続と内容の見直しを行う。	達成目標数値	H24	H25	H26	H27	H28	H29	臨床との共同研究：年1件以上	5件	6件	16件	6件			他大学との合同研修会、FD等：年1回以上				1回				B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	
達成目標数値	H24	H25	H26	H27	H28	H29																								
臨床との共同研究：年1件以上	5件	6件	16件	6件																										
他大学との合同研修会、FD等：年1回以上				1回																										

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																																																																		
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番 号	中期	年度																																																																
5 優秀な学生の確保 本学の教育目標にかなった、健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲をもつ学生を質・量ともに確保する。	1【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 ①学部・大学院で育成すべき学生像に沿って定めた学生・院生の受け入れ方針をもとに行っている選抜方法が効果的な方法であるかを検討する。 ②入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との分析を行い、選抜方法などの見直しを行う。 ③高校や高校生との連携を深めるための高大連携事業について検討・実施する。 ④大学院の入試説明会を見直ししながら実施する。 ○達成目標 ・志願倍率＜各学科の志願倍率（一般入試）＞ （志願者数／募集人員） ：公共社会学科 6.5倍以上 社会福祉学科 6.0倍以上 人間形成学科 7.5倍以上 看護学科 5.5倍以上 ・辞退率＜各学科＞ （辞退者数／合格者数(追加除く)） ：両学部における辞退率 25%以下 ・充足率＜大学院＞ （入学者数／入学定員） ：大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート ：出前講義(体験学習含む) 20回以上、良好評価75%以上	1-1【平成27年度計画】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 ＜学部＞ ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するために、以下の取組を行う。 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について分析し、現行の入学者選抜方法における課題を抽出する。 ・新たな高大連携事業として、「高校生向けサマーセミナー」を実施する。 ・人間社会学部改革に伴い、人間社会学部の新たなアドミッションポリシーを幅広くPRする。 ＜大学院＞ ○大学院入試部会を複数回開催し、現状分析を行い、アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について検討する。 ○大学院入試説明会を継続して実施する ・看護学研究科にH27年度から開講した助産学コース、老年看護CNSコースの入試説明会を学内外で実施する。 ○達成目標 ・一般入試の志願倍率(志願者数／募集人員) 公共(6.5倍)、社福(6.0倍)、形成(7.5倍)、看護(5.5倍) ・両学部における辞退率 (辞退者数/合格者数(追加除く)) :25%以下 ・充足率＜大学院＞（入学者数／入学定員） ：大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート ：20回以上、良好評価75%以上	1	1	【平成27年度の実施状況】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 ＜学部＞ ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するために、以下の取組を行った。 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について分析し、現行の入学者選抜方法における課題抽出を行った。 ・新たな高大連携事業として、「高校生向けサマーセミナー」を実施した。 夏のオープンキャンパスと同時開催(8/8) 看護学部講座「妊娠・出産を考える」参加者57名 人間社会学部講座「社会福祉について考える-虐待の現状と課題-」参加者16名 「高校生向けサマーセミナー」の実施報告を含む、高校教員との「高大連携に関する情報交換会」を開催(11/7、参加者5校5名) ・人間社会学部改革に伴い、人間社会学部の新たなアドミッションポリシーを以下の方法でPRした。 ホームページ、入試要項、夏のオープンキャンパス、秋のオープンキャンパス、高校訪問等 ＜大学院＞ ○大学院入試部会を2回開催し、現状分析等を行った。 ○大学院入試説明会を継続して実施する ・看護学研究科にH27年度から開講した助産学コース、老年看護CNSコースの入試説明会を 以下のとおり実施した。 助産：学内(3回実施、22名参加)、学外(チラシを学会等で配布) 老年：学内(2回実施、2名参加)、学外(7回実施、7名参加) 【新たな取組】 ・学部入試部会に入試制度改善小部会を常設の組織として設置し、高大接続改革へ向けた検討を開始した。	B	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・大学院における充足率 看護学研究科における助産学コース、老年看護CNSコースの開設、人間社会学研究科における社会福祉専攻の平成28年度からの土日開講等により、前年度からは上昇した。 No.1 「入学者選抜試験」 No.5 「出前講義」	15																																																																		
					1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜学部＞ ○高大接続改革へ向けて、学部入試全般の見直しを開始した。 ○入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について毎年分析する仕組みを構築した。 ○新たな高大連携事業として、「高大連携に関する情報交換会」でのニーズ把握を踏まえて、「高校生向けサマーセミナー」を開始した。 ＜大学院＞ ○大学院入試部会にて定員充足に関する課題を分析し、アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保に取り組んだ。 ○大学院入試説明会を学内及び学外にて継続して実施した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>一般入試の志願倍率：公共社会 6.5倍以上</td><td>11.1倍</td><td>4.0倍</td><td>8.6倍</td><td>7.4倍</td><td></td><td></td></tr><tr><td>”：社会福祉 6.0倍以上</td><td>6.3倍</td><td>4.8倍</td><td>7.2倍</td><td>6.6倍</td><td></td><td></td></tr><tr><td>”：人間形成 7.5倍以上</td><td>9.0倍</td><td>9.6倍</td><td>8.1倍</td><td>9.3倍</td><td></td><td></td></tr><tr><td>”：看護学科 5.5倍以上</td><td>6.0倍</td><td>5.1倍</td><td>5.7倍</td><td>5.9倍</td><td></td><td></td></tr><tr><td>両学部における辞退率：25%以下</td><td>24.5%</td><td>24.8%</td><td>20.9%</td><td>21.5%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>大学院における充足率：100%</td><td>66.7%</td><td>66.7%</td><td>81.5%</td><td>87.5%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>出前講義：20回以上</td><td>30回</td><td>26回</td><td>31回</td><td>25回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 アンケート：良好評価75%以上</td><td>90.5%</td><td>98.9%</td><td>94.5%</td><td>97.9%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ＜学部＞ ○高大接続改革へ向けて、学部入試全般の見直しを行い、優先順位の高い改革項目について実施スケジュールを公表する。 ○入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について分析する。 ○「高大連携に関する情報交換会」でのニーズ把握を踏まえて、「高校生向けサマーセミナー」を行う。 ＜大学院＞ ○アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保に取り組む。 ○大学院入試説明会を見直しながら実施する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	一般入試の志願倍率：公共社会 6.5倍以上	11.1倍	4.0倍	8.6倍	7.4倍			”：社会福祉 6.0倍以上	6.3倍	4.8倍	7.2倍	6.6倍			”：人間形成 7.5倍以上	9.0倍	9.6倍	8.1倍	9.3倍			”：看護学科 5.5倍以上	6.0倍	5.1倍	5.7倍	5.9倍			両学部における辞退率：25%以下	24.5%	24.8%	20.9%	21.5%			大学院における充足率：100%	66.7%	66.7%	81.5%	87.5%			出前講義：20回以上	30回	26回	31回	25回			同 アンケート：良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%			B	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・大学院における充足率 定員充足に関する課題分析、専攻の見直しや新コース設置、継続的な入試説明会実施に取り組む、充足率は上昇している。		中期 15
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																																					
一般入試の志願倍率：公共社会 6.5倍以上	11.1倍	4.0倍	8.6倍	7.4倍																																																																							
”：社会福祉 6.0倍以上	6.3倍	4.8倍	7.2倍	6.6倍																																																																							
”：人間形成 7.5倍以上	9.0倍	9.6倍	8.1倍	9.3倍																																																																							
”：看護学科 5.5倍以上	6.0倍	5.1倍	5.7倍	5.9倍																																																																							
両学部における辞退率：25%以下	24.5%	24.8%	20.9%	21.5%																																																																							
大学院における充足率：100%	66.7%	66.7%	81.5%	87.5%																																																																							
出前講義：20回以上	30回	26回	31回	25回																																																																							
同 アンケート：良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%																																																																							

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																																																		
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番 号	中期	年度																																																
※5 優秀な学生 の確保 の続き	2【積極的な広報活動】 ①大学紹介のパンフレットの内容を改善する。 ②入試説明会の依頼には積極的に応じて大学をPRする。 ③オープンキャンパスは毎年アンケートをとり、実施内容を評価しながら改善に取り組む。 ④ホームページの入試ページの更新、内容の工夫をする。 ⑤大学祭など大学に外来者が来訪する機会を捕らえて、パンフレット配布等のPRを行う。 ○達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート ：1000名以上、良好評価 75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート ：10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート ：30校、良好評価75%以上	2-1	【平成27年度計画】 【積極的な広報活動】 ○ 広報活動等の改善の検討 ・受験生等が求める入試説明会について、実施方法の再検討を継続して行う。 ・受験生等の知りたい入試情報を提供すると の視点に立ち、高校訪問の実施方法の再検討を継続する。 ○広報活動等の実施・修正 ・大学紹介パンフレットの作成・改善 ・メール配信について具体策を検討する。 ・ホームページの入試ページの内容を工夫し、情報アップロードの時期等を継続して改善する ○達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート ：1000名以上、良好評価 75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート ：10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート ：30校、良好評価75%以上		1	【平成27年度の実施状況】 【積極的な広報活動】 ○ 広報活動等の改善の検討 ・受験生等が求める入試説明会について、実施方法を再検討し、高1、高2生向けを拡充することを決定した。 高1、高2生をターゲットにした大規模イベント「夢ナビライブ2015」に新たに参加（10/17） ・受験生等の知りたい入試情報を提供すると の視点に立ち、高校訪問の実施方法を再検討し、高校訪問での説明内容標準化のためのスライド作成を決定した。 ○広報活動等の実施・修正 ・大学紹介パンフレットを人間社会学部分を大幅に改訂して発行した。 ・受験生向けメール配信に替えて、SNSによる情報発信を行うことを決定した。 ・ホームページの入試ページの内容と情報アップロードの時期を改善し、スマートフォン用ホームページ（入試情報）の運用を開始した。 ○目標実績 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1,792名、良好評価 93.5% ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価100% ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価96.7% 【新たな取組】 ・広報活動の新しい取組として、大学入試資料請求サイトにバナー広告を掲載した。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】 No.3 「高校訪問」 No.4 「入試説明会」 No.5 「出前講義」 No.6 「オープンキャンパス」		16																																																
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○従来からの手法による広報活動を継続的に改善しながら実施した。 ○スマートフォン用ホームページ（入試情報）の運用を開始した。 ○広報活動の新しい取組として、大学入試資料請求サイトにバナー広告の掲載を開始した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>オープンキャンパス参加者数：1000名以上</td><td>1,195</td><td>1,702</td><td>1,402</td><td>1,792</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 アンケート：良好評価75%以上</td><td>95.9%</td><td>96.3%</td><td>95.5%</td><td>93.5%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>入試説明会：10会場</td><td>15会場</td><td>11会場</td><td>11会場</td><td>10会場</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 アンケート：良好評価75%以上</td><td>100.0%</td><td>98.7%</td><td>98.7%</td><td>100.0%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>訪問高校数：30校</td><td>27校</td><td>37校</td><td>32校</td><td>30校</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 アンケート：良好評価75%以上</td><td>91.4%</td><td>96.6%</td><td>97.8%</td><td>96.7%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○従来からの手法による広報活動を継続的に改善しながら実施する。 ○スマートフォン用ホームページ（入試情報）を充実させる。 ○SNSによる広報活動を開始する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	オープンキャンパス参加者数：1000名以上	1,195	1,702	1,402	1,792			同 アンケート：良好評価75%以上	95.9%	96.3%	95.5%	93.5%			入試説明会：10会場	15会場	11会場	11会場	10会場			同 アンケート：良好評価75%以上	100.0%	98.7%	98.7%	100.0%			訪問高校数：30校	27校	37校	32校	30校			同 アンケート：良好評価75%以上	91.4%	96.6%	97.8%	96.7%				B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																					
オープンキャンパス参加者数：1000名以上	1,195	1,702	1,402	1,792																																																							
同 アンケート：良好評価75%以上	95.9%	96.3%	95.5%	93.5%																																																							
入試説明会：10会場	15会場	11会場	11会場	10会場																																																							
同 アンケート：良好評価75%以上	100.0%	98.7%	98.7%	100.0%																																																							
訪問高校数：30校	27校	37校	32校	30校																																																							
同 アンケート：良好評価75%以上	91.4%	96.6%	97.8%	96.7%																																																							

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号																																																	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																																																
6 学生支援の充実 学生の学習意欲を高める仕組みづくりを行うとともに、入学から卒業後までのキャリア形成支援体制を充実させ、学習・就職活動を支援する。	1【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと各学部・学科との連携を深め、学生一人ひとりに対応したキャリア形成支援を行う。 ②1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みづくりを行い、実施する。また、キャリアサポートセンターの個別支援と連動させ、個々の学生の必要に応じた受講を促す。 ③1～2年次に行うブレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ④マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定の仕組みを導入し、社会貢献・ボランティア支援センターと連携しながら実施する。 ⑤未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ⑥優秀学生の表彰制度の構築やドロップアウト予防の学習支援体制の構築等、GPA制度の有効活用について検討・実施する。 ○達成目標 ・ブレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施 ：表彰の実施(年1回)	1-1	2	2	【平成27年度の実施状況】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生のキャリア形成支援 ・キャリアサポートセンターの個別相談機能の強化として、4人のカウンセラーと個別に2回情報交換を実施した。 ・キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めるため、進路・生活支援部会を通じて情報の共有化を図り、学生のキャリア形成支援について協議した。また、キャリアサポートセンターや各学科で実施しているキャリア形成支援イベントを取りまとめ、電子掲示板を通じて学生に周知した(部会：8回実施)。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座については、以下のとおり実施した。 1年次生：キャリア形成支援講座Ⅰ・Ⅱ(4月開催、136名受講) 2年次生：キャリア形成支援講座Ⅲ(4月開催、121名受講) 3年次生：就職ガイダンス(10月から全12回実施) 4年次生：ライフデザインセミナー(4年生を含む全学生対象。12月に2回実施) ○平成26年度ブレ・インターンシップの受講者(33名)のうち4名が夏季インターンシップで活動した。また、今年度は夏季インターンシップに22名、春季インターンシップに10名、実践型インターンシップに8名(夏季4名、学期中4名)が参加した。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定に関し、マイキャリアポケットを全学年の771名に配布した。平成27年度ブレ・インターンシップの履修学生は30名である。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対するサービスとして、学生支援班から既卒者向けの求人情報等の案内などを郵送・メール等で情報提供した。また、キャリアサポートセンターで既卒者向けの求人ファイルを設置し、既卒者支援の充実を図った。 ○優秀学生8名の表彰を年度末に行った。GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施した。 ○全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」の取組として、1・2年次生「ブレ・インターンシップ」単位取得者を「実践型インターンシップ」の対象者とする初年次からの段階的なインターンシップ・プログラムマップを整備し、「ブレ・インターンシップ」単位取得者を対象に中長期・実践型インターンシップを試行的に実施した(2名)。 ○目標実績 ・ブレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート： 良好評価 100% ・キャリア形成支援講座参加者アンケート： 良好評価 81.7% ・GPA制度の活用状況調査： GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施 1回 ・キャリアサポートセンター利用数： 利用者実数：201名、延べ878件	B	【高く評価する点】 ・初年次からブレ・インターンシップ(仕事理解型)、実践型インターンシップ(課題協働型・事業参画型)、インターンシップ(職業選択準備型)への段階的インターンシップ・プログラムマップを整備した。 【実施(達成)できなかった点】 ・キャリアサポートセンター利用数 開室日数が前年度より減少(26年度：219日→27年度：205日)したが、利用率は前年度と同等以上を維持した。	No35 「キャリアサポートセンター利用状況」	17																																																		
			2		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するため、カウンセラーと学生支援班とで検討会を実施してきた。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座として、1年次生対象のキャリア形成支援講座Ⅰ・Ⅱ、2年次生対象のキャリア形成支援講座Ⅲ、3年次生対象の就職ガイダンス等を実施してきた。 ○1・2年次生対象の「ブレ・インターンシップ」を充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげてきた。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した「ブレ・インターンシップ」(正課科目)を実施してきた。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行ってきた。 ○優秀学生の表彰の実施、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施してきた。 ○平成27年度に全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」を試行し、課題を検討した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>ブレインターンシップ・インターンシップ学生アンケート： 良好評価75%以上</td><td>83.9%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>キャリア形成支援講座参加者アンケート： 良好評価75%以上</td><td>99.4%</td><td>98.7%</td><td>80.7%</td><td>81.7%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>GPA2.0未満の学生面接率： 100%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>学生表彰の実施： 年1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>キャリアサポートセンター利用者数： 実数250人以上</td><td>228</td><td>261</td><td>203</td><td>201</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同： 延べ1,100件以上</td><td>1,093</td><td>1,102</td><td>889</td><td>878</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するため、カウンセラーと学生支援班とで検討会を実施する。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座を実施する。 ○1・2年次生対象の「ブレ・インターンシップ」を充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した「ブレ・インターンシップ」(正課科目)を実施する。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ○優秀学生の表彰の実施、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施する。 ○全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」を実施し、課題を検討する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	ブレインターンシップ・インターンシップ学生アンケート： 良好評価75%以上	83.9%	100.0%	100.0%	100.0%			キャリア形成支援講座参加者アンケート： 良好評価75%以上	99.4%	98.7%	80.7%	81.7%			GPA2.0未満の学生面接率： 100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			学生表彰の実施： 年1回	1回	1回	1回	1回			キャリアサポートセンター利用者数： 実数250人以上	228	261	203	201			同： 延べ1,100件以上	1,093	1,102	889	878			B	【高く評価する点】 ・平成27年度に全学横断型教育プログラムの1つとして「キャリア形成支援プログラム」を試行し、初年次からの段階的インターンシップ・プログラムマップを整備した。 【実施(達成)できなかった点】 ・キャリアサポートセンター利用数 開室日数の減少や就職活動スケジュールの後ろ倒しの影響等により、平成26年度において利用者数が減少したが、平成27年度は利用率を同等以上に維持した。		中期 17	
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																					
ブレインターンシップ・インターンシップ学生アンケート： 良好評価75%以上	83.9%	100.0%	100.0%	100.0%																																																							
キャリア形成支援講座参加者アンケート： 良好評価75%以上	99.4%	98.7%	80.7%	81.7%																																																							
GPA2.0未満の学生面接率： 100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%																																																							
学生表彰の実施： 年1回	1回	1回	1回	1回																																																							
キャリアサポートセンター利用者数： 実数250人以上	228	261	203	201																																																							
同： 延べ1,100件以上	1,093	1,102	889	878																																																							

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号																								
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																							
※6 学生支援の 充実 の続き	2【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①九州沖縄の大学間の学生コンソーシアムを構築し、学生間の交流を促進し、学生が主体的に学生コミュニティを作り、大学生としての「学びの文化」の創造を目指す。 ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 ：1回／年 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 ：対面会議 2回以上／年	2-1	【平成27年度計画】 【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施 ・学生コンソーシアムを支援する教員の体制づくり ○学生コンソーシアム会議の開催 ○学生フェスティバルの開催 ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 ：1回／年、学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 ：対面会議年2回	1	【平成27年度の実施状況】 【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施 ・学生コンソーシアムを支援する教員の体制づくりとして、11大学から15人の教職員が学生コンソーシアム担当者として支援を行っている。本学からは6名の教員が大学コンソーシアムに関わり、うち1名を学生コンソーシアム担当者とした。 ○学生コンソーシアム会議の開催について、本年度は8回実施（5/30、6/13、8/12、9/20、10/18、10/31、12/19、3/21）した。 ○学生フェスティバルの開催 ・11/1に産業医科大学にて「医生祭」と共催にて実施した。参加者総数161名。沖縄3大学からは計6名が参加した。 ・学生委員交流会を8/12、3/21に開催、それぞれ18名、8名が参加した。 ○目標実績 ・学生フェスティバルの開催： 1回/年、学生交流会2回/年、県大からは左記に延べ23名が参加。 ・学生コンソーシアム会議： 対面会議8回	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		18																									
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○本学が代表となり、12大学連携のもとケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアムを構築した。 ○学生コンソーシアムを構築し、活発な学生間交流をおこなうことができた。 ○学生フェスティバルを毎年開催した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>学生フェスティバルの開催：年1回</td><td>2回</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 県立大学からの参加：20名以上</td><td>15人</td><td>5人</td><td>延べ24名</td><td>延べ23名</td><td></td><td></td></tr><tr><td>学生コンソーシアム会議の開催：対面会議年2回以上</td><td>9回</td><td>13回</td><td>12回</td><td>8回</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○大学間連携共同教育事業を大学コンソーシアム事業のひとつとして引き継いでいく。 ○学生コンソーシアムによる取り組みを推進し、学生フェスティバルを開催する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生フェスティバルの開催：年1回	2回	1回	1回	1回			同 県立大学からの参加：20名以上	15人	5人	延べ24名	延べ23名			学生コンソーシアム会議の開催：対面会議年2回以上	9回	13回	12回	8回			A
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																												
学生フェスティバルの開催：年1回	2回	1回	1回	1回																														
同 県立大学からの参加：20名以上	15人	5人	延べ24名	延べ23名																														
学生コンソーシアム会議の開催：対面会議年2回以上	9回	13回	12回	8回																														

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※6 学生支援の 充実 の続き	3【大学院生支援の充実】 ①大学院生の入学から修了までの 学生生活支援、教育研究活動支援 を行う。 具体的には、学習及び研究環境 に対する相談体制を整えるとともに、 大学院生研究助成制度の新 設、本学卒業生の大学院入学金減 免措置について大学独自の奨学金 の創設・活用の検討・実施、大学院 生の国内学会参加費補助制度の構 築などを行う。 ○達成目標 ・助成金の実施状況 ：3件以上／年 ・国内学会参加費補助制度の活用 件数：4件以上／年	3-1	【平成27年度計画】 【大学院生支援の充実】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 ＜地域教育支援専攻＞ ・相談体制を改善するために、長期履修生を含め た大学院生の要望を聴取するための方法を具体 的に検討する。 ＜心理臨床専攻＞ ・H26年度実施したアンケートの結果を踏まえ改善 点を検討する。 ＜社会福祉専攻＞ ・現在、各担当教員は学生のニーズや希望する開 講・相談時間について合わせられるように調整し ている。今後も継続して取り組んでいく。 ＜看護学研究科＞ ・大学院生からの要望(学習環境・連絡体制・個別 問題等)について、学務部会やFD部会と連携し、 体制を整える。 ○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向けた 検討 ・代替策の実現可能性も含め、一部実施に向けた 検討を行う。 ○達成目標 ・助成金の実施状況：1件以上 ・国内学会参加費補助制度の活用件数：1件以上		1	【平成27年度の実施状況】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 ＜地域教育支援専攻＞ ・相談体制の改善のために、当該大学院生からの意見を集約した。 ＜心理臨床専攻＞ ・相談体制につき、前年度実のアンケートに加え、本年度は学生からの面接による意見聴取を行い、結果として高い評価 を受けていることが確認された。 ＜社会福祉専攻＞ ・学生からの要望に対応し、来年度からの土日祝日開講導入などにより、可能な限り学生のニーズや希望を反映した開 講・相談体制の構築に取り組んだ。 ＜看護学研究科＞ ・学習環境・連絡体制・個別問題等、昨年度整えた体制についての課題や改善点を学務部会で情報収集した結果、院生 からの要望が多かったパソコンの整備を行い、学習環境の改善を図った。 ○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向けた検討に関しては、改革推進会議で議論した。 ○達成目標 ・助成金の実施状況：3件 ・国内学会参加費補助制度の活用件数：3件		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		19
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜人間社会学研究科＞ ○継続的な学生からの面接やアンケートにより学習や研究環境への要望を聞き取る相談体制を構築するとともに、土日祝 日開講導入などにより聞き取った学生のニーズに対応する具体的な対応策を講じた。 ＜看護学研究科＞ ○連絡体制の整備(休講や災害時・緊急時の連絡方法など)を図るとともに、学習環境の整備として、院生講義室と研究室 の整備(机、椅子、ロッカーの補充)、視聴覚教材の整備、パソコン機器の再整備等、学生の要望を取り入れた整備を実 施した。 【平成28、29年度の実施予定】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 ・引き続きアンケートや面接を通して学生のニーズを掌握し、学生相談体制の充実に向けた取組みを行う。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 19	

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度															
7 学習環境の充 実 学部生及び大 学院生がインター ネット社会に対応 した学習環境の 中で、学習できる 環境を整備する。 また社会人学生 が学習しやすい 体制を整備する ことで、大学院志 願者の増加をめ ざす。	1【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ 学生の自主的学習を促すために、 授業時間外の学習を支援するeラー ニングシステムの活用を推進する。 ①eラーニングシステムの教育効果 を上げる活用方法を検討する。 ②eラーニングシステムを改善する。 ③一定のコース開設数を維持する。 ④一定の学生の利用率を維持す る。 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数 ：100以上(平成26年度以降) ・学生の利用率 70%以上(平成26年度以降)	1-1	【平成27年度計画】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの教育効果を上げるための 活用方法を検討 ・教員向け講習会の実施 ○eラーニングシステムの改善の検討 ○コース開設数調査の実施 数値目標 100コース開設 ○学生の利用率調査の実施 ・学生利用率の達成目標 70%以上 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数 :100コース ・学生の利用率 :70%以上	1	【平成27年度の実施状況】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの教育効果を上げるための活用方法を検討 ・教員向け講習会を6/3(参加者35名、部会員含む)と9/15(参加者12名、部会員含む)に実施 ○eラーニングシステムの改善の検討 eラーニング及びICT環境に関しての学生ニーズ調査をeラーニングにて実施した ○コース開設数調査の実施 年間開設数 全体111コース(人間社会学部42コース、看護学部69コース)、学外3コース ○学生の利用率調査の実施 ・学生利用率 年間 全体87%(人間社会学部81%、看護学部99%) ○目標実績 ・eラーニングコース開設数: 111コース(他に学外3コース) ・学生の利用率: 87.0%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		20																	
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討し、教員に対して講習会を開催した。 ○学生に対してアンケート調査を行い、より活用しやすいシステムにするために、改変などの検討及び実施を行った。IT教育 システムの充実を図るために、平成27年度には情報処理教室の機材の入れ替えを行い、新しいシステムで学習できる環 境を提供した。また、少人数でも学習できる教室を情報処理教室3として整えた。 ○教員が開設するコース数は各年度で目標を達成した。 ○学生の利用率は各年度で目標を達成した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>eラーニングコース開設数: 100以上(H26年度以降)</td><td>87</td><td>92</td><td>119</td><td>111</td><td></td><td></td></tr><tr><td>学生の利用率: 70%以上(H26年度以降)</td><td>74.3%</td><td>82.3%</td><td>88.0%</td><td>87.0%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討し、教員に対して講習会を開催する。 ○動画やアンケート集計結果などが不自由なく閲覧できる状況へシステムを改変することを検討する。学内LANの更新時期 にあたるため、よりIT教育システムが利用しやすい環境となるように無線LANのアクセスポイントについても検討していく予 定である。 ○一定のコース開設数を維持する。 ○一定の学生の利用率を維持する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	eラーニングコース開設数: 100以上(H26年度以降)	87	92	119	111			学生の利用率: 70%以上(H26年度以降)	74.3%	82.3%	88.0%	87.0%			B
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																				
eラーニングコース開設数: 100以上(H26年度以降)	87	92	119	111																						
学生の利用率: 70%以上(H26年度以降)	74.3%	82.3%	88.0%	87.0%																						

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																		
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																	
※7 学習環境の 充実 の続き	2【社会人が学びやすい学習環境の 充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ①社会人が学びやすい学習環境の 充実(サテライト教室の整備充実) ②既修得単位認定システムの整備 (システムの明文化とHPでのイン フォメーション) ③指導システムの充実 ④研究生制度の積極的活用 ○達成目標 ・アンケートによる満足度 :参加した社会人のアンケート調 査における良好評価 70%以上	2-1	【平成27年度計画】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○eラーニングでのレポート提出とコメントのフィード バック充実 ・レポートのWEB提出、コメントなどIT環境の整備 ・eラーニングをより良く活用するための検討 ○両研究科の新入生及び在学生のオリエンテーショ ンで博多サテライト(ビズコリ)教室利用マニュアル を周知、及び利用に関するアンケートの実施 ○県下の医療機関に、ホームページの大学院のトッ プページに掲載している「社会人が学びやすい学 習環境の整備」の内容のインフォメーションを実施 ○研究生制度の積極的活用 ○達成目標 ・eラーニングでのレポート提出とコメントのフィード バックの件数、2件以上 ・ビズコリでの授業参加者の全体満足度 :普通以上70%	1	【平成27年度の実施状況】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック充実 ・人間社会学研究科では1科目でeラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックを行った。 ・看護学研究科では4科目でレポートのWEB提出を実施、コメントなどのフィードバックを行った。 ・看護学研究科ではeラーニングをより良く活用するための検討として1科目で講義アンケートを実施した。 ○新入生及び在学生のオリエンテーションで博多サテライト(ビズコリ)教室利用マニュアルを周知した。利用に関するアン ケートに関しては3月に実施し、おおむね良好であった。 ○県下の医療機関に、ホームページの大学院のトップページに掲載している「社会人が学びやすい学習環境の整備」の内 容のインフォメーションについて実施した。 ○研究生制度の積極的活用に関して、条件を検討し、今後の検討課題とした。 ○目標実績 ・eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数: 5件 ・ビズコリでの授業参加者の全体満足度: 普通以上80%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		21																			
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○社会人が学びやすい学習環境としてサテライト教室の整備充実をおこなった。 ○既修得単位認定システムの整備をおこなった。 ○指導システムとしてeラーニングの活用や主にCNSコースの修了後の研究指導を行った。 ○研究生制度の積極的活用に関しては見直しをおこなった。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック: 2件以上</td><td></td><td></td><td>4件</td><td>5件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>博多サテライト(ビズコリ)授業参加者の全体満足度: 普通以上70%</td><td></td><td>75.0%</td><td></td><td>80.0%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○IT環境の整備		H24	H25	H26	H27	H28	H29	eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック: 2件以上			4件	5件			博多サテライト(ビズコリ)授業参加者の全体満足度: 普通以上70%		75.0%		80.0%			B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																						
eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック: 2件以上			4件	5件																								
博多サテライト(ビズコリ)授業参加者の全体満足度: 普通以上70%		75.0%		80.0%																								

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																								
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番 号	中期	年度																						
※7 学習環境の 充実 の続き	3【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ①教育・研究活動支援の充実と研究情報公開の視点から機関リポジトリの導入 ②ラーニングコモンズの設置 ③平日の開館時間延長・土日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 ：新規登録数年30件以上 ・ラーニングコモンズ利用者数 ：月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 ：月200名以上	3-1	【平成27年度計画】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリの拡充 ○ラーニングコモンズの利用とその促進 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 ：新規登録数年15件以上 ・ラーニングコモンズ利用者数：月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数：月200名以上	1	【平成27年度の実施状況】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリ運営指針を改訂し、両学部の研究紀要の他、「心理臨床研究」を登録対象に追加した。 また、個人申請についての検討を開始した。 ○ラーニングコモンズの利用状況を確認、また、ニーズ調査を実施した。 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館については予定通り実施した。 ○目標実績 ・機関リポジトリ登録件数：新規登録16件 ・ラーニングコモンズ利用者数：月209人(平均) ・開館延長時間内の利用者数：月124人(平均)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・ラーニングコモンズ利用者数 ・開館延長時間内の利用者数 図書館システム更新に伴い、約1カ月開館日数が減少したこと、1～2月の厳冬期の平均室温が低かったこと等により、利用者数が伸びなかった。	No.11 「図書館」	22																								
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ○機関リポジトリについては、計画どおり平成26年度から導入した。 ○ラーニングコモンズについては、計画より1年早い平成26年度に、看護学部分館に開設した。 ○平日の開館時間延長・日曜祝日開館は、看護学部分館において計画どおり実施した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>機関リポジトリ登録件数：新規登録数 年30件以上</td><td></td><td></td><td>21件</td><td>16件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>ラーニングコモンズ利用者数：月300名以上</td><td></td><td></td><td>259</td><td>209</td><td></td><td></td></tr><tr><td>開館延長時間内の利用者数：月200名以上</td><td></td><td>205</td><td>202</td><td>124</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○機関リポジトリの一層の拡充を図る。 ○本館へのラーニングコモンズの設置について検討する。					H24	H25	H26	H27	H28	H29	機関リポジトリ登録件数：新規登録数 年30件以上			21件	16件			ラーニングコモンズ利用者数：月300名以上			259	209			開館延長時間内の利用者数：月200名以上		205	202
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																											
機関リポジトリ登録件数：新規登録数 年30件以上			21件	16件																													
ラーニングコモンズ利用者数：月300名以上			259	209																													
開館延長時間内の利用者数：月200名以上		205	202	124																													

中期計画				ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号	
項目	実施事項	平成27年度計画		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
8 人間社会学部の改革 人間社会学部は平成4年の設置時に10年間を目途に大幅改組の予定であった。しかし、その間、改組はされておらず、あわせて受験数が減少していく動向にある。そのため、学生	1【改革案の検討・作成】 ①将来構想を基に、具体的な検討のための組織を立ち上げる。 ②労働市場や学生のニーズ等を調査する。 ③平成25年度までに改革案を検討・作成し中期計画の変更を行う。 ○達成目標 ・改革案の作成 :平成25年度までに作成	1-1	【平成27年度計画】 【改革案の検討・作成】 ○改革案を実行に移す。 ・教員組織において、学科制度を廃止し全教員を「人間社会学系」所属とする。 ・平成28年より開設する履修5コースに沿った教員配置を行い、カリキュラムを決定する。 ・3全学横断型教育プログラムを開設し、平成28年度開設1プログラムのカリキュラムを完成させる。 ・上記改革にともない必要な申請を文科省に対して行う。		2	【平成27年度の実施状況】 ○改革案を実行に移す。 ・教員組織において、学科制度を廃止し全教員を「人間社会学系」所属とした。 ・平成28年より開設する履修5コースのカリキュラムを決定し、それに沿った教員配置と採用人事を行った。 ・3つの全学横断型教育プログラムを開設した。また、平成28年度開設の新プログラムとして保健福祉情報教育プログラムのカリキュラムを作成した。 ・上記改革にともない必要な届出を文科省に対して行った。		A	【高く評価する点】 ・学科制からコース制への移行と新プログラムの導入とカリキュラムの大幅な見直しを実行した。 【実施(達成)できなかった点】			23
				2		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成25年度に作成した学科制からコース制への改変と全学横断型教育プログラム開設に基づく改革案を、平成26、27年度に実施し、計画通りの体制を構築し、この改革に対応した人事採用やカリキュラム改変等を実行した。 【平成28、29年度の実施予定】 ○改革を進める。 ・卒論にいたるカリキュラムとして保健福祉情報教育プログラムを開設する。また、他の3全学横断型教育プログラム(援助力養成、国際交流、キャリア形成支援)の充実を図る。	A	【高く評価する点】 ＜人間社会学部＞ ・学科制からコース制への移行と新プログラムの導入とカリキュラムの大幅な見直しを実行した。 【実施(達成)できなかった点】		中期 23		

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
9 両学部連携の 大学院博士課程 の新設 保健・医療・福祉 分野で、国内 のみならずアジア を中核に国際的	1【大学院博士課程の新設検討】 ①人間社会学部の改革検討と併 せ、具体的な検討を行う。 ②平成25年度までに改革案を検 討・作成し、中期計画の変更を行 う。	1-1	【平成27年度計画】 【大学院博士課程の新設検討】 ・学部改革及び大学院修士課程の現状を協議し、 博士課程構築の方向性を検討する。	1	【平成27年度の実施状況】 【大学院博士課程の新設検討】 ・学部改革及び大学院修士課程の現状を協議し、博士課程構築の方向性を検討する。 全学横断型教育プログラムの構築と修士課程の再編を踏まえた議論を改革推進会議でおこない、引き続き検討を続ける こととなった。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		24		
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ○人間社会学部改革及び大学院修士課程再編を踏まえ、博士課程の新設について方向性を検討してきた。 【平成28、29年度の実施予定】 ○博士課程の新設については、平成29年度内に結論を見出すこととする。		B			【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	
						1					中期 24
		ウェイト総計	中期 26	27年度 26				項目数計		中期 24	27年度 24

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

- ・6-1-1 在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
- ・8-1-1 今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

- ・6-1-1 在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
- ・8-1-1 今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

教育に関する特記事項(平成27年度)											
①文部科学省大学間連携共同教育推進事業の中間評価において、本学を代表校とする取組(8大学連携)が最高ランクのS評価を受けた。47件の取組の中でS評価は7件であり、公立大学が代表校となる取組は全国で唯一のものであった。											
②文部科学省大学教育再生加速プログラム(インターンシップ等を通じた教育強化)の中間評価において、本学を代表とする取組(3大学連携)が高く評価され、全国モデルとなるよう今後の展開に期待しているとのコメントを得た。											
教育に関する特記事項(平成24年度～平成27年度)											
(平成24年度)											
③文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」において、本学を代表校とする九州・沖縄8大学の取組「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」が選定された。											
④文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」において、本学を含む24大学・短大の取組「地域力を生む自立的職業人育成プロジェクト」が選定された。											
⑤放送大学との連携協定を締結した。											
⑥ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアムの福岡県メンバー8校と福岡県警察本部及び関係警察署との間で、「キャンパス・セイフティ・ネットワーク(通称:CSN)」を構築し、展開するための協定を締結した。											
(平成26年度)											
⑦両学部で学ぶ専門科目に加え、専門的職業人に求められる能力を養成する教育プログラムである「全学横断型教育プログラム」を編成し、大学案内にも7頁にわたり記載して、学内外に広く周知した。 全学横断型教育プログラムとして、今年度は「援助力養成プログラム」、「国際交流プログラム」、「キャリア形成支援プログラム」の3プログラムを編成し、今後更に拡充を図ることとしている。											
⑧情報処理教室1及び2の機器更新に伴い、コンピュータを配置した演習室を整備し、学生が自己学習でき、大学院やゼミなど少人数でコンピュータを使用しながら講義ができる環境を整備した(3208演習室)。											

項目別の状況（年度計画項目・中期計画項目）

中期目標 2 研究	「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」 国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の保健・医療・福祉の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。
--------------	---

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																																																																																																																		
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番 号	中期	年度																																																																																																																
1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進 特色ある研究を推進し、特に地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究を推進する。 学術交流大学等との保健・福祉分野における学際的共同研究を実施し、研究成果を国内及びアジア諸国に広く公表していくことで、地域とアジアの保健・医療・福祉の推進に寄与していく。 また、外部研究資金を獲得し、研究を活発にする。	1【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ①地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②学際的研究プロジェクトの成果を学内外に公表する。 ③附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。 ④協定校及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上／年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 :隔年1回開催 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 :隔年1回発刊 ・日中韓等における保健・医療・福祉分野における学術的共同研究の活性化 :シンポジウムの開催 隔年1回 ・産学連携契約件数 :年間2件(継続を含む) ・知的財産セミナーの開催 :年1回 ・メールマガジン(イベント、セミナー、公募事業の紹介)の発行 :年12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 :3名以上(口頭発表、ポスターセッション等) ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 :共同研究数 2件以上／年 招聘件数 2件以上／年 ・提携協定校との共同研究の応募状況 :共同研究応募件数 3件以上／年	1-1【平成27年度計画】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを学内外で把握し、内容を調査・検討する。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討し、他大学の資料を収集ヒアリング調査する。 ○附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進するための学内広報に努め、田川地域包括連携協定のもと協働事業を検討する。 ○協定校(大邱韓医大学校、北京中医薬大学、三育大学校、南京師範大学、コンケン大学)及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進するための学内分担当や戦略について国際学術交流部会と協議し、検討する。 ○日中韓等における保健・医療・福祉分野の学術的共同研究活性化のため、シンポジウムを開催し、関係機関を視察する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上／年 ・産学官連携契約件数 2件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 1回 ・メールマガジンの発行 12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 3名以上 ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 :共同研究数 2件以上 招聘件数 2件以上 ・提携協定校との共同研究応募件数 3件以上 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 :1回		2	【平成27年度の実施状況】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進した。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを学内外で把握し、内容を調査・検討した。4件の応募があった。(北京中医薬大学、大邱韓医大学校、威徳大学、南京師範大学) ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討し、他大学の資料を都留文科大学、福岡女子大学、下関市立大学、北九州市立大学より収集、ヒアリング調査した。。 ○附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進するための学内広報に努め、田川地域包括連携協定のもと協働事業を検討した。 ○協定校(大邱韓医大学校(4名)、北京中医薬大学、三育大学校(2名)、南京師範大学(3名)、コンケン大学)及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生(中国2名)、院生(韓国1名)の交流を促進するための学内分担当や戦略について国際交流推進部会と協議した。 ○熊本大学、近畿大学、M&A食品技術研究所と本学で国際会議(地域振興学会J.I.S.R.I.)を10/1に開催した。(参加者480名、発表数71、本学からの発表6、受賞発表28件中2) ○目標実績 ・学際的研究プロジェクト数 :6件／年 ・産学官連携契約件数 6件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 1回 ・メールマガジンの発行 18回 ・研究シーズ発表会への参加 4名 ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 36件 看護学部年間 50件 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 6件 看護学部年間 3件 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 3件 招聘件数 0件 ・提携協定校との共同研究応募件数 4件 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 : 5回		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.20 「論文等の実績」 No.21 「産学官連携」		25																																																																																																																
				2	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○4センターが独自の研究を推進できるよう調整を行ってきた。また、27年度においては国際会議を2大学および地域の研究所と共同開催することで研究の推進を図った。 ○目標実績	<table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>学術的研究プロジェクト数: 年3件以上</td><td>4件</td><td>4件</td><td>5件</td><td>6件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 成果発表会: 隔年1回</td><td>3回</td><td>2回</td><td>1回</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 報告書発刊: 隔年1回</td><td></td><td></td><td></td><td>5回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>学術的共同研究シンポジウム開催: 隔年1回</td><td></td><td>1回</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>産学官連携契約件数: 2件</td><td>7件</td><td>2件</td><td>2件</td><td>6件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>知的財産セミナーの開催: 1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>メールマガジンの発行: 年12回以上</td><td>15回</td><td>17回</td><td>15回</td><td>18回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>研究シーズ発表会への参加: 3名以上</td><td>2名</td><td>15名</td><td>4名</td><td>4名</td><td></td><td></td></tr><tr><td>論文数: 人間社会学部 年間40件以上</td><td>21件</td><td>34件</td><td>14件</td><td>36件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 : 看護学部 年間40件以上</td><td>71件</td><td>40件</td><td>35件</td><td>50件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>学会発表: 人間社会学部 年間10件以上</td><td>8件</td><td>7件</td><td>5件</td><td>6件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 : 看護学部 年間10件以上</td><td>9件</td><td>6件</td><td>1件</td><td>3件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>提携協定校との共同研究数: 年2件以上</td><td>5件</td><td>2件</td><td>2件</td><td>3件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 招聘件数: 年2件以上</td><td>3件</td><td>5件</td><td>1件</td><td>0件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 共同研究応募件数: 年3件以上</td><td>3件</td><td>2件</td><td>3件</td><td>4件</td><td></td><td></td></tr></table>		H24	H25	H26	H27	H28	H29	学術的研究プロジェクト数: 年3件以上	4件	4件	5件	6件			同 成果発表会: 隔年1回	3回	2回	1回				同 報告書発刊: 隔年1回				5回			学術的共同研究シンポジウム開催: 隔年1回		1回					産学官連携契約件数: 2件	7件	2件	2件	6件			知的財産セミナーの開催: 1回	1回	1回	1回	1回			メールマガジンの発行: 年12回以上	15回	17回	15回	18回			研究シーズ発表会への参加: 3名以上	2名	15名	4名	4名			論文数: 人間社会学部 年間40件以上	21件	34件	14件	36件			同 : 看護学部 年間40件以上	71件	40件	35件	50件			学会発表: 人間社会学部 年間10件以上	8件	7件	5件	6件			同 : 看護学部 年間10件以上	9件	6件	1件	3件			提携協定校との共同研究数: 年2件以上	5件	2件	2件	3件			同 招聘件数: 年2件以上	3件	5件	1件	0件			同 共同研究応募件数: 年3件以上	3件	2件	3件	4件				B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																																																																																					
学術的研究プロジェクト数: 年3件以上	4件	4件	5件	6件																																																																																																																							
同 成果発表会: 隔年1回	3回	2回	1回																																																																																																																								
同 報告書発刊: 隔年1回				5回																																																																																																																							
学術的共同研究シンポジウム開催: 隔年1回		1回																																																																																																																									
産学官連携契約件数: 2件	7件	2件	2件	6件																																																																																																																							
知的財産セミナーの開催: 1回	1回	1回	1回	1回																																																																																																																							
メールマガジンの発行: 年12回以上	15回	17回	15回	18回																																																																																																																							
研究シーズ発表会への参加: 3名以上	2名	15名	4名	4名																																																																																																																							
論文数: 人間社会学部 年間40件以上	21件	34件	14件	36件																																																																																																																							
同 : 看護学部 年間40件以上	71件	40件	35件	50件																																																																																																																							
学会発表: 人間社会学部 年間10件以上	8件	7件	5件	6件																																																																																																																							
同 : 看護学部 年間10件以上	9件	6件	1件	3件																																																																																																																							
提携協定校との共同研究数: 年2件以上	5件	2件	2件	3件																																																																																																																							
同 招聘件数: 年2件以上	3件	5件	1件	0件																																																																																																																							
同 共同研究応募件数: 年3件以上	3件	2件	3件	4件																																																																																																																							

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																											
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																										
					【平成28、29年度の実施予定】 ○4センターの特色を生かし、さらに附属研究所としての研究体制の強化を図っていく。					25																											
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進の続き	2【外部研究資金の獲得の推進】 ①外部研究資金獲得を支援するための組織を学内に設立する。 ②科研費の応募率を上げるとともに科研費応募／獲得による教員評価システムの検討と実施 ○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額 ：年間30件以上、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率 ：80％以上 （現在科研費による研究課題を持っている教員は除く）	2-1	【平成27年度計画】 【外部研究資金の獲得の推進】 ○科研費申請繁忙期に適宜事務局機能を強化・充実する。また、ホームページの内容を充実していく。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の実施 ・不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策の実施等 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○達成目標 ・外部研究資金（科研費）獲得件数、金額 ：年間30件、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率 ：80％以上（現在科研費による研究課題をもって いる教員は除く）	1	【平成27年度の実施状況】 【外部研究資金の獲得の推進】 ○科研費申請繁忙期において事務局機能を強化した。ホームページの内容の充実に関しては、情報掲載等の速報性を高めた。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の実施 ・不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策については実施した。 ○科研費応募率向上のための研修会については、9/30に開催した。 ○目標実績 ・外部研究資金（科研費）獲得件数、金額： 34件、49,104千円 ・科研費応募率： 94.3％			B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】 No.19 「研究」		26																										
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○外部研究資金獲得の推進については、支援部門設立ではなく、申請繁忙期に事務局機能を強化・充実することとして実施した。ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めた。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を行った。 ○科研費応募率向上のための研修会は毎年度開催した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>外部資金（科研費）獲得件数：年間30件以上</td><td>32件</td><td>30件</td><td>38件</td><td>34件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 獲得金額：年間4,000万円以上（単位：千円）</td><td>61,768</td><td>57,589</td><td>64,732</td><td>49,104</td><td></td><td></td></tr><tr><td>科学研究費応募率：80％以上</td><td>70.1％</td><td>94.3％</td><td>92.1％</td><td>94.3％</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○科研費申請繁忙期における事務局機能の強化を継続する。 ○科研費応募者へのインセンティブ（助成）制度及び研修会の実施を継続し、科研費応募率の維持向上を図る。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	外部資金（科研費）獲得件数：年間30件以上	32件	30件	38件	34件			同 獲得金額：年間4,000万円以上（単位：千円）	61,768	57,589	64,732	49,104			科学研究費応募率：80％以上	70.1％	94.3％	92.1％	94.3％					A	【高く評価する点】 ・外部研究資金（科研費）について、獲得件数、金額とも目標を上回ることができた。また、応募率についても、平成25年度から目標を上回ることができた。 【実施（達成）できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																															
外部資金（科研費）獲得件数：年間30件以上	32件	30件	38件	34件																																	
同 獲得金額：年間4,000万円以上（単位：千円）	61,768	57,589	64,732	49,104																																	
科学研究費応募率：80％以上	70.1％	94.3％	92.1％	94.3％																																	

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																		
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																	
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進の続き	3【研究倫理の徹底】 ①研究倫理審査体制の整備のために研究倫理委員会委員の研修参加を推進 ②学外者を含めた審査体制の検討 ③動物実験に関する委員会の開催及び動物実験実施ガイドラインの徹底 ④若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加 :年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催 :年1回(平成25年度以降) ・動物実験に関する委員会(倫理審査を含む) :年2回以上	3-1【平成27年度計画】 【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備 ・研究倫理委員会メンバーに対する研修会参加の推進 ・学外者を含めた審査体制を検討する。 ○動物実験に関する委員会開催及び実施ガイドラインを徹底するための取組を引き続き検討 ○若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加 :年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催 :年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む) :年2回以上	1	1	【平成27年度の実施状況】 【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備 ・研究倫理委員会メンバー1名が研修会に参加した。 ・学外者を含めた審査体制の検討については、研究倫理委員会にて議論した。 ○動物実験に関する委員会を3回開催した(6/25, 11/4, 3/10)。 また、実施ガイドラインを徹底するための取組の一環として、公私立大学実験動物施設協議会に入会した。 ○若手研究者に対するセミナーについては、研究倫理教育を題材として、3/28に開催した。 ○目標実績 ・学外での研修参加: 1名 ・セミナー開催: 年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む): 年3回開催	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		27																			
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○オンライン研究倫理教育を導入した。 ○動物実験に関するガイドラインを策定し、実施した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>学外での研修参加: 年1人以上</td><td>1人</td><td>1人</td><td>1人</td><td>1人</td><td></td><td></td></tr><tr><td>セミナー開催: 年1回</td><td></td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>動物実験に関する委員会: 年2回以上</td><td>2回</td><td>2回</td><td>3回</td><td>3回</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○オンライン研究倫理教育の受講を徹底する。 ○動物実験委員会を開催し、ガイドラインを徹底する。								H24	H25	H26	H27	H28	H29	学外での研修参加: 年1人以上	1人	1人	1人	1人			セミナー開催: 年1回		1回	1回	1回	
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																						
学外での研修参加: 年1人以上	1人	1人	1人	1人																								
セミナー開催: 年1回		1回	1回	1回																								
動物実験に関する委員会: 年2回以上	2回	2回	3回	3回																								
		ウェイト総計	中期 4	27年度 4	項目数計			中期 3	27年度 3																			

- 【ウェイト付けの理由】(年度計画)
- ・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。
- 【ウェイト付けの理由】(中期計画)
- ・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

研究に関する特記事項(平成27年度)
なし
研究に関する特記事項(平成24年度～平成27年度)
なし

項目別の状況（年度計画項目・中期計画項目）

中期目標 3 社会貢献	「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」 大学の特色を活かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域住民の健康と福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。
----------------	---

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																			
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																		
1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 保健・福祉に関わる人材育成のために、アジアの大学等と相互の教育・研究を促進する。	1【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ①福祉系総合大学として、中国・韓国等の大学と保健福祉の実情について情報交換及び発信を行う。 ②地域住民との連携事業による地域の国際化を視野に入れた文化交流プログラムの共同開発を行うとともに、教育研究の国際化推進体制を検討する。 ③ゲストハウスなどの受け入れ体制整備の検討を行う。こうした事業を推進するために国際交流センター(仮称)を開設する。 ○達成目標 ・教員交流数 ：延べ20名以上／年 ・文化交流プログラムの実施 ：1回以上／年	1-1	【平成27年度計画】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、コンケン大学との教員交流の推進 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・地域の学校に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施する。 ○国際交流センターの事業推進及び体制整備 ○達成目標 ・教員交流数　：延べ20名以上／年 ・文化交流プログラムの実施　：1回以上／年		1	【平成27年度の実施状況】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・大邱韓医大学校との教職員交流を7月に予定していたが相手方都合により中止した。 威徳大学(韓国)との覚書(MOU)を11月に締結した。 南京師範大学との教員の文化・学術交流事業推進の課題検討・対策のための体制を作った。 吉林大学珠海学院との協定締結に向け、同校を訪問し協議を行った(11月)。 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・後藤寺小学校に留学生を派遣する文化交流プログラムを11月及び2月に実施した(11/11,18, 2/2)。 ○国際交流センターの事業推進及び体制整備 田川市と共催で「韓国料理と留学体験談」を7月に実施。市民24名参加 日中友好会館訪問団(中国人大学生100名)を受け入れ、大学案内・授業参観・交流会などを行った(11/30)。 威徳大学社会福祉学科の訪問(教員2名・学生10名)を受け入れ、大学案内・社会福祉学科説明・交流会などを行った(12/18)。 威徳大学(ヒューマンサービス学部・教員7名・学生10名)を受け入れ、大学案内・学科説明を行った(2/18)。 ○目標実績 ・教員交流数　：22名 ・文化交流プログラムの実施　：3回		A	【高く評価する点】 ・新たに威徳大学(韓国)との交流協定を締結した。 ・外務省プログラム JENESYS2.0:日中友好会館からの訪問団を受け入れた。 ・威徳大学からの訪問団を2回受け入れた。 ・教員交流数が目標を上回った。 【実施(達成)できなかった点】		28																		
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○協定締結校との文化・学術交流事業を推進した。 ○威徳大学(韓国)と新たに協定を締結した。 ○国際交流センターを開設した。 ○中国、韓国からの視察団・学生訪問団を受け入れた。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>教員交流数：年間延べ20名以上</td><td>16名</td><td>11名</td><td>15名</td><td>22名</td><td></td><td></td></tr><tr><td>文化交流プログラム実施：年1回以上</td><td>1回</td><td>1回</td><td>3回</td><td>3回</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○協定締結校との文化学術交流を推進する。 ○地域住民との国際交流事業を行う。 ○新たな協定を締結する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	教員交流数：年間延べ20名以上	16名	11名	15名	22名			文化交流プログラム実施：年1回以上	1回	1回	3回	3回				A	【高く評価する点】 ・新たに威徳大学(韓国)との交流協定を締結した。 ・外務省プログラム JENESYS2.0:日中友好会館からの訪問団を受け入れた。 ・教員交流数が増加し、目標を上回った。 【実施(達成)できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																							
教員交流数：年間延べ20名以上	16名	11名	15名	22名																									
文化交流プログラム実施：年1回以上	1回	1回	3回	3回																									

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号															
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度														
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	2【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の充実:短期研修制度の拡充により、派遣留学先の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣中の学生への支援:派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援する体制を作る。 ③受入留学生の新たな支援について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学協定締結について検討・実施する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会 :年1回以上 ・受入留学生数 :30人以上(私費留学生を含む)／年	2-1【平成27年度計画】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修の実施 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)の実施 期間:3週間のコースを設定 ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の実施 ・本学学生の留学希望者が増えるよう、双方向型事前授業を組み合わせた短期海外研修(ショートビジット)を実施する。 ○受入留学生の増加対策の実施 ・大邱韓医大学を対象とした短期留学(受入)プログラムの実施 ・受入留学生に対し、国際交流センターを活用して地域住民との交流の機会を提供する。 ○交流協定校への短期研修プログラム(派遣)の実施 ・プログラム内容の充実及び継続的实施に向けた調整を行う。 ○全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を試行し、課題を検討する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会:年1回以上 ・受入留学生数 :15名以上(私費留学生含む)	1	1	【平成27年度の実施状況】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修の実施については、希望者が催行人数に満たないため中止。 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)を8/30～9/20に実施し、17名が参加した。 本プログラムは、福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択され、県主催の「ふくおか若者魁大会」で報告を行った。 ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の実施 ・昨年に引き続き、双方向型事前授業を組み合わせた短期海外研修(ショートビジット)を3/22～26に実施し、大学から学生1名につき2万円の補助を行った。 ○受入留学生の増加対策の実施 ・大邱韓医大学を対象とした短期留学(受入)プログラムを実施した(1/10～2/6、参加者10名)。 新規で威徳大学を対象としたショートビジット(受入)プログラムを1月に実施した。 ・ショートビジットプログラム中に、小学校訪問交流、地域住民との交流会を企画した。 ○交流協定校への短期研修プログラム(派遣)の実施 ・昨年に引き続き、第2回短期海外研修を実施した(3/22～26)。本年度は大邱韓医大学と新たに協定を結んだ威徳大学で研修を行った(学生11名、教員4名)。 ○全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」の課題を検討するための体制を作った。 ○目標実績 ・留学を経験した学生の報告会: 年4回 ・受入留学生数 :25名(私費留学生含む)	A	【高く評価する点】 ・受入留学生数が目標を大幅に上回った。 ・全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を整備し、長期留学を含めた4年次卒業可能なルートを構築した。 【実施(達成)できなかった点】		29																
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ○海外短期語学研修をイギリスにて実施した。 ○短期海外研修を開始した。 ○短期の留学受入を開始した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>留学を経験した学生の報告会: 年1回以上</td><td>1回</td><td>2回</td><td>3回</td><td>4回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>受入留学生数: 30名以上(私費留学生含む)</td><td>11名</td><td>15名</td><td>16名</td><td>25名</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○海外短期語学研修を実施する。 ○短期海外研修を実施する一方で、短期留学を受け入れる。					H24	H25	H26	H27	H28	H29	留学を経験した学生の報告会: 年1回以上	1回	2回	3回	4回			受入留学生数: 30名以上(私費留学生含む)	11名	15名
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																			
留学を経験した学生の報告会: 年1回以上	1回	2回	3回	4回																					
受入留学生数: 30名以上(私費留学生含む)	11名	15名	16名	25名																					

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	3【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ①世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部を県立大学で所管していることから、産炭地の歴史や記録資料(日記や絵画を含む)を英文に翻訳し、それをインターネット等を通じて世界に発信すると同時に、世界各国の産炭地に所在する大学との学術交流をおこなう。 ○達成目標 ・英文アーカイブ化の基礎となる日本語資料の翻訳 ：平成27年度までに作成	3-1		1	【平成27年度の実施状況】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクションの保存・活用の検討に当たっての所有者との協議 ・田川市と共同で山本作兵衛コレクション保存管理計画を日本語版(11ページ)と英語版(11ページ)で作成し、英語版をユネスコに提出した。 ○英文翻訳作業の検討・実施 ・これまで出版された研究報告叢書のタイトルについて、英文翻訳を行った。 ○目標実績 ・県立大学に保管された山本作兵衛関連遺品タイトルの翻訳： 実施 ・地域の方々との日記現代語訳作業部会の開催： 42日/年 延546人参加			【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			30
			1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクション絵画4点に記された日本語説明文について英文翻訳を行い、翻訳物については、山本作兵衛コレクション保存管理計画(日本語版・英語版)に盛り込み、英語版をユネスコに提出した。 ○地域の方々との日記現代語訳作業部会は、継続的に開催した。 【平成28、29年度の実施予定】 ○今後も、山本作兵衛コレクションをユネスコ基準に従って保存管理していく予定である。	B		【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 30	

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																									
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																								
2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進 地域の抱える課題を解決していくために、附属研究所が核となって県立三大学、福岡県、田川市郡との連携を深めた取組を展開していく。	1【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ①福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ②田川市郡との包括連携事業の推進 ③県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 ○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件以上／年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件以上／年 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画以上／年	1-1	【平成27年度計画】 【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ・田川市郡包括連携協定に基づき、連携事業を実施し、点検する。 ○田川市郡との包括連携事業の推進 ・田川市郡1市6町1村と福岡県立大学との包括連携協定のもと事業実施に向け協議し、締結した内容を点検する。 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討 ・県立三大学連携推進会議で協議し、三大学連携県民公開講座を実施する。 ○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件以上／年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件以上／年(継続含む) ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画以上／年	1	【平成27年度の実施状況】 【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ・田川市郡包括連携協定に基づき、連携事業を実施し、点検するため田川市と協議を重ね、他の市町村に呼びかける準備をしている。 ○田川市郡との包括連携事業の推進 ・福岡県立大学・田川地域連携推進協議会を開催し、議題の整理を行った(10/16)。 福岡県立大学・田川地域包括連携協議会を開催した(10/26)。 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討 ・県立三大学連携推進会議で協議し、各大学で実施予定の講演会、公開講座等の情報を共有した。三大学連携としての公開講座の一環として、本学での公開講座に福岡女子大学から、福岡女子大学の公開講座に本学からそれぞれ教員が招聘された。 ○目標実績 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :2企画	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.21 「産学官連携」	31																										
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○福岡県立大学と田川市および田川郡町村との包括連携協定を締結し、連携事業の内容について協議を行った。 ○県立三大学で連携し、公開講座を実施した。他大学に教員の派遣を行った。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>福岡県・田川市郡との産学官連携事業：年1件以上</td><td>1件</td><td>4件</td><td>4件</td><td>1件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>田川市郡との包括連携事業：年2件以上</td><td>4件</td><td>3件</td><td>3件</td><td>5件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>県立三大学連携による社会貢献共同プログラム：年1企画以上</td><td>1企画</td><td>1企画</td><td>1企画</td><td>2企画</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○田川市郡の包括連携協定を維持し、連携事業をさらに推進していく予定である。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	福岡県・田川市郡との産学官連携事業：年1件以上	1件	4件	4件	1件			田川市郡との包括連携事業：年2件以上	4件	3件	3件	5件			県立三大学連携による社会貢献共同プログラム：年1企画以上	1企画	1企画	1企画	2企画			B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																													
福岡県・田川市郡との産学官連携事業：年1件以上	1件	4件	4件	1件																															
田川市郡との包括連携事業：年2件以上	4件	3件	3件	5件																															
県立三大学連携による社会貢献共同プログラム：年1企画以上	1企画	1企画	1企画	2企画																															

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																			
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																		
3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 附属研究所(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター)を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。また、大学の社会貢献活動に関する情報を積極的に発信し、地域に貢献する大学としての認知度の向上を図る。	1【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ①生涯福祉研究センターの事業推進 ②ヘルスプロモーション実践研究センターの事業推進 ③不登校・ひきこもりサポートセンターの事業推進 ④社会貢献・ボランティア支援センターの事業推進 ○達成目標 ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	1-1	【平成27年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ・「お父さんお母さんの学習室」の運営 ・「足と靴の相談室」の運営など2件の実施 ○地域活動の強化 ・福祉の実践に関するセミナーなど3件の実施 福祉用具研究会、アンビシャス親子広場など ・ボランティア養成ワークショップの内容検討 ○達成目標 ・福祉用具研究会の開催(年間6回以上) ・参加者・相談者アンケート: 良好評価75%以上		1	【平成27年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○福祉・教育・健康の相談事業を実施した。 ・「お父さんお母さんの学習室」の運営 春季クラス、6ヶ月フォロー: 11回、参加者のべ33名 秋季クラス、3ヶ月フォロー: 11回、参加者のべ33名 ・「足と靴の相談室」の運営など2件の実施 ①「足と靴の相談室」 来談者のべ38名 ②「おもちゃとしょかん・たがわ」: 年間31回開館、来館者のべ269名 ○地域活動を強化した。 ・福祉の実践に関するセミナーなど3件の実施 ①福祉用具研究会: 年間9回、参加者のべ172名 ②アンビシャス親子広場: 年間33回開催、参加者のべ89組211名 ③「筑豊市民大学」への支援: 講師選定、プログラム作成協力 ・ボランティア養成ワークショップの内容検討 「子どもの声を聞くことのできる市民ボランティア(アドボケイト)」養成に決定 ○目標実績 ・福祉用具研究会の開催: 年間9回 ・参加者・相談者アンケート: 「お父さんお母さんの学習室」参加者良好評価100%		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 No.36 「生涯福祉研究センター活動実績」		32																		
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○福祉・教育・健康に関わる相談事業を拡充しながら実施した。 ○福祉用具研究会の開催など福祉分野を中心に地域貢献事業を推進した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>福祉用具研究会の開催: 年6回以上</td><td>7回</td><td>8回</td><td>8回</td><td>9回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>参加者・相談者アンケート: 良好評価 75%以上</td><td>80.0%</td><td>90.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○福祉・教育・健康に関わる相談事業を、質の向上に重点をおいて改善しながら実施する。 ○福祉用具研究会の開催など福祉分野を中心に、ニーズの変化に対応しつつ地域貢献事業を推進する。 ○「子どもの声を聞くことのできる市民ボランティア(アドボケイト)」養成事業を開始する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	福祉用具研究会の開催: 年6回以上	7回	8回	8回	9回			参加者・相談者アンケート: 良好評価 75%以上	80.0%	90.0%	100.0%	100.0%				B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																							
福祉用具研究会の開催: 年6回以上	7回	8回	8回	9回																									
参加者・相談者アンケート: 良好評価 75%以上	80.0%	90.0%	100.0%	100.0%																									

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																																		
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番 号	中期	年度																																
※3 地域に貢献 する大学としての 認知度アップと事 業推進 の続き	1※【地域住民の健康の向上、福祉、 教育等の相談・支援の実施】 の続き	1-3	【平成27年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支 援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業の実施 ○教員対象研修事業の実施 ○キャンパス・スクール事業の実施 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラ ム」を試行し、課題を検討する。 ○達成目標 ・サポーター派遣人数：140名以上 ・教員対象研修回数：10回以上 ・キャンパス・スクール受入れ児童数：20名以上 ・登校開始率：37% ※ 登校開始率とは、・・・キャンパス・スクール から在籍校に定期的・非定期的に通学を開始 した児童・生徒の率(1年間)。		1	【平成27年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業は、実人数231名、延べ2,257名が活動した。 ○教員対象研修事業は、65回の研修を5,333名に実施した。 ○キャンパス・スクール事業は、実人数20名、延べ933名が通級した。 「キャンパス・スクール・夏」では、実人数5名、延べ59名が通級した。 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を試行し、学生によりわかりやすい形で内容を提示することとした。 ○目標実績 ・サポーター派遣人数：231名 ・教員対象研修回数：65回 ・キャンパス・スクール受入れ児童数：20名(キャンパス・スクール・夏は5名) ・登校開始率：50.0% ※ 登校開始率とは、・・・キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を 開始した児童・生徒の率(1年間)。		A	【高く評価する点】 ・年度計画目標を大幅に上回っ て実施した。 【実施(達成)できなかった点】	No.38 「不登校・ひ きこもりサ ポートセン ター」		34																															
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○中期計画に基づいて、各年度とも年度計画を上回って実施した。平成25年度より、「キャンパス・スクール・夏」を開始し、 キャンパススクール事業を拡大した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>サポーター派遣人数：140名以上</td><td>213名</td><td>199名</td><td>217名</td><td>231名</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教員対象研修回数：10回以上</td><td>68回</td><td>68回</td><td>72回</td><td>65回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>キャンパススクール受入児童数：20人以上</td><td>29人</td><td>32人</td><td>24人</td><td>20名</td><td></td><td></td></tr><tr><td>登校開始率：37%</td><td>41.4%</td><td>56.0%</td><td>66.7%</td><td>50.0%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○関係機関との連動を行い、不登校・ひきこもりの背景に対する支援を行っていく。 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を推進する。 ○「土曜の風」事業を推進する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	サポーター派遣人数：140名以上	213名	199名	217名	231名			教員対象研修回数：10回以上	68回	68回	72回	65回			キャンパススクール受入児童数：20人以上	29人	32人	24人	20名			登校開始率：37%	41.4%	56.0%	66.7%	50.0%				A	【高く評価する点】 ・計画を上回る利用実績・活動実 績を上げた。 ・他県の議会文教委員会等の視 察を受け入れた。 【実施(達成)できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																					
サポーター派遣人数：140名以上	213名	199名	217名	231名																																							
教員対象研修回数：10回以上	68回	68回	72回	65回																																							
キャンパススクール受入児童数：20人以上	29人	32人	24人	20名																																							
登校開始率：37%	41.4%	56.0%	66.7%	50.0%																																							

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																																	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																																
※3 地域に貢献 する大学としての 認知度アップと事 業推進 の続き	1※【地域住民の健康の向上、福祉、 教育等の相談・支援の実施】 の続き	1-4	【平成27年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施 ・学生の社会貢献・ボランティア活動を求める外部団体の情報を学生に提供する。 ・社会貢献・ボランティア活動を希望する学生の相談に応じ、学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートを行う。 ○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援 ・学生グループの活動の場（研修、会議、作業等）を提供する。 ・学生サークルの課題を把握し、自らが解決できるように支援する。 ○地域と連携した学生活動の支援 ・地元商店街や地域の活性化、小・中学校の学習支援、防災等の課題に地域と連携して取り組む学生活動に対して地域の関係団体 との連絡調整、相談対応、アドバイス等の支援を行う。 ○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上 ・社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等を企画・実施する(年2回以上)。 ○達成目標 ・外部団体・機関登録数 90件以上 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 300人(延) ・社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等の開催 年2回		1	【平成27年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施 ・外部団体の登録件数は163件となり、67件のボランティア依頼情報を学生に提供した。 ・延51人の学生の相談に応じ、コーディネートにより延 509人の学生が活動を行った。 ○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援 ・延725人の学生が「学生活動ルーム」を利用した。 ・学内のボランティアサークルとの懇談会を3回実施したほか、14グループに対して、相談対応やアドバイス等の支援を行った。 ○地域と連携した学生活動の支援 ・5件の活動に対して、地域の関係団体との連絡調整、相談対応、アドバイス等の支援を行った。 ○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上 ・社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会を4回実施した。 ○目標実績 ・外部団体・機関登録件数 163件 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 509人(延) ・社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会の企画・実施 4回			No.16 「学生サークル」	35																																	
					1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施について、毎年度、目標値を超える実績を上げたほか、行政等の関係機関と連携し、ひとり親家庭の学習支援や東北被災地支援など社会的に特に貢献が求められる活動分野の開拓を行った。 ○毎年度、社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会を目標値を上回る回数で開催するとともに、学生ボランティアサークル等の支援を積極的に行った結果、センターが学生の活動の拠点として認知され、活用されるようになった。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>外部団体・機関登録数：90件以上</td><td>118件</td><td>131件</td><td>148件</td><td>163件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>コーディネートにより活動を行った学生数：延べ300人</td><td>304人</td><td>447人</td><td>414人</td><td>509人</td><td></td><td></td></tr><tr><td>社会貢献フォーラム開催：1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>社会貢献・ボランティア活動に関する研修会等：2回</td><td></td><td></td><td></td><td>4回</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○「土曜の風」事業を推進する。 ○災害関連のボランティア活動を推進する。		H24			H25	H26	H27	H28	H29	外部団体・機関登録数：90件以上	118件	131件	148件	163件			コーディネートにより活動を行った学生数：延べ300人	304人	447人	414人	509人			社会貢献フォーラム開催：1回	1回	1回	1回				社会貢献・ボランティア活動に関する研修会等：2回				4回		
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																					
外部団体・機関登録数：90件以上	118件	131件	148件	163件																																							
コーディネートにより活動を行った学生数：延べ300人	304人	447人	414人	509人																																							
社会貢献フォーラム開催：1回	1回	1回	1回																																								
社会貢献・ボランティア活動に関する研修会等：2回				4回																																							

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号																																			
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																																		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	2【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①資格・免許保持者等への力量形成にむけた教育と卒業生へのキャリアサポートの実施 ○達成目標 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 ：各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上 ・看護技術追跡調査実施状況 年間1回(平成25年度から) ・卒業生参加数 各学部卒業生参加数 年間10名	2-1【平成27年度計画】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○地域支援の充実 ・「特別支援教育・スキルアッププログラム」の実施 ・保育士・教師のための「ペアレントトレーニングスキルアップ講座」の実施(直方市と共催)など2件の実施 ○教育研修活動の実施 ・「山本作兵衛さんをく読む」会の実施・運営 ・「筑豊英語教員フォーラム」の実施・運営など7件の実施 ・教職員・社会人学生向けリカレントセミナーの開催 ○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育の実施 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○リカレント教育 ・身体感覚活性化＜世にも珍しい＞マザークラス医療者向けセミナーの開催 他4教育を実施 ・看護技術の追跡調査の検討と実施 ・追跡調査結果のリカレント教育への反映 ○達成目標 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 ：各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上 ・看護師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・助産師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・保健師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・卒業生参加数 各学部卒業生参加数 年間10名	1	【平成27年度の実施状況】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○ペアレントトレーニングを活用して、地域支援事業を行った。 ・「特別支援教育・スキルアッププログラム」の実施:5回、参加者のべ73名 ・保育士・教師のための「ペアレントトレーニングスキルアップ講座」の実施(直方市と共催):5回、参加者のべ157名 ・田川市主任児童委員研修会、直方市植木保育所などで研修会実施:8回 ○教育研修活動を実施した。 ・「山本作兵衛さんをく読む」会:48回、参加者数のべ816名 ・「筑豊英語教員フォーラム」の実施・運営など7件の実施 ①「筑豊英語教員フォーラム」:22回、参加者のべ330名 ②「地域に住む外国人のための日本語教室」:月2回実施、継続参加者6名 ③「さわやかな自己表現塾」:2回、参加者のべ18名(うち、高校教員3名) ④「PCスキル養成講座」:参加者7名 ⑤「福祉用具体験講習2015」:参加者14名 ⑥「足の健康講座」:参加者12名 ⑦「生命保険実学講座」:参加者(学生)16名 ・教職員・社会人学生向けリカレントセミナーの開催 「生命保険実学講座」:参加者(教職員)1名 ○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのリカレントセミナーを実施した。 「社会福祉事業のあり方を再考するー社会福祉法の改正を見据えてー」参加者119名(うち、卒業生44名) ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○リカレント教育 ・身体感覚活性化＜世にも珍しい＞マザークラス医療者向けセミナーの開催 他4教育を実施(一般6名、助産師58名、うち卒業生3名) ・看護技術の追跡調査の検討と実施 福岡ヘルシー・エイジング研究会 8回実施(一般77名、看護師66名、保健師1名) ・追跡調査結果のリカレント教育への反映 外来看護師さんの井戸端会議(看護師5名、うち卒業生1名) 健康支援教室(ユニフィケーション・システムによるヘルスプロモーション推進事業) 4回実施(一般640名) 保健師リカレント教育 2回実施(一般44名、保健師18名) NCPR(新生児蘇生法)アップデート講習会(助産師24名、うち卒業生7名) ○目標実績 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 ：各ライセンス向けのリカレント実施数 ・看護師対象のリカレント教育 2事業実施 ・助産師対象のリカレント教育 2事業実施 ・保健師対象のリカレント教育 2事業実施 ・卒業生参加数 人間社会学部 年間44名、看護学部 年間11名	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	N0.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」	36																																					
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○生涯福祉研究センターの資源を生かして、地域の資格・免許保持者等及び卒業生へのリカレント教育や研修を実施した。 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○各種リカレント教育を実施した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>看護師対象のリカレント教育: 1事業以上</td><td>4事業</td><td>3事業</td><td>4事業</td><td>2事業</td><td></td><td></td></tr><tr><td>助産師対象のリカレント教育: 1事業以上</td><td>2事業</td><td>2事業</td><td>2事業</td><td>2事業</td><td></td><td></td></tr><tr><td>保健師対象のリカレント教育: 1事業以上</td><td>4事業</td><td>1事業</td><td>3事業</td><td>2事業</td><td></td><td></td></tr><tr><td>卒業生参加数(人間社会学部): 10名</td><td>51名</td><td>57名</td><td>48名</td><td>44名</td><td></td><td></td></tr><tr><td>卒業生参加数(看護学部): 10名</td><td>10名</td><td>10名</td><td>12名</td><td>11名</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○ニーズの変化に対応しながら、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センターの資源を生かして、地域の資格・免許保持者等及び卒業生へのリカレント教育や研修を継続して実施する。				H24			H25	H26	H27	H28	H29	看護師対象のリカレント教育: 1事業以上	4事業	3事業	4事業	2事業			助産師対象のリカレント教育: 1事業以上	2事業	2事業	2事業	2事業			保健師対象のリカレント教育: 1事業以上	4事業	1事業	3事業	2事業			卒業生参加数(人間社会学部): 10名	51名	57名	48名	44名			卒業生参加数(看護学部): 10名	10名	10名	12名
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																							
看護師対象のリカレント教育: 1事業以上	4事業	3事業	4事業	2事業																																									
助産師対象のリカレント教育: 1事業以上	2事業	2事業	2事業	2事業																																									
保健師対象のリカレント教育: 1事業以上	4事業	1事業	3事業	2事業																																									
卒業生参加数(人間社会学部): 10名	51名	57名	48名	44名																																									
卒業生参加数(看護学部): 10名	10名	10名	12名	11名																																									

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																				
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番 号	中期	年度																		
※3 地域に貢献 する大学としての 認知度アップと事 業推進 の続き	3【地域に貢献する大学としての認知 度アップ戦略】 ①附属研究所(不登校・ひきこもりサ ポートセンター等)の全国モデルとし ての展開 ②公開講座の実施 ③世界記憶遺産「山本作兵衛の日 記等」の保管・管理及び公開 ④附属研究所関連研究分野におけ る大学または研究所間の全国ネット ワークの組織の創設 ○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属 研究所活動紹介の回数 ：年5回以上 ・公開講座の実施回数：年3回以 上開催	3-1	【平成27年度計画】 【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター 等)の全国モデルとしての展開 ・全国モデルとしての展開を各センター、調整部会 で検討し、発信する。 ○公開講座の実施 ・公開講座を学内外に発信し、3講座を実施する。 ○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存・管 理及び公開 ・保存・管理及び公開のための目録を作成する。 ○附属研究所関連研究分野における大学または研 究所間の全国ネットワークの組織の検討 ・関連研究分野の全国ネットワーク組織を検討・実 施する。 ○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹 介の回数：年5回以上 ・公開講座の実施回数：年3回以上開催		1	【平成27年度の実施状況】 【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開 ・不登校・ひきこもりセンターは、全国の団体からの視察を受けた。 ○公開講座の実施 ・以下の3講座の実施を決定し、チラシ、ポスターを作成、実施した。 公開講座Ⅰ「現代を生きる子どもたち」(全3回、10/16、10/23、10/27) 19名参加 公開講座Ⅱ「少子高齢社会における暮らしの安心と安全を守るには」 (全3回、10/30、11/6、11/13) 19名参加 公開講座Ⅲ「地域と医療と教育をつなぐ～不登校・ひきこもり支援の共通言語を考える～」 (全3回、11/10、11/25、12/1) 46名参加 (公開講座Ⅰについては、福岡女子大と共催) ○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存・管理及び公開 第1回展示「炭坑内の労働」(5/16～17) 来場者数151名 良好評価95.0% 第2回展示「炭坑内の労働」(8/8) 来場者数252名 良好評価86% 第3回展示「炭坑内の労働」(11/7～8) 来場者数342名 良好評価85% ・保存・管理及び公開のための目録を作成するために、絵画4点については英文による説明を作成し、日記については 66点であることを確認し、ユネスコに報告した。 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討 ・関連研究分野の全国ネットワーク組織について検討した。 ○目標実績 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数：年14回 ・公開講座の実施回数：年3回開催		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			37																		
						1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○公開講座については、本学で実施するだけでなく県立三大学で連携して行った。 ○不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況について、毎年、全国の県議会、団体等の視察を受け入れた。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>附属研究所活動紹介の回数：年5回以上</td><td>7回</td><td>7回</td><td>12回</td><td>14回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>公開講座の実施：年3回以上</td><td>4回</td><td>4回</td><td>4回</td><td>3回</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○研究所の機構改革を行い、さらに認知度アップを図っていく。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	附属研究所活動紹介の回数：年5回以上	7回	7回	12回	14回			公開講座の実施：年3回以上	4回	4回	4回	3回			B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																								
附属研究所活動紹介の回数：年5回以上	7回	7回	12回	14回																										
公開講座の実施：年3回以上	4回	4回	4回	3回																										

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※3 地域に貢献 する大学としての 認知度アップと事 業推進 の続き	4【看護実践教育センターでの認定看護 師教育の充実】 ①糖尿病看護認定看護師教育課程 を運営し、地域に貢献する糖尿病 看護師を養成する。 ②志願倍率を保ち、より水準の高い 人材を確保するためのリクルート活 動を行う。 ③同窓生によるネットワークを構築 し、よりよい糖尿病看護のあり方 について学ぶ場を持ち、研鑽しあう。 ④地域貢献の一環として田川市郡 を中心に生活習慣病に関連した健 康教育を積極的に実施する。 ○達成目標 ・志願倍率:(志願者数／募集人 員) :1.5倍以上 ・認定合格率 :90% ・福岡県糖尿病看護研究会の定期 開催 :年4回以上 同窓生によるフォローアップ研修 会 :年1回以上 ・リクルートのためのリカレント研修 会の開催 :年1回以上 参加者アンケート :良好評価 75%以上 ・健康教室 :年3回以上開催 参加者アンケート :良好評価 75%以上	4-1【平成27年度計画】 【看護実践教育センターでの認定看護 師教育の充 実】 ○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) ・福岡糖尿病患者教育研究会の定期開催 : 年4回以上 ・同窓生によるフォローアップ研修会 : 年1回以上 ・受験者リクルートのためのリカレントセミナーの開 催 : 年1回以上 ○糖尿病健康教育活動の実施 ・地域住民・企業等を対象に、糖尿病予防・療養等 に関する出前講義 : 年3回以上 ・医療・福祉・保健分野で働く人々からの糖尿病に 関する相談対応 ○積極的広報活動 ・ホームページの充実 ・健康教育活動の告知・募集の実施 ・本センター修了生への試験関連情報提供(ポス ター送付) ○達成目標 ・入学試験志願倍率(志願者数/募集人数) 1.5倍 ・認定審査合格率 90% ・患者教育研究会延べ参加者数 20名以上 ・セミナー参加者数 50名以上、 参加者アンケート 良好評価75%以上 ・糖尿病予防教育(出前講義) 開催回数3回以上、 参加者アンケート 良好評価75%以上		1	【平成27年度の実施状況】 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) ・福岡糖尿病患者教育研究会の定期開催 : 9回実施(参加者合計:78名) ・看護実践教育センター修了生を対象としたフォローアップ研修会を8/1に実施(参加者数:26名) ・受験者リクルートも目的とした 第2回糖尿病看護実践力開発セミナーを7/5に実施(参加者数:248名) ○糖尿病健康教育活動の実施 ・地域住民対象の糖尿病予防教育・健康相談 : 3回実施(参加者合計:165名) ・医療・福祉・保健分野で働く人々からの糖尿病に関する相談対応 : 相談者合計17名 ○積極的広報活動 ・ホームページの充実 入学式・次年度入試情報について、随時ホームページを更新した。 ・健康教育活動の告知・募集の実施 セミナー募集等についてホームページ上にて告知を実施した。 ・本センター修了生への試験関連情報提供(ポスター送付) 本センター修了生、医療機関への入試案内ポスター送付を実施した。 九州糖尿病看護認定看護師会会員への試験情報広報および入試案内ポスター送付を実施した。 北九州・筑後・佐賀地域の各糖尿病療養指導士会HPへの試験情報掲載を依頼した。 日本糖尿病教育・看護学会主催のセミナーにおけるポスター配布を依頼した。 【新たな取組】 ・オープンキャンパスにて受験希望者向けの個別相談・説明会を実施した。(相談者合計:3名) ○目標実績 ・入学試験志願倍率(志願者数/募集人数) 0.89倍 ・認定審査合格率 100% ・患者教育研究会延べ参加者数 71名 ・セミナー参加者数 248名、参加者アンケート 良好評価97% ・糖尿病予防教育活動 3回実施、参加者アンケート 良好評価100%		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・入学試験志願倍率 二次募集に向けた新たな取組 として、受験希望者向け個別相 談・説明会を実施した。その結果 もあり、入学試験志願倍率(志願 者数/募集人数)は平成26年度: 0.78倍→平成27年度:0.89倍へと 上昇した。			38
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○認定看護師教育においては、平成24～27年度は4年連続で認定審査合格率100%を達成した。(全国の糖尿病看護分野 教育機関で唯一) この点は、平成27年度 of 教育機関更新認定審査においても日本看護協会より高い評価を得た。平成28年5月現在、累計 103名の糖尿病看護認定看護師を輩出している。 ○教育機関数の増加、認定看護分野の増加・特定行為に係る看護師等の他の専門資格の増加の影響により、入学試験 志願倍率が平成24年度から平成26年度において減少していたが、広報活動の強化及び受験希望者への相談会等を実施 したことにより、平成27年度は0.89倍へと若干の増加に転じた。 ○リカレント教育、糖尿病健康教育活動については、毎年度計画どおり実施した。特に、リカレント教育では目標を大きく上 回る参加者数であり、参加者アンケートでも常に90%以上の高評価を得た。 ○目標実績		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			中期 38
ウェイト総計			中期 11	27年度 11		項目数計				中期 11	27年度 11

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号		
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度	
社会貢献に関する特記事項(平成27年度)												
①韓国の威徳大学との交流協定を締結した。 ②外務省JENESYS2.0プログラムである日中友好会館中国大学生招聘事業の訪問先(社会福祉・ボランティア活動)として全国の大学で唯一本学が選定され、100名の中国大学生の訪問を受け入れた。 ③4年次卒業を可能とする全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を整備した。 ④不登校・ひきこもりサポートセンターをモデルとする部門開設を目的とする視察団(長崎国際大学・佐世保市)を受け入れた。												
社会貢献に関する特記事項(平成24年度～平成27年度)												
(平成26年度) ⑤11月1日～3日まで福岡県にて開催された「スペシャルオリンピックス2014」において、選手村の一つ(福岡県立社会教育総合センター)を本学学生が主となって運営した。参加学生は36名であり、不登校・ひきこもりサポートセンターの専門研究員が副村長としてコーディネートした。 500名を超えるアスリートの選手村生活に際し、臨機応変に対応を行い、大学としては唯一、スペシャルオリンピックス2014実行委員会から表彰を受けた。												

項目別の状況（年度計画項目・中期計画項目）

中期目標 4 業務運営	「理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、自律性を確保しつつ、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善を推進する。 多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた人材の確保・育成を図る。
----------------	--

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号											
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度										
1 運営体制の改善 理事長のリーダーシップのもと、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備するとともに、多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた職員の人材確保・育成など、大学運営の基盤強化を図る。	1【事務局機能の強化】 ①大学に特有な業務の機能を強化するため、段階的にプロパー職員の採用を進める。 ②徹底的な事務処理の見直し、業務マニュアルの作成、情報の共有化により、事務作業の簡略化を検討する。 ③事務職員の資質の向上と教育現場に関わる者として意識の向上を図るため、SDのシステム化を推進する。 ④研究や活動内容等をデータベース化し、蓄積した情報を有効活用する。 ⑤防災・防犯対策や学生の事故防止のため安全管理体制の充実を図る。 ⑥より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討・実施する。	1-1	【平成27年度計画】 【事務局機能の強化】 ○事務機能強化に向けた専門性を要する部署へのプロパー職員の登用 ○公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修及び学内SD研修の実施 ○事務局データベースとしてのファイル共有システムの活用 ○ヒヤリハット報告に基づく事故再発防止の事例検討 ○防犯講習会の開催（年2回） ○より一層の安全管理体制の充実を図るため、防災訓練の実施・充実 ○県立三大学の事務処理共通化について、三大学経営管理部会議を開催して引き続き検討する ○達成目標 ・防災訓練の実施：1回/年	1	【平成27年度の実施状況】 【事務局機能の強化】 ○プロパー職員1名（経験者枠）を採用し、学生支援センターに配置した。 ○公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修に3名が参加した。 また、事務職員を対象としたSD研修を4月に実施した。 ○データ交換等にファイル共有システムを積極的に活用した。 ○ヒヤリハット報告に基づく事故再発防止事例等を収集した。 ○防犯講習会については4月に2回開催した。 ○寮の防災訓練を実施するとともに、全学の防火訓練を11月に実施した。 ○三大学経営管理部会議を9月に開催した。 ○目標実績 ・防災訓練の実施：2回	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			39											
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○プロパー職員の採用については、計画どおりに進めた。 ○事務局機能強化のため、平成25年度から総務、財務管理、教務企画の3班を経営企画、総務財務、教務入試の3班に再編した。また、統一様式による業務マニュアルを作成し、共有ファイルシステムの運用を開始した。 ○新規採用プロパー職員を中心に、公立大学協会主催の事務職員対象研修に参加させた。また、事務職員を対象としたSD研修を実施した。 ○安全管理体制の充実に関しては、防犯講習会の開催、防火訓練の実施を行った。 ○県立三大学の事務担当者会議、経営管理部会議を開催し、事務処理の共通化等について検討した。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>プロパー職員の採用：8名以上（H27年度まで1人）</td><td>2名</td><td>3名</td><td>2名</td><td>1名</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○公立大学協会主催の事務職員対象研修への参加及び学内研修の実施を継続する。 ○防犯講習会の開催、防災訓練の実施を継続する。 ○県立三大学における事務処理の共通化についての検討を継続する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	プロパー職員の採用：8名以上（H27年度まで1人）	2名	3名	2名	1名			B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29															
プロパー職員の採用：8名以上（H27年度まで1人）	2名	3名	2名	1名																	

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号																	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																
※1 運営体制の改善の続き	2【教員の志気を高める教育環境の整備】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award・研究費優遇・学内外公表等)の創設 ②研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するため、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度の充実 ③担当科目数の平準化 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) :毎年度の表彰 ・研究費に占める研究奨励金の割合 :30%	2-1	【平成27年度計画】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○教員表彰を実施する。 ○研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%枠確保する。 ○担当科目上限数の申し合わせに基づき、平準化のための改革方策を検討する。 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) :30% ・研究費に占める研究奨励交付金の割合 :30%	1	【平成27年度の実施状況】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○教員表彰を実施する。 ベストティーチャーの公募を行い、ベストティーチャーを選定した。 ○研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分5%枠については、確保した。 ○翌年度新たに開設する大学院コースについて、教員の授業上限数改善を図った。 ○目標実績 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) :1名 ・研究費に占める研究奨励交付金の割合 :30%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		40																		
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○ベストティーチャーの公募を行い、ベストティーチャーを選定した。 ○研究奨励交付金における学長留保分5%枠を確保した。 ○新たに開設する大学院コースについて、教員の授業上限数改善を図った。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>教員表彰の実施</td><td>未実施</td><td>2名</td><td>該当者なし</td><td>1名</td><td></td><td></td></tr><tr><td>研究費に占める研究奨励金の割合: 30%</td><td>30.0%</td><td>30.0%</td><td>30.0%</td><td>30.0%</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○教員表彰制度を運用する。 ○理事長・学長裁量経費を確保する。 ○コース等を新設する際に教員の担当授業科目数の上限数改善を図る。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	教員表彰の実施	未実施	2名	該当者なし	1名			研究費に占める研究奨励金の割合: 30%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%			B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																					
教員表彰の実施	未実施	2名	該当者なし	1名																							
研究費に占める研究奨励金の割合: 30%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%																							

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※1 運営体制の 改善 の続き	3【教員の個人業績評価システムの 改善】 ①教員の個人業績評価システムを 改善し、効率化を図るとともに、より 妥当な評価基準を作成する。 ②個人業績評価基準見直し検討委 員会を設置し、先行している国立大 学や公立大学の実態を調査、教員 に対するヒアリングの実施、第一期 における個人業績評価結果の分析 を行い、改善案を策定する。	3-1	【平成27年度計画】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○平成25年度に見直した教員個人業績評価基準の 周知を図る。	1	1	【平成27年度の実施状況】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○平成25年度に見直した教員個人業績評価基準に基づき、平成26年度分の個人業績評価を実施した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		41		
						【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成24年度から教員個人業績評価基準の見直しに関する検討を行い、平成25年度に見直し方針・見直し案を策定した。 見直した教員個人業績評価基準に基づく教員個人業績評価は、平成27年度(平成26年度分)から実施した。 【平成28、29年度の実施予定】 ○見直した教員個人業績評価基準に基づく教員個人業績評価を実施する。		A			【高く評価する点】 ・教員個人業績評価を大幅に見 直し、学長評価を20%分導入し た。 【実施(達成)できなかった点】	中期 41

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号		
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度	
※1 運営体制の改善 の続き	4【リスクマネジメント体制の整備】 ①他大学の体制調査・リスクの洗い出し作業等を実施する。 ②リスクに対応したマニュアルを作成してリスクマネジメント体制を整備する。	4-1	【平成27年度計画】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○危機管理マニュアルの策定		【平成27年度の実施状況】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○大学全体のマニュアルとなる「危機管理基本マニュアル」を2月に作成した。			B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			42
						【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成24年度に実施した他公立大学のリスクマネージメント体制の調査、潜在するリスクの洗い出し作業を基に、平成25年度に基本指針（案）、洗い出したリスク別の対応方法（案）を作成した。 平成26年度に基本指針及び危機管理規定を決定し、平成27年度に危機管理マニュアルを策定した。 【平成28、29年度の実施予定】 ○必要に応じ、各個別マニュアルの修正を図る。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 42		
					1							
		ウェイト総計	中期 4	27年度 4				項目数計			中期 4	27年度 4

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

業務運営に関する特記事項(平成27年度)	
なし	
業務運営に関する特記事項(平成24年度～平成27年度)	
(平成25年度) ①福岡県立大学憲章を制定した。 ②学内委員会・部会の抜本的見直しをおこなった。教員の負担等に配慮し、再編統合により委員会・部会数を減じた。また、理事長のもと、全学的課題の改革推進を担当する改革推進委員会を学内協議機関として新たに設置した。	
(平成26年度) ③組織規則を改正し、理事長のもとに新たに5つの委員会(総務人事委、予算委、教務入試委、学生委、地域連携委)を学内協議機関として設置した。この主要5委員会のもとに全ての部会を位置づけ階層性を持たせた。理事長・学長のリーダーシップに基づく意志決定の流れを明確化し、部会の活性化をはかった。	

項目別の状況（年度計画項目・中期計画項目）

中期目標 5 財務		「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。																	
中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価 中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		データ 番 号	通し番号									
項目	実施事項			中期	年度					中期	年度								
1 自己収入の積極的確保 外部研究資金等の確保に対する取組を強化することにより自己収入の積極的確保を図る。	1【外部研究資金等の積極的確保】 ①受託研究、受託事業などの外部研究資金等の積極的獲得に全学的に取り組む。外部研究資金等獲得に向けた支援体制を整備する。 ②民間企業や同窓会組織に対して、寄附金等を増加させるための広報活動を戦略的に実施し、自主財源基金化スキームの実現に向けて検討する。 ○達成目標 ・外部研究資金等獲得額 ：年間5,000万円以上	1-1	【平成27年度計画】 【外部研究資金等の積極的確保】 ○ホームページへの外部研究資金公募情報掲載の充実 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○県大基金への寄附金等を増加させるための広報の実施 ○自主財源基金スキームの平成27年度実施に向けた検討 ○達成目標 ・外部研究資金等獲得金額：年間5,000万円以上	2	2	【平成27年度の実施状況】 【外部研究資金等の積極的確保】 ○ホームページへの外部研究資金公募情報については、適宜掲載した。 ○科研費応募率向上のための研修会を9/30に開催した。 ○県大基金への寄付金等を増加させるための広報を「大学広報」に掲載した。 ○自主財源基金スキームについては28年度実施に向けた検討を行った。 ○目標実績 ・外部研究資金等獲得金額：83,308千円	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.19 「研究」	43									
						【平成24～27年度の実施状況概略】 ○外部研究資金獲得の推進については、支援部門設立ではなく、申請繁忙期に事務局機能を強化・充実することとして実施した。ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めた。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を行った。科研費応募率向上のための研修会は毎年度開催した。 ○県大基金への寄附金等を増加させるための広報活動として、「大学広報」、大学HPへの掲載を行った。また、自主財源基金化スキームの実現に向けた検討を行った。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>外部研究資金等獲得金額：年間5,000万円以上（単位：千円）</td><td>111,003</td><td>100,551</td><td>111,682</td><td>83,308</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○科研費申請繁忙期における事務局機能の強化を継続する。 ○科研費応募者へのインセンティブ（助成）制度及び研修会の実施を継続し、科研費応募率の維持向上を図る。 ○自主財源基金スキームを実現し、広報紙及びHPを通じて基金広報に努める。					H24	H25	H26	H27	H28	H29	外部研究資金等獲得金額：年間5,000万円以上（単位：千円）	111,003	100,551
	H24	H25	H26	H27	H28	H29													
外部研究資金等獲得金額：年間5,000万円以上（単位：千円）	111,003	100,551	111,682	83,308															

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号									
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度								
2 運営経費の削減・抑制 業務改善による経費の削減と人件費の抑制に取り組む。	1【業務改善による経費の削減】 ①事務処理方法の見直しや外部委託などの業務改善を実施し経費の削減を図る。 ②エコ・省エネ型キャンパスの実現を図る。 ○達成目標 ・年度計画で設定	1-1	【平成27年度計画】 【業務改善による経費の削減】 ○消耗品の集中発注システムの活用 ○アウトソーシング可能な業務の検討 ○省エネ対策(節電対策)の推進 ○達成目標 ・業務改善件数 1件以上／年	1	1	【平成27年度の実施状況】 【業務改善による経費の削減】 ○消耗品の集中発注システムを活用した。 ○アウトソーシング可能な業務について検討を行った。 ○空調管理の徹底、照明の間引き、昼休みの消灯、エレベーター稼働台数の削減等を実施した。また、2度にわたり夏季の節電を呼びかけた。 ○電力購入において入札を実施し、電気料金を約600万円削減した。 ○目標実績 ・業務改善件数 1件(電力購入において入札を実施)	1	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		44									
						【平成24～27年度の実施状況概略】 ○業務改善については、物品発注方法の見直しとして、消耗品の集中発注システムを導入し活用した。 アウトソーシング可能な業務の検討を行い、平成25年度から国際交流関係業務についてアウトソーシングを実施した。 また、授業評価アンケート等大量の集計作業のアウトソーシングについて検討した。 ○省エネ対策(節電対策)については、空調管理の徹底、照明の間引き、昼休みの消灯、エレベーター稼働台数の削減等を実施し、夏期の節電を呼びかけた。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>業務改善件数：年1件以上</td><td>3件</td><td>1件</td><td>2件</td><td>1件</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○消耗品集中発注システムの活用やアウトソーシングの検討を継続する。 ○省エネ対策(節電対策)の推進を継続する。				H24		H25	H26	H27	H28	H29	業務改善件数：年1件以上	3件	1件	2件
	H24	H25	H26	H27	H28	H29														
業務改善件数：年1件以上	3件	1件	2件	1件																

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号													
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度												
※2 運営経費の削減・抑制の続き	2【人件費の抑制】 ①教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、人件費の抑制を図る。 ○達成目標 年度計画で設定	2-1	【平成27年度計画】 【人件費の抑制】 ○教育研究水準の維持・向上に配慮した退職教員の補充における若手教員の採用 ○時間外勤務縮減施策の検討 ○達成目標 ・平成27年度時間外勤務時間数が前年度を下回ること(H27年度新規事業分を除く)	1	【平成27年度の実施状況】 【人件費の抑制】 ○退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮した教員採用を行った(8名)。 ○土日の時間外勤務について、週休日振替を徹底した。 ○目標実績 ・平成27年度時間外勤務時間数： 前年度比 ▲22.5% (26年度 13,904H → 27年度 10,774H)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.31 「経費削減」	45														
						1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、若手教員の採用に努めた。 ○時間外勤務縮減の一環として、土日の時間外勤務における週休日振替の徹底を呼びかけた。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>時間外勤務時間数：前年度を下回ること</td><td>508</td><td>▲ 318</td><td>512</td><td>▲ 3,130</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○退職教員の補充においては、教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、若手教員を採用する。 ○時間外勤務の縮減を引き続き徹底する。		H24	H25	H26	H27	H28	H29	時間外勤務時間数：前年度を下回ること	508	▲ 318	512	▲ 3,130			B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																	
時間外勤務時間数：前年度を下回ること	508	▲ 318	512	▲ 3,130																			
		ウェイト総計		中期 4	27年度 4	項目数計			中期 3	27年度 3													

- 【ウェイト付けの理由】(年度計画)
- ・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。
- 【ウェイト付けの理由】(中期計画)
- ・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。

財務に関する特記事項(平成27年度)
なし
財務に関する特記事項(平成24年度～平成27年度)
なし

項目別の状況（年度計画項目・中期計画項目）

中期目標 6 評価及び情報公開	「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。」 (1) 評価 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。 (2) 情報公開 学生や保護者等に対し適切かつ迅速に情報を提供するとともに、社会のニーズに適応した大学情報を積極的に公開し大学の存在感を高める。
--------------------	---

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
1 自己点検・評価の効率的な実施 自己点検・評価及び各種評価結果を大学運営に反映し、改善を図る。	1【自己点検・評価の見直しと実施】 ①中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。 ②各教員の教育・研究・社会貢献の実績調査を実施し、教育・研究・社会貢献一覧を作成し、HPIに掲載する。 ③次期認証評価に向けて、必要なデータを蓄積する仕組みを検討し、認証評価の準備を行う。	1-1	【平成27年度計画】 【自己点検・評価の見直しと実施】 ○県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。 ○教員の教育・研究・社会貢献報告書を作成し、HPに掲載する。 ○平成28年度の認証評価の申請を行い、認証評価W.G.で具体的な作業を進める。		1	【平成27年度の実施状況】 ○県評価委員会の評価結果については、大学改革セミナーを開催し、全教職員に周知した(12/2)。部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させた。 ○平成27年度の教員の教育・研究・社会貢献の実績については、平成28年3月に作成しHPIに掲載した。 ○大学評価・学位授与機構へ、平成28年度大学機関別認証評価の申請を行った(9月)。 ○認証評価W.G.を中心にして、大学機関別認証評価に関わる自己点検評価書作成作業を進めた。(平成28年6月末提出予定)		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			46
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○県評価委員会からの評価結果については、部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させた。 ○毎年度、各教員の教育・研究・社会貢献の実績を取りまとめ、大学HPに公表した。 ○平成25年度に「内部質保証システム」の体制構築に向けて改革推進委員会を設置した。同年度からアニュアルレポートの作成を開始し、大学HPで公表した。平成26年度に自己点検及び評価に加えてIRを推進する自己点検評価室を設置した。平成27年度に認証評価W.G.を設置し、平成28年度大学機関別認証評価の受審に向けて準備を進めた。 【平成28、29年度の実施予定】 ○県評価委員会からの評価結果について、部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させる。 ○各教員の教育・研究・社会貢献の実績を取りまとめ、大学HPに公表する。 ○平成28年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施する大学機関別認証評価に関わる自己点検評価書を作成し、提出する。大学機関別認証評価の受審結果に対する課題を整理する。	B		【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 46	

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																								
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																						
2 広報活動の充実・強化 本学の教育理念、教育・研究内容、社会貢献活動等について積極的に情報公開し、県大ブランド力を高める。	1【県大ブランド力の強化】 効果的な広報活動による社会的プレゼンスの向上・メディアとの包括連携の推進を図る ①魅力あるHPの充実 ②県大ブランドとなる教育プログラム等の積極的広報 ③多様な媒体(出版物、マスメディア、車内広告、駅広告などの活用)や出前講義等を通した広報活動の充実 ④情報発信体制の整備 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回／年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上／年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上／年 全国版1件以上／年	1-1	【平成27年度計画】 【県大ブランド力の強化】 ○HPの更新を定期的にチェックするとともに、トップページのフラッシュを適宜変えていく ○教育プログラムにおける特色ある取組について、HPの教育情報の中の任意情報の充実 ○多様な媒体を通した積極的な広報活動の充実 ・「大学案内」及び「大学広報」などの広報パンフレットの刊行 ・高校への出前講義によるPR活動 ・福岡県広報の積極的活用 ○情報発信体制の整備 ・大学発のフォーラム・シンポジウムの積極的な記者資料提供 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回／年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上／年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上／年 全国版1件以上／年		1	【平成27年度の実施状況】 【県大ブランド力の強化】 ○HPの掲載情報更新チェックを3月に実施し、フラッシュについては年間3回更新した。 また、スマートフォンに対応したHPを新規に作成した。 ○教育プログラムにおける特色ある取組について、一部を更新した。 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動の充実 ・「大学案内」を7月に作成、「大学広報」を9月と3月に刊行した。 ・高校への出前講義は25回実施した。 ○情報発信体制の整備 ・11月の中国大学生訪問団受入等について、記者資料提供を行った。 ○目標実績 ・大学案内パンフレットの作成: 2種類 ・広報誌の作成: 2回/年 ・出前講義数及びアンケート: 出前講義25回、良好評価97.9% ・教育プログラムの紹介: 3件 ・メディアに取り上げられた件数: 地方版16件、海外1件(朝鮮日報)、TV2件		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.5 「出前講義」		47																																																					
					1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○HPの充実については、掲載情報の更新チェック体制を整備するとともに、フラッシュの定期的な変更を実施した。 平成27年度にはスマートフォンに対応したHPを新規に作成した。 ○教育プログラム等の広報については、HPで公表している教育情報の更新・充実を図った。文科省採択事業や「ブレ・インターンシップ」をはじめとする特色ある教育プログラム等の掲載や、「全学横断型教育プログラム」のバナー掲載を行った。 ○広報活動においては、「大学案内」、「大学広報」の刊行、高校への出前講義によるPR活動を実施した。 また、大学が実施する講座・セミナー、卒論公開発表会等の記者資料提供を積極的に行った。 ○目標実績 <table><tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>大学案内パンフレット作成: 2種類</td><td>1種類</td><td>2種類</td><td>2種類</td><td>2種類</td><td></td><td></td></tr><tr><td>広報誌の作成: 年2回発行</td><td>2回</td><td>2回</td><td>2回</td><td>2回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>出前講義: 20回以上</td><td>30回</td><td>26回</td><td>31回</td><td>25回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 アンケート: 良好評価75%以上</td><td>90.5%</td><td>98.9%</td><td>94.5%</td><td>97.9%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教育プログラム紹介の広報活動実績: 年3件以上</td><td>1件</td><td>7件</td><td>3件</td><td>3件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>メディアに取り上げられた件数: 地方版 5件以上</td><td>18件</td><td>18件</td><td>22件</td><td>16件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同 : 全国版 1件以上</td><td>2件</td><td>2件</td><td>2件</td><td>(1件)</td><td></td><td></td></tr></table> 【平成28、29年度の実施予定】 ○定期的なHPの更新状況チェックを行う。 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動を充実させる。 ○情報発信体制の整備を行う		H24	H25	H26	H27	H28	H29	大学案内パンフレット作成: 2種類	1種類	2種類	2種類	2種類			広報誌の作成: 年2回発行	2回	2回	2回	2回			出前講義: 20回以上	30回	26回	31回	25回			同 アンケート: 良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%			教育プログラム紹介の広報活動実績: 年3件以上	1件	7件	3件	3件			メディアに取り上げられた件数: 地方版 5件以上	18件	18件	22件	16件			同 : 全国版 1件以上	2件	2件	2件	(1件)				B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																											
大学案内パンフレット作成: 2種類	1種類	2種類	2種類	2種類																																																													
広報誌の作成: 年2回発行	2回	2回	2回	2回																																																													
出前講義: 20回以上	30回	26回	31回	25回																																																													
同 アンケート: 良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%																																																													
教育プログラム紹介の広報活動実績: 年3件以上	1件	7件	3件	3件																																																													
メディアに取り上げられた件数: 地方版 5件以上	18件	18件	22件	16件																																																													
同 : 全国版 1件以上	2件	2件	2件	(1件)																																																													
ウェイト総計		中期 2	27年度 2			項目数計		中期 2	27年度 2																																																								

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

評価及び情報公開に関する特記事項(平成27年度)
なし
評価及び情報公開に関する特記事項(平成24年度～平成27年度)
なし

特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。
※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとられなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。
なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特 記 事 項(平成27年度)	関連する通し番号
①文部科学省大学間連携共同教育推進事業の中間評価において、本学を代表校とする取組(8大学連携)が最高ランクのS評価を受けた。 47件の取組の中でS評価は7件であり、公立大学が代表校となる取組は全国で唯一のものであった。	9
②文部科学省大学教育再生加速プログラム(インターンシップ等を通じた教育強化)の中間評価において、本学を代表とする取組(3大学連携)が高く評価され、全国のモデルとなるよう今後の展開に期待しているとのコメントを得た。	9
③韓国の威徳大学との交流協定を締結した。	28
④外務省JENESYS2.0プログラムである日中友好会館中国大学生招聘事業の訪問先(社会福祉・ボランティア活動)として全国の大学で唯一本学が選定され、100名の中国大学生の訪問を受け入れた。	28
⑤4年次卒業を可能とする全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を整備した。	29
⑥不登校・ひきこもりサポートセンターをモデルとする部門開設を目的とする視察団(長崎国際大学・佐世保市)を受け入れた。	34

特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。
※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとられなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。
なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特 記 事 項(平成24年度～平成27年度)	関連する通し番号
(平成24年度) ①文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」において、本学を代表校とする九州・沖縄8大学の取組「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」が選定された。 ②文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」において、本学を含む24大学・短大の取組「地域力を生む自立的職業人育成プロジェクト」が選定された。 ③放送大学との連携協定を締結した。 ④ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアムの福岡県メンバー8校と福岡県警察本部及び関係警察署との間で、「キャンパス・セイフティ・ネットワーク(通称:CSN)」を構築し、展開するための協定を締結した。 (平成25年度) ⑤福岡県立大学憲章を制定した。 ⑥改革推進委員会の設置、学内委員会・部会の抜本的再編を行った。 (平成26年度) ⑦両学部で学ぶ専門科目に加え、専門的職業人に求められる能力を養成する教育プログラムである「全学横断型教育プログラム」を編成し、大学案内にも7頁にわたり記載して、学内外に広く周知した。全学横断型教育プログラムとして、今年度は「援助力養成プログラム」、「国際交流プログラム」、「キャリア形成支援プログラム」の3プログラムを編成し、今後更に拡充を図ることとしている。 ⑧11月1日～3日まで福岡県にて開催された「スペシャルオリンピックス2014」において、選手村の一つ(福岡県立社会教育総合センター)を本学学生が主となって運営した。参加学生は36名であり、不登校・ひきこもりサポートセンターの専門研究員が副村長としてコーディネートした。500名を超えるアスリートの選手村生活に際し、臨機応変に対応を行い、大学としては唯一、スペシャルオリンピックス2014実行委員会から表彰を受けた。 ⑨情報処理教室1及び2の機器更新に伴い、コンピュータを配置した演習室を整備し、学生が自己学習でき、大学院やゼミなど少人数でコンピュータを使用しながら講義ができる環境を整備した(3208演習室)。 ⑩ガバナンス改革の一環として、学内委員会・部会を抜本的に再編し、全部会を主要5委員会の下に位置付けた。これにより、意思決定の枠組みが明確となり、委員会・部会の活性化が図られた。 ⑪西鉄バス筑豊(株)との協議により、平成27年3月21日から「筑豊特急」線(福岡～田川伊田)が本学構内への乗り入れ(始発・終着)を開始し、本学学生・教職員のみならず、地域住民の利便性向上が図られた。	

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画				自己 評価
		計画		実績		
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)				—
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)－(a)	
		費用の部	1,862	1,795	▲ 67	
		経常費用	1,862	1,794	▲ 68	
		業務費	1,652	1,606	▲ 46	
		教育研究経費	313	316	3	
		受託研究費等	30	0	▲ 30	
		人件費	1,308	1,289	▲ 19	
		一般管理経費	209	185	▲ 24	
		(減価償却費 再掲)	(77)	(91)	▲ 14	
		財務費用	－	1	1	
		臨時損失	－	0	0	
		収益の部	1,862	1,875	13	
		経常収益	1,862	1,874	12	
		運営費交付金収益	1,018	1,036	18	
		授業料収益	569	548	▲ 21	
		入学金収益	116	120	4	
		検定料収益	25	26	1	
		その他業務収益	－	0	0	
		受託研究等収益	－	0	2	
		受託事業等収益	－	－	－	
		補助金等収益	31	37	6	
		寄付金収益	2	2	0	
		資産見返物品受贈額戻入	42	44	2	
		資産見返運営費交付金等戻入	4	3	▲ 1	
		資産見返寄附金戻入	2	1	▲ 1	
		資産見返補助金戻入	11	12	1	
		資産見返補償金戻入	0	0	0	
		財務収益	0	0	0	
		雑益	35	38	3	
		臨時利益	－	0	0	
		純利益	－	80	80	
		前中期目標期間繰越積立金取崩額	－	－	0	
目的積立金取崩額	－	－	0			
総利益	－	80	80			

	2. 資金計画予算	<table><tr><th>区分</th><th>予算額(a)</th><th>決算額(b)</th><th>差額 (b)－(a)</th></tr><tr><td>資金支出</td><td>1,922</td><td>1,949</td><td>27</td></tr><tr><td> 業務活動による支出</td><td>1,776</td><td>1,677</td><td>▲ 99</td></tr><tr><td> 投資活動による支出</td><td>11</td><td>34</td><td>23</td></tr><tr><td> 財務活動による支出</td><td>13</td><td>21</td><td>8</td></tr><tr><td> 翌年度への繰越金</td><td>121</td><td>216</td><td>95</td></tr><tr><td>資金収入</td><td>1,922</td><td>1,949</td><td>27</td></tr><tr><td> 業務活動による収入</td><td>1,800</td><td>1,827</td><td>27</td></tr><tr><td> 運営費交付金による収入</td><td>1,018</td><td>1,053</td><td>35</td></tr><tr><td> 授業料等による収入</td><td>711</td><td>694</td><td>▲ 17</td></tr><tr><td> 受託研究等による収入</td><td>－</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td> 補助金等による収入</td><td>31</td><td>37</td><td>6</td></tr><tr><td> 寄附金等による収入</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td></tr><tr><td> その他収入</td><td>35</td><td>39</td><td>4</td></tr><tr><td> 投資活動による収入</td><td>－</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td> 財務活動による収入</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td> 前中期目標期間繰越積立金取崩額</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td> 前年度からの繰越金</td><td>121</td><td>121</td><td>0</td></tr></table>	区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)－(a)	資金支出	1,922	1,949	27	業務活動による支出	1,776	1,677	▲ 99	投資活動による支出	11	34	23	財務活動による支出	13	21	8	翌年度への繰越金	121	216	95	資金収入	1,922	1,949	27	業務活動による収入	1,800	1,827	27	運営費交付金による収入	1,018	1,053	35	授業料等による収入	711	694	▲ 17	受託研究等による収入	－	0		補助金等による収入	31	37	6	寄附金等による収入	2	2	0	その他収入	35	39	4	投資活動による収入	－	0	0	財務活動による収入	0	0	0	前中期目標期間繰越積立金取崩額	－	－	－	前年度からの繰越金	121	121	0	
区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)－(a)																																																																								
資金支出	1,922	1,949	27																																																																								
業務活動による支出	1,776	1,677	▲ 99																																																																								
投資活動による支出	11	34	23																																																																								
財務活動による支出	13	21	8																																																																								
翌年度への繰越金	121	216	95																																																																								
資金収入	1,922	1,949	27																																																																								
業務活動による収入	1,800	1,827	27																																																																								
運営費交付金による収入	1,018	1,053	35																																																																								
授業料等による収入	711	694	▲ 17																																																																								
受託研究等による収入	－	0																																																																									
補助金等による収入	31	37	6																																																																								
寄附金等による収入	2	2	0																																																																								
その他収入	35	39	4																																																																								
投資活動による収入	－	0	0																																																																								
財務活動による収入	0	0	0																																																																								
前中期目標期間繰越積立金取崩額	－	－	－																																																																								
前年度からの繰越金	121	121	0																																																																								
Ⅱ 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。	該当なし	－																																																																								
Ⅲ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし	該当なし	－																																																																								
Ⅳ 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び組織運営の改善に充てる。	該当なし	－																																																																								
Ⅴ その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし	該当なし	－																																																																								